

明日の新潟市を展望する 基礎データ集

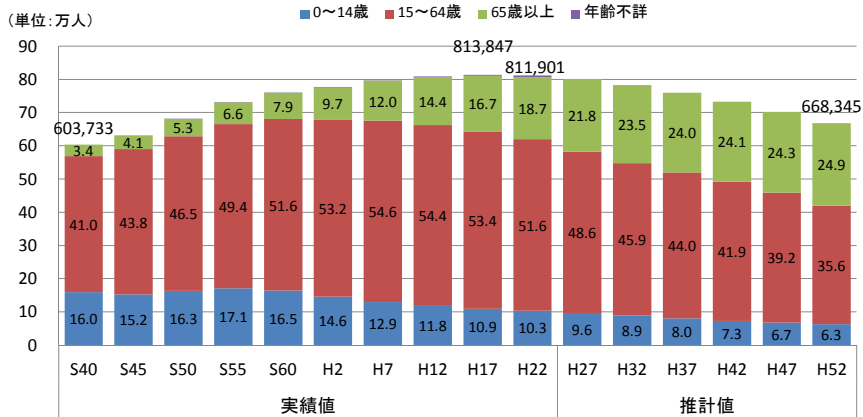
目次

| | | |
|-----|--------|-----|
| 1 | 人口 | 1 |
| 1-2 | 昼夜間人口 | 7 |
| 1-3 | 少子化 | 10 |
| 1-4 | 超高齢化 | 14 |
| 1-5 | 外国人 | 19 |
| 1-6 | 世帯 | 20 |
| 1-7 | 人口動態 | 23 |
| 2 | 子育て・教育 | 28 |
| 3 | 高齢者 | 39 |
| 4 | 障がい者 | 42 |
| 5 | 医療 | 43 |
| 6 | 雇用 | 45 |
| 7 | 住環境 | 51 |
| 8 | 公共交通 | 54 |
| 9 | 道路 | 58 |
| 10 | 港湾・空港 | 59 |
| 11 | 観光・交流 | 65 |
| 12 | 産業 | 69 |
| 13 | 農業 | 75 |
| 14 | 消費 | 78 |
| 15 | 環境 | 80 |
| 16 | 協働 | 81 |
| 17 | 土地利用 | 85 |
| 18 | 財政 | 87 |
| 19 | 公共施設 | 95 |
| 20 | 組織 | 100 |
| 21 | 職員 | 102 |
| 22 | 市政世論調査 | 104 |

1. 人口

本市の人口推移と推計人口

資料：国勢調査，国立社会保障・人口問題研究所

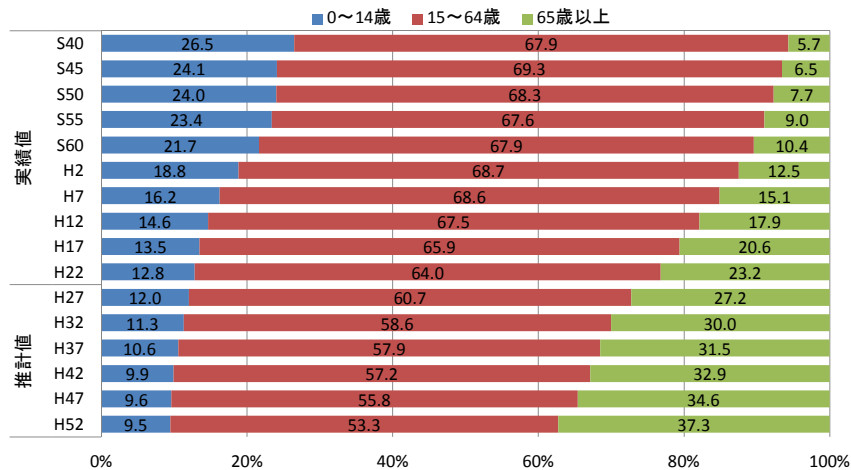


平成52年の本市の推計人口は668,345人となり、平成22年から143,556人減少。15~64歳人口は、平成52年には35.6万人となり16万人の減少となる。一方、65歳以上人口は、24.9万人になると推計されている。

1. 人口

本市の人口推移と推計人口における年齢構造の変化

資料：国勢調査，国立社会保障人口問題研究所

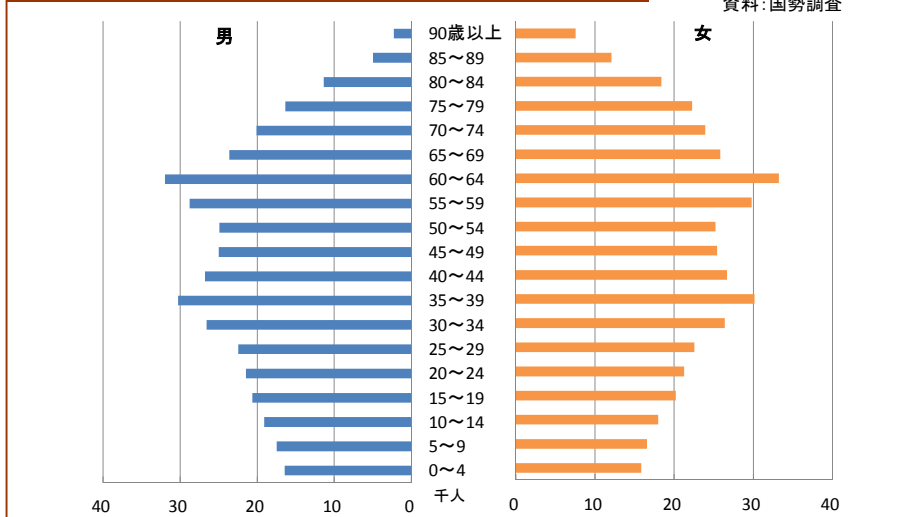


平成22年の0~14歳人口の割合は12.8%、65歳以上人口の割合が23.2%であるが、平成52年にはそれぞれ9.5%、37.3%になると推計されている。

1. 人口

本市の人口ピラミッド(H22)

資料：国勢調査

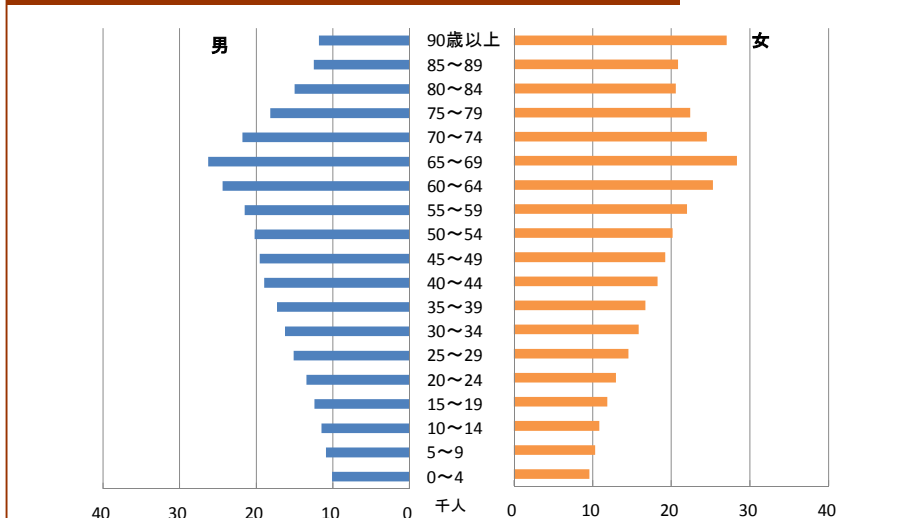


男女ともに「60~64歳」が最も多く、今後、高齢者数(65歳以上)が急激に増加する見込み。

1. 人口

本市の人口ピラミッド(H52)

資料：国立社会保障・
人口問題研究所

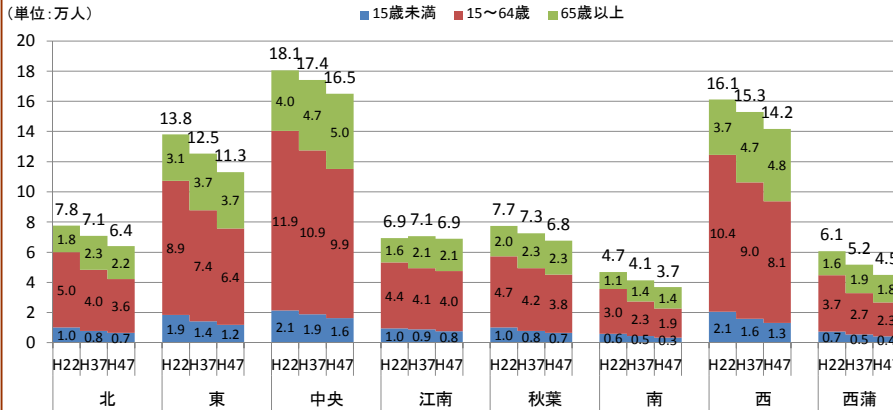


平成52年には女性では「90歳以上」が「65~69歳」に次いで2番目に多くなると推計されている。

1. 人口

区別 人口と推計人口

資料：国勢調査（推計値は国勢調査（H22）を基準として新潟市推計）

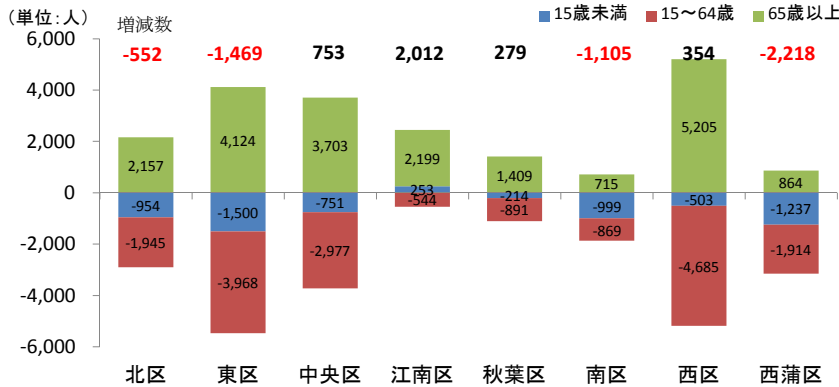


平成22年と平成47年の推計人口を比較すると、江南区以外の全区で人口が減少。年少人口（15歳未満）及び生産年齢人口（15～64歳）は、全区で減少。老年人口（65歳以上）は全区で増加。

1. 人口

区別 年齢別増減数 (H17→H22)

資料：国勢調査（H22）



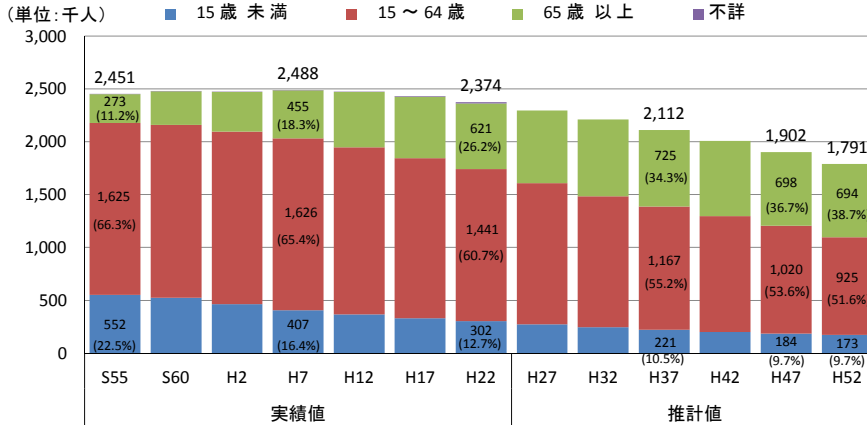
※年齢不詳の増減数を除いているので、各年齢を合計しても増減数に一致しません。

江南区が2,012人と最も多く増加し、中央区、西区、秋葉区が増加。
一方、減少した区では、西蒲区が2,218人と最も減少し、東区、南区、北区で減少。
全区で65歳以上人口が増加し、15～64歳人口は減少し、15歳未満人口は江南区のみが増加。

1. 人口

本県の人口推移と推計人口

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

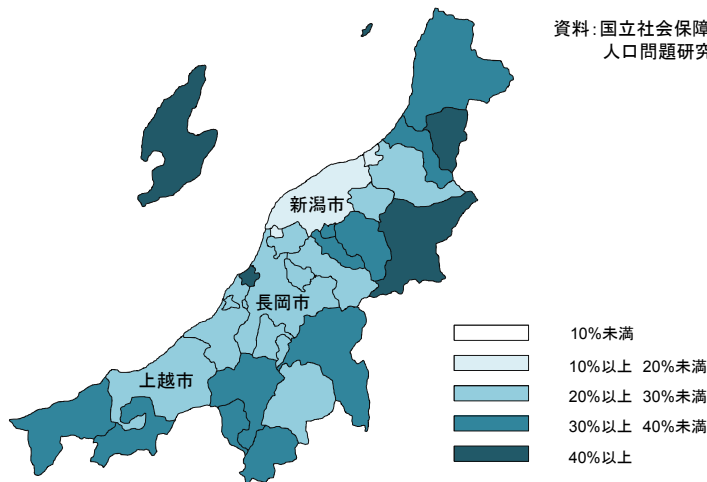


本県の人口は、本市と同様に今後も減少し続け、平成47年には200万人を割り込む見込みとなっている。0～14歳、15～64歳人口は大きく減少する一方、65歳以上人口は増加し平成37年にピークを迎えると推計されている。

1. 人口

県内市町村の人口減少率(H22→H52)

資料：国立社会保障・人口問題研究所



県内市町村のうち、人口減少率が10%以上20%未満と低いのは、本市と聖籠町、弥彦村であり、粟島浦村や阿賀町、出雲崎町、関川村、佐渡市では、40%以上と見込まれている。

1. 人口



県内20市の推計人口

資料：国立社会保障・人口問題研究所
(単位：人)

| | H22 | | H27 | | H32 | | H37 | | H42 | | H47 | | H52 | |
|------|-----------|-------|-----------|------|-----------|------|-----------|------|-----------|------|-----------|------|-----------|------|
| | 人口 | 指数 | 人口 | 指数 | 人口 | 指数 | 人口 | 指数 | 人口 | 指数 | 人口 | 指数 | 人口 | 指数 |
| 新潟県 | 2,374,450 | 100.0 | 2,297,441 | 96.8 | 2,209,986 | 93.1 | 2,112,473 | 89.0 | 2,009,105 | 84.6 | 1,902,238 | 80.1 | 1,790,918 | 75.4 |
| 新潟市 | 811,901 | 100.0 | 800,925 | 98.6 | 783,049 | 96.4 | 759,686 | 93.6 | 732,298 | 90.2 | 701,875 | 86.4 | 668,345 | 82.3 |
| 長岡市 | 282,674 | 100.0 | 274,510 | 97.1 | 265,066 | 93.8 | 254,389 | 90.0 | 242,891 | 85.9 | 230,832 | 81.7 | 218,190 | 77.2 |
| 三条市 | 102,292 | 100.0 | 98,758 | 96.5 | 94,777 | 92.7 | 90,277 | 88.3 | 85,486 | 83.6 | 80,581 | 78.8 | 75,546 | 73.9 |
| 柏崎市 | 91,451 | 100.0 | 87,630 | 95.8 | 83,646 | 91.5 | 79,361 | 86.8 | 74,940 | 81.9 | 70,415 | 77.0 | 65,718 | 71.9 |
| 新発田市 | 101,202 | 100.0 | 96,830 | 95.7 | 92,243 | 91.1 | 87,382 | 86.3 | 82,411 | 81.4 | 77,324 | 76.4 | 71,988 | 71.1 |
| 小千谷市 | 38,600 | 100.0 | 37,092 | 96.1 | 35,473 | 91.9 | 33,756 | 87.5 | 31,980 | 82.8 | 30,182 | 78.2 | 28,370 | 73.5 |
| 加茂市 | 29,762 | 100.0 | 27,953 | 93.9 | 26,212 | 88.1 | 24,379 | 81.9 | 22,515 | 75.7 | 20,659 | 69.4 | 18,816 | 63.2 |
| 十日町市 | 58,911 | 100.0 | 55,643 | 94.5 | 52,345 | 88.9 | 48,967 | 83.1 | 45,611 | 77.4 | 42,392 | 72.0 | 39,287 | 66.7 |
| 見附市 | 41,862 | 100.0 | 40,554 | 96.9 | 39,025 | 93.2 | 37,280 | 89.1 | 35,405 | 84.6 | 33,459 | 79.9 | 31,440 | 75.1 |
| 村上市 | 66,427 | 100.0 | 61,978 | 93.3 | 57,731 | 86.9 | 53,410 | 80.4 | 49,162 | 74.0 | 45,060 | 67.8 | 41,073 | 61.8 |
| 燕市 | 81,876 | 100.0 | 79,583 | 97.2 | 76,861 | 93.9 | 73,636 | 89.9 | 70,063 | 85.6 | 66,371 | 81.1 | 62,613 | 76.5 |
| 糸魚川市 | 47,702 | 100.0 | 45,188 | 94.7 | 42,593 | 89.3 | 39,889 | 83.6 | 37,231 | 78.0 | 34,687 | 72.7 | 32,265 | 67.6 |
| 妙高市 | 35,457 | 100.0 | 33,087 | 93.3 | 30,854 | 87.0 | 28,609 | 80.7 | 26,440 | 74.6 | 24,333 | 68.6 | 22,251 | 62.8 |
| 五泉市 | 54,550 | 100.0 | 51,885 | 95.1 | 49,167 | 90.1 | 46,254 | 84.8 | 43,268 | 79.3 | 40,264 | 73.8 | 37,169 | 68.1 |
| 上越市 | 203,899 | 100.0 | 197,419 | 96.8 | 190,075 | 93.2 | 182,008 | 89.3 | 173,557 | 85.1 | 164,892 | 80.9 | 155,979 | 76.5 |
| 阿賀野市 | 45,560 | 100.0 | 43,679 | 95.9 | 41,706 | 91.5 | 39,648 | 87.0 | 37,563 | 82.4 | 35,442 | 77.8 | 33,172 | 72.8 |
| 佐渡市 | 62,727 | 100.0 | 57,909 | 92.3 | 53,289 | 85.0 | 48,777 | 77.8 | 44,552 | 71.0 | 40,697 | 64.9 | 37,109 | 59.2 |
| 魚沼市 | 40,361 | 100.0 | 37,616 | 93.2 | 35,102 | 87.0 | 32,630 | 80.8 | 30,225 | 74.9 | 27,877 | 69.1 | 25,556 | 63.3 |
| 南魚沼市 | 61,624 | 100.0 | 59,690 | 96.9 | 57,550 | 93.4 | 55,334 | 89.8 | 53,025 | 86.0 | 50,633 | 82.2 | 48,024 | 77.9 |
| 胎内市 | 31,424 | 100.0 | 29,831 | 94.9 | 28,173 | 89.7 | 26,466 | 84.2 | 24,732 | 78.7 | 22,957 | 73.1 | 21,147 | 67.3 |

※指数：H22=100とした場合

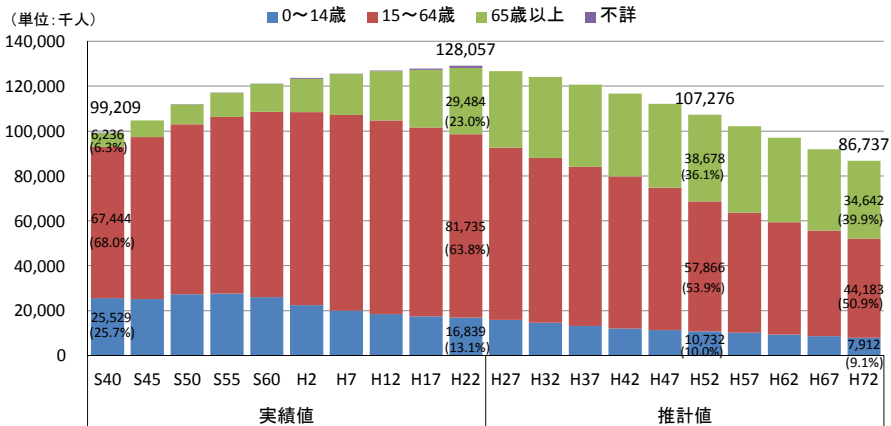
平成22年以降、県内20市全てで人口減少が続き、平成52年には本県の人口は約179万人となり、平成22年と比較し、約75%まで減少すると推計されている。

1. 人口



日本の人口推移と推計人口

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

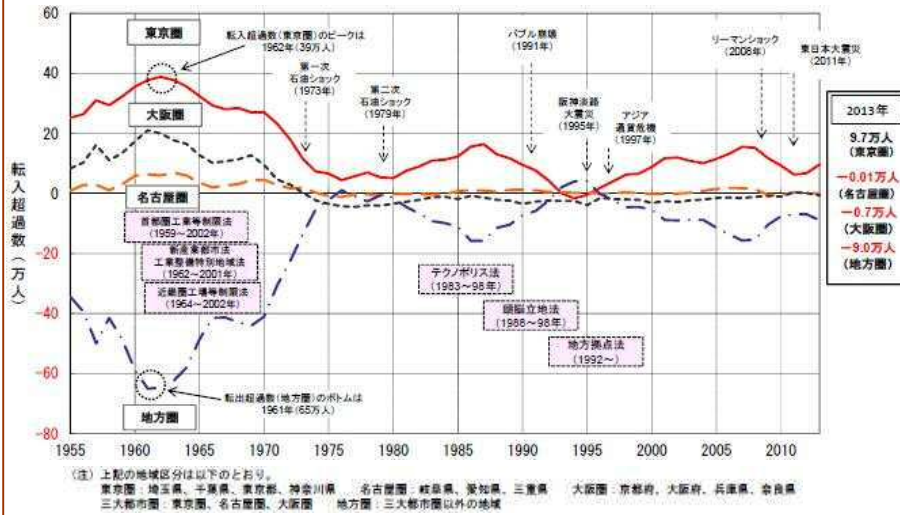


日本の人口は今後減少し、平成72年には現在より約4,132万人減少する見通しになっている。また0~14歳、15~64歳人口は減少し続けるが、65歳以上人口は増加し、平成50年代中頃にピークを迎えると推計されている。

1. 人口

日本の人口移動

資料：国土交通省



1. 人口

政令市別 人口移動(H17→H22)

資料：国勢調査
(単位：人)

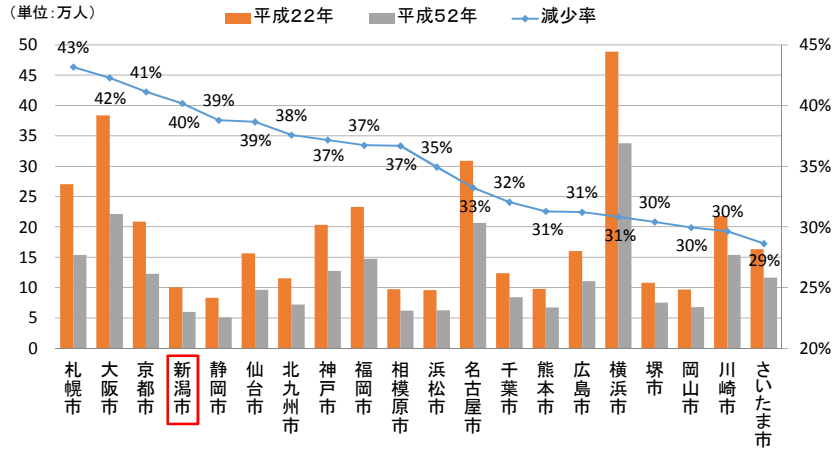
| 順位 | 都市名 | 平成22年 | 増減数 | 増減率 (%) | 対全国構成比 (%) |
|----|-------|-----------|---------|---------|------------|
| 1 | 横浜市 | 3,688,773 | 109,145 | 3.0 | 2.9 |
| 2 | 大阪市 | 2,665,314 | 36,503 | 1.4 | 2.1 |
| 3 | 名古屋市 | 2,263,894 | 48,832 | 2.2 | 1.8 |
| 4 | 札幌市 | 1,913,545 | 32,682 | 1.7 | 1.5 |
| 5 | 神戸市 | 1,544,200 | 18,807 | 1.2 | 1.2 |
| 6 | 京都市 | 1,474,015 | -796 | -0.1 | 1.2 |
| 7 | 福岡市 | 1,463,743 | 62,464 | 4.5 | 1.1 |
| 8 | 川崎市 | 1,425,512 | 98,501 | 7.4 | 1.1 |
| 9 | さいたま市 | 1,222,434 | 46,120 | 3.9 | 1.0 |
| 10 | 広島市 | 1,173,843 | 19,452 | 1.7 | 0.9 |
| 11 | 仙台市 | 1,045,986 | 20,860 | 2.0 | 0.8 |
| 12 | 北九州市 | 976,846 | -16,679 | -1.7 | 0.8 |
| 13 | 千葉市 | 961,749 | 37,430 | 4.0 | 0.8 |
| 14 | 堺市 | 841,966 | 11,000 | 1.3 | 0.7 |
| 15 | 新潟市 | 811,901 | -1,946 | -0.2 | 0.6 |
| 16 | 浜松市 | 800,866 | -3,166 | -0.4 | 0.6 |
| 17 | 相模原市 | 717,544 | 15,924 | 2.3 | 0.6 |
| 18 | 静岡市 | 716,197 | -7,126 | -1.0 | 0.6 |
| 19 | 岡山市 | 709,584 | 13,412 | 1.9 | 0.6 |

本市の人口は、19政令市中15位。平成17年と比較すると、ほとんどの都市で人口が増加しているが、北九州市では16,679人減少しており、本市、静岡市、浜松市、京都市でもわずかに減少。

1. 人口

若年女性(20~39歳)人口と減少率

資料: 国立社会保障・人口問題研究所

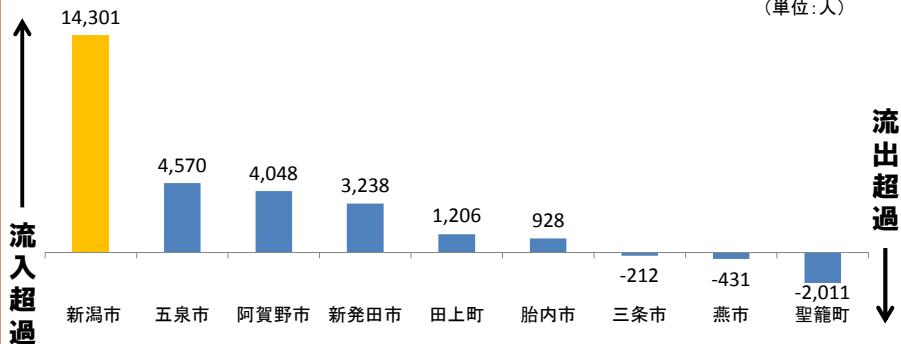


本市の子どもを産む中心世代の若年女性(20~39歳)人口は、平成22年の約10万人が平成52年には約6万人となり、政令市の中で4番目に高い40%の減少率と推計されている。

1-2. 昼夜間人口

県内市町村別 昼夜間人口の差 (本市への流入・流出)

資料: 国勢調査(H22)
(単位: 人)

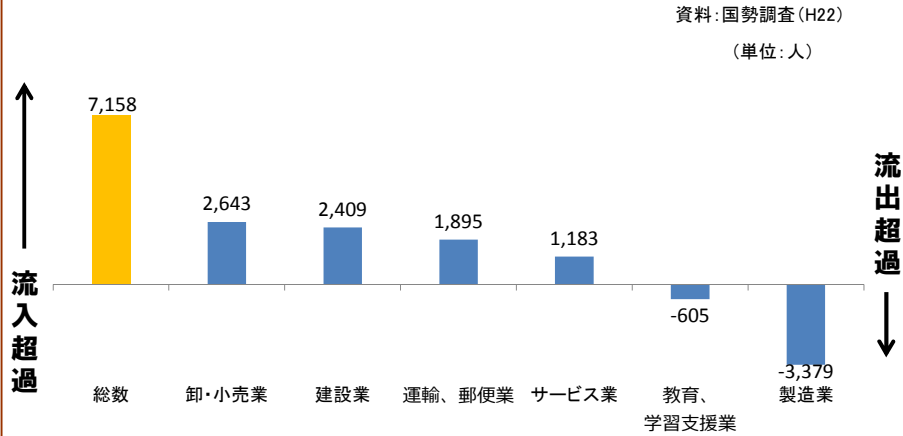


※昼間人口: 従業地・通学値による人口 ※夜間人口: 常住地による人口

五泉市からの流入超過が4,570人と最も多く、阿賀野市、新発田市、田上町、胎内市が続く。流出超過は聖籠町への2,011が最も多く、燕市、三条市が続いている。

1-2. 昼夜間人口

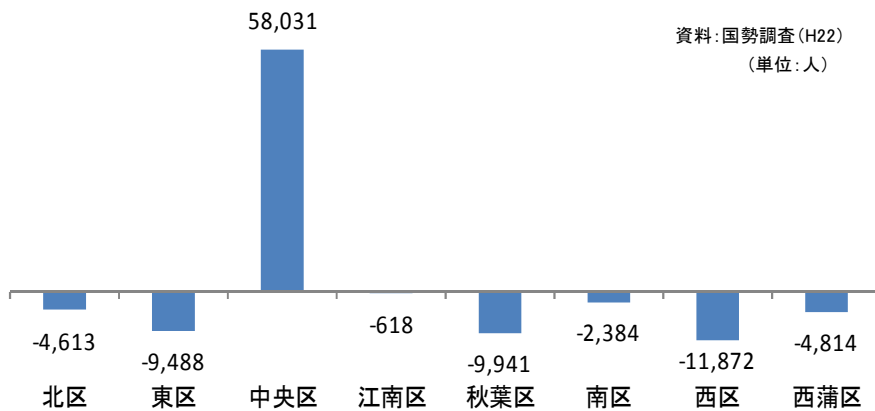
本市の産業別 昼夜間人口の差(就業者数)



産業別では、卸・小売業の就業者が多く流入し、製造業の就業者が多く流出している。

1-2. 昼夜間人口

区別 昼夜間人口の差



区別で比較すると、中央区だけが流入超過。他の区は全て流出超過となっており、西区が最も多く11,872人の流出超過となっている。

1-2. 昼夜間人口

区別 昼夜間人口差の内訳

資料：国勢調査(H22)
(単位：人)

| 順位 | 北区 | | 東区 | | 中央区 | | 江南区 | |
|----|------|------|--------|------|---------|--------|------|-------|
| | 1 | 中央区 | -3,822 | 中央区 | -11,413 | 湯沢町 | -9 | 中央区 |
| 2 | 聖籠町 | -881 | 聖籠町 | -683 | | | 聖籠町 | -192 |
| 3 | 東区 | -630 | 江南区 | -283 | | | 長岡市 | -135 |
| 4 | 新発田市 | -289 | 長岡市 | -173 | | | 三条市 | -32 |
| 5 | 江南区 | -214 | 三条市 | -39 | | | 上越市 | -17 |
| 1 | 秋葉区 | 346 | 秋葉区 | 897 | 西区 | 14,009 | 秋葉区 | 1,575 |
| 2 | 阿賀野市 | 313 | 北区 | 630 | 東区 | 11,413 | 阿賀野市 | 855 |
| 3 | 五泉市 | 188 | 新発田市 | 488 | 秋葉区 | 5,503 | 五泉市 | 543 |
| 4 | 胎内市 | 182 | 阿賀野市 | 439 | 江南区 | 4,386 | 東区 | 283 |
| 5 | 村上市 | 125 | 五泉市 | 392 | 北区 | 3,822 | 北区 | 214 |

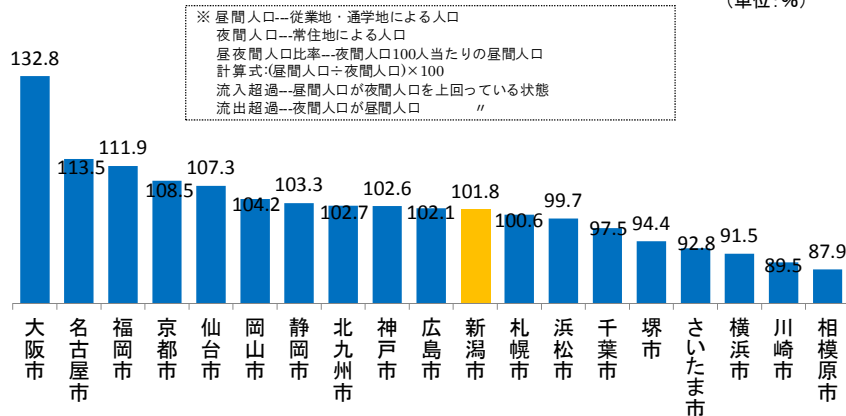
| 順位 | 秋葉区 | | 南区 | | 西区 | | 西蒲区 | |
|----|------|--------|--------|------|--------|------|---------|--------|
| | 1 | 中央区 | -5,503 | 中央区 | -1,953 | 中央区 | -14,009 | 中央区 |
| 2 | 江南区 | -1,575 | 西区 | -635 | 聖籠町 | -201 | 燕市 | -1,491 |
| 3 | 東区 | -897 | 三条市 | -364 | 長岡市 | -173 | 三条市 | -596 |
| 4 | 西区 | -666 | 燕市 | -318 | 江南区 | -91 | 西区 | -321 |
| 5 | 南区 | -614 | 江南区 | -185 | 東区 | -45 | 東区 | -133 |
| 1 | 五泉市 | 803 | 秋葉区 | 614 | 秋葉区 | 666 | 南区 | 114 |
| 2 | 阿賀野市 | 131 | 五泉市 | 356 | 南区 | 635 | 弥彦村 | 68 |
| 3 | 田上町 | 128 | 田上町 | 235 | 西蒲区 | 321 | 田上町 | 52 |
| 4 | 見附市 | 4 | 阿賀野市 | 123 | 五泉市 | 320 | 秋葉区 | 41 |
| 5 | 阿賀町 | 1 | 加茂市 | 103 | 阿賀野市 | 292 | 五泉市 | 34 |

中央区以外の区は、中央区への流出超過が最も多く、そのほか、北区、東区、江南区、西区は聖籠町、南区、西蒲区は燕市や三条市、秋葉区は他区への流出が多い。流入については、秋葉区は五泉市から多く流入しているが、それ以外の区は他区からの流入が多くなっている。

1-2. 昼夜間人口

政令市別 昼夜間人口比率

資料：国勢調査(H22)
(単位：%)

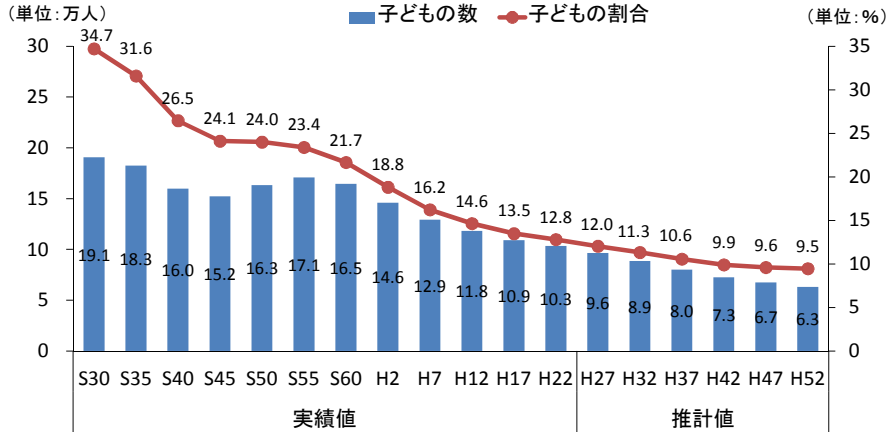


本市の昼夜間人口は826,202人、夜間人口811,901人より14,301人多く、流入超過。
 政令市別の昼夜間人口比率は、大阪府が最も高く、本市は19市中11番目。

1-3. 少子化

本市の子どもの数および割合の推移と推計

資料：国勢調査，国立社会保障・人口問題研究所

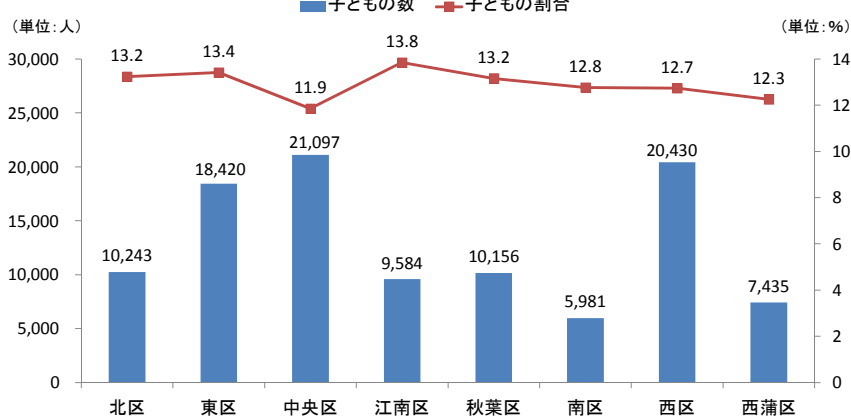


平成22年現在の本市の子どもの数(15歳未満)は103,346人、人口に対する子どもの割合は12.8%。平成52年の子どもの数は63,220人、割合は9.5%になると推計されている。

1-3. 少子化

区別 子どもの数と割合

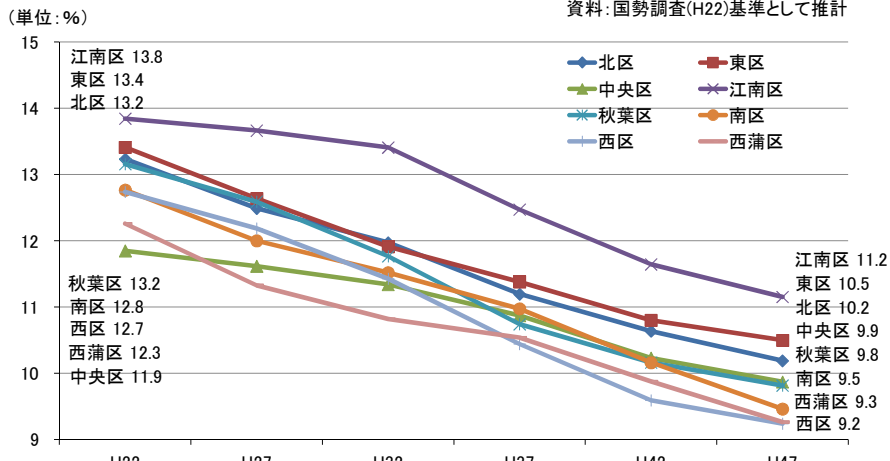
資料：国勢調査(H22)



子どもの数(15歳未満)は中央区が21,097人で最も多く、西区、東区と続き、この3区で本市の子どもの数の約6割を占めている。区の人口に対する子どもの割合は、江南区が13.8%で最も高い。中央区は子どもの数では最も多いが、割合では最も低くなっている。

1-3. 少子化

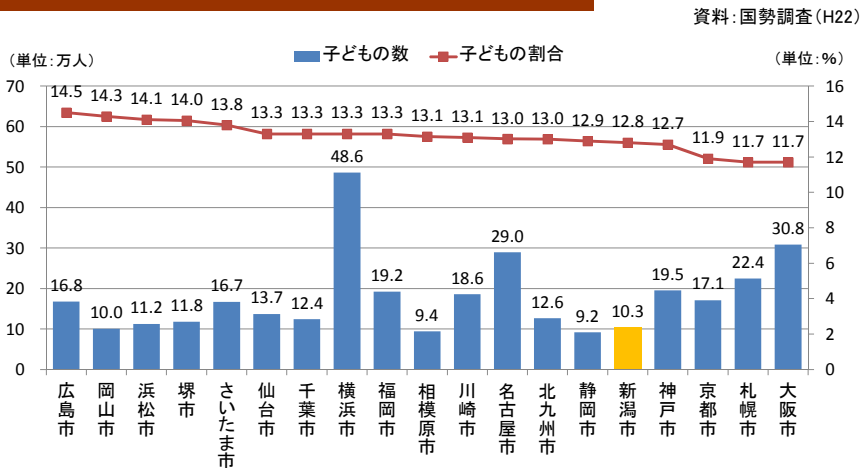
区別 子どもの割合の推計



人口全体に占める子どもの割合は今後も全区で減少し、平成47年には西区で9.2%と最も低く、次いで西蒲区、南区の順となり、最も高い江南区でも11.2%になると推計されている。

1-3. 少子化

政令市別 子どもの数と割合

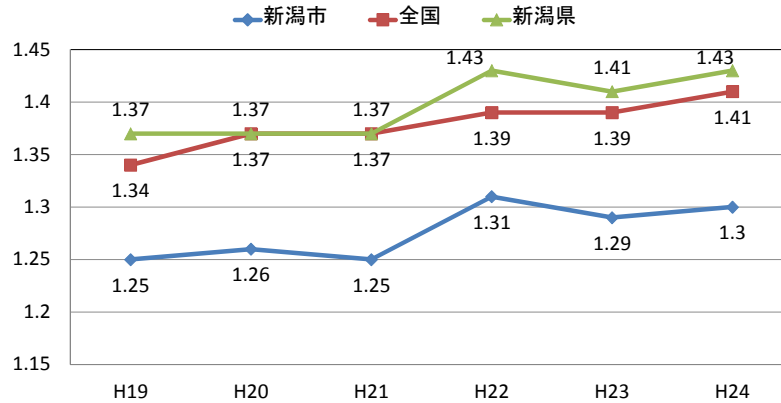


子どもの数(15歳未満)は横浜市が最も多く、割合は広島市が最も高い。本市の子どもの数は19政令市中16番目で、割合は15番目となっている。

1-3. 少子化

本市の合計特殊出生率の推移

資料：新潟県福祉保健年報



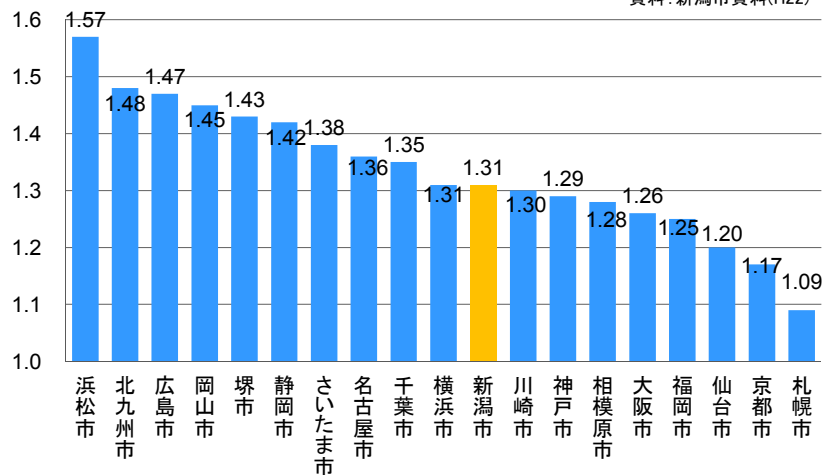
※合計特殊出生率：一人の女性が一生の間に生む子どもの数

本市の平成24年の合計特殊出生率は1.30であり、全国平均1.41および新潟県平均1.43を下回っている。

1-3. 少子化

政令市別 合計特殊出生率

資料：新潟市資料(H22)

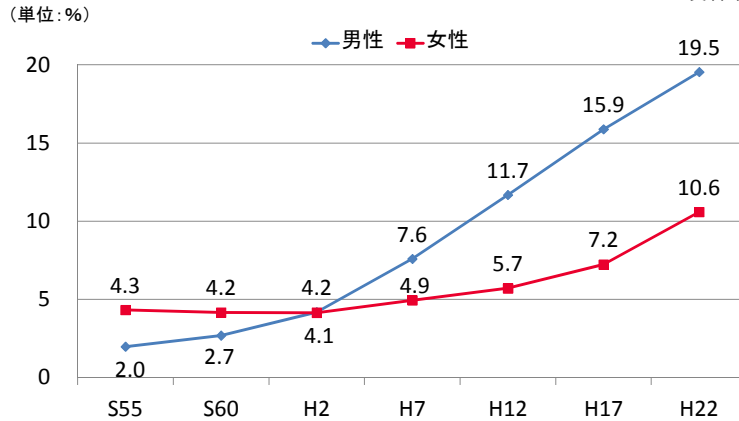


本市の合計特殊出生率は1.31で、全国平均1.39を下回り、19政令市中11番目。

1-3. 少子化

本市における生涯未婚率の推移

資料: 国勢調査

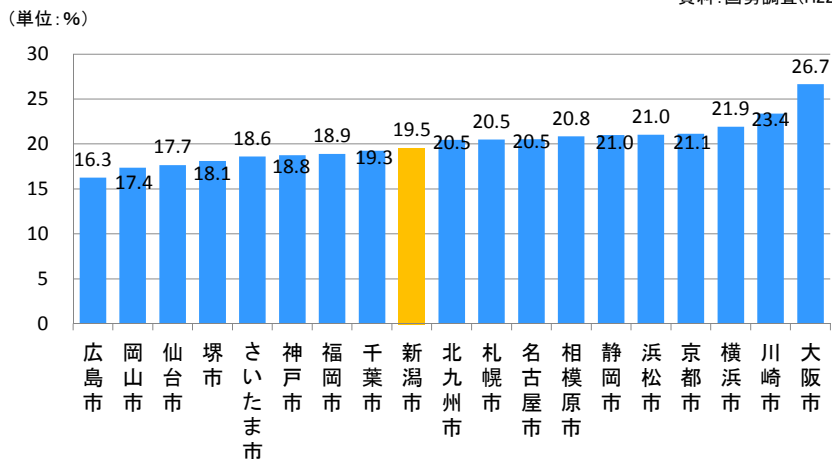


男性の生涯未婚率は平成7年に女性を上回り、以降は年々上昇し、平成22年には19.4%まで上昇。女性は平成7年から上昇しはじめ、平成22年には10%を超えた。

1-3. 少子化

政令市別 男性生涯未婚率

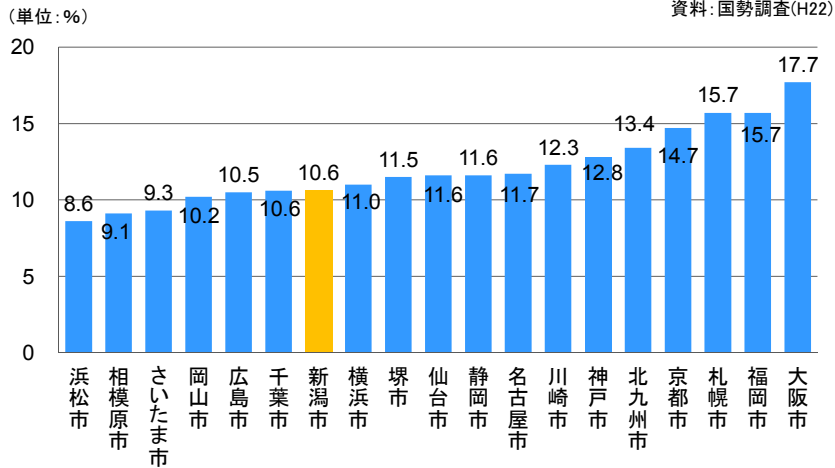
資料: 国勢調査(H22)



男性の生涯未婚率は大阪市が最も高く、本市は政令市平均20.2を下回っている。

1-3. 少子化

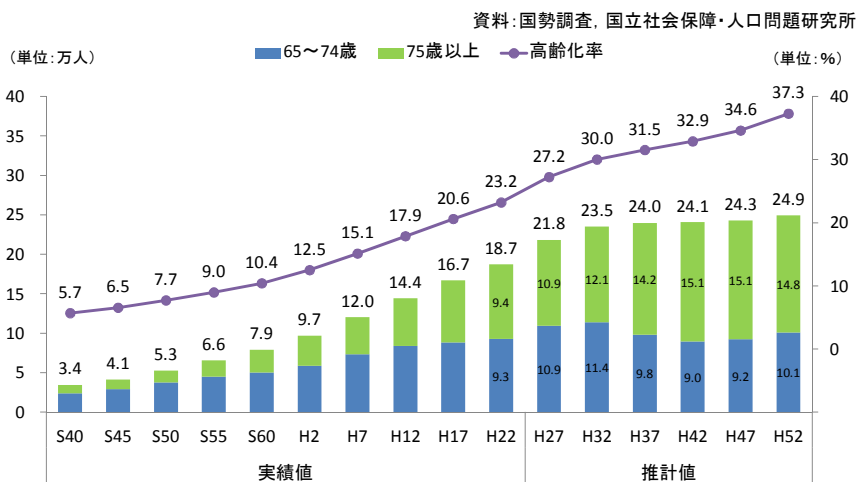
政令市別 女性生涯未婚率



女性の生涯未婚率も大阪市が最も高く、本市は政令市平均12.6を下回っている。

1-4. 超高齢化

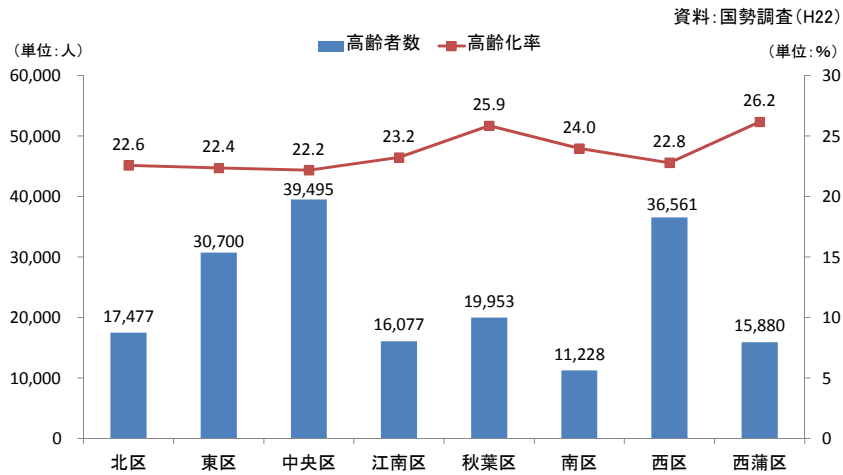
本市の高齢者数および高齢化率の推移と推計



本市の平成22年の高齢者数(65歳以上)は187,371人で、高齢化率は23.2%となっている。平成52年には249,221人、37.3%になると推計されている。

1-4. 超高齢化

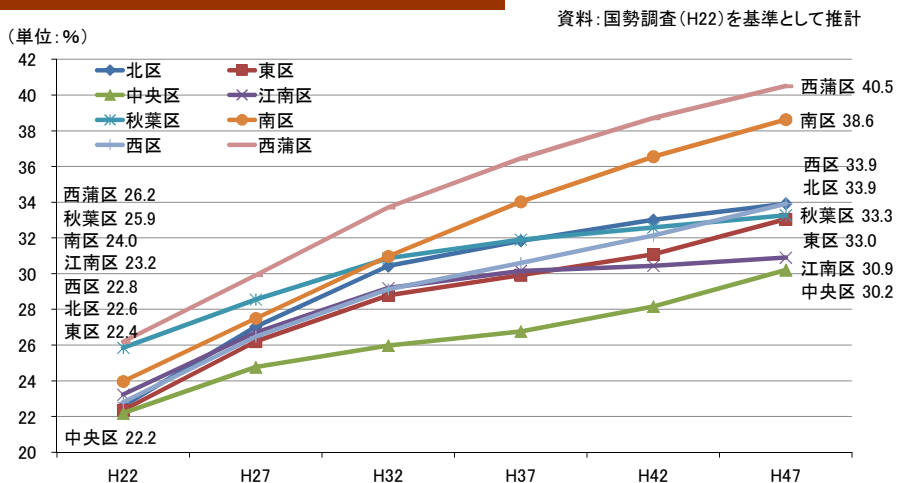
区別 高齢者数と高齢化率



高齢者数(65歳以上)は中央区が最も多く、西区、東区の順になっている。高齢化率は西蒲区、秋葉区、南区の順になっている。

1-4. 超高齢化

区別 高齢化率の推移

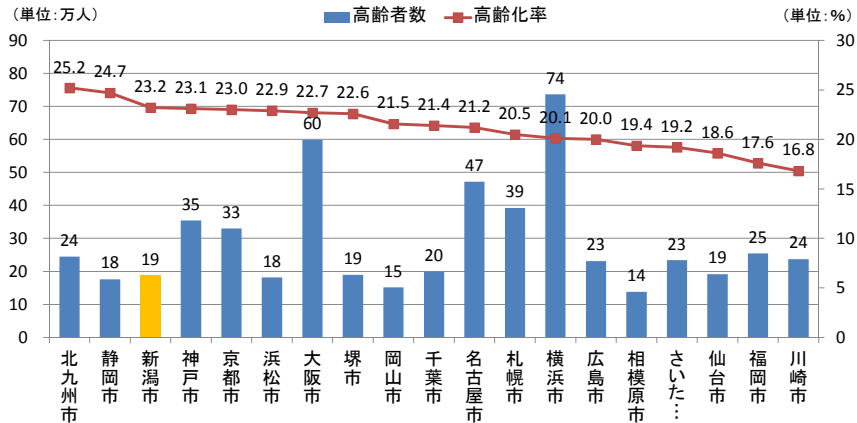


将来推計では、引き続き全区で高齢化率が上昇し、平成47年には西蒲区が40.5%と最も高く、南区、西区、北区、秋葉区と続き、最も低い中央区でも30.2%となる。

1-4. 超高齢化

政令市別 高齢者数と高齢化率

資料：国勢調査(H22)

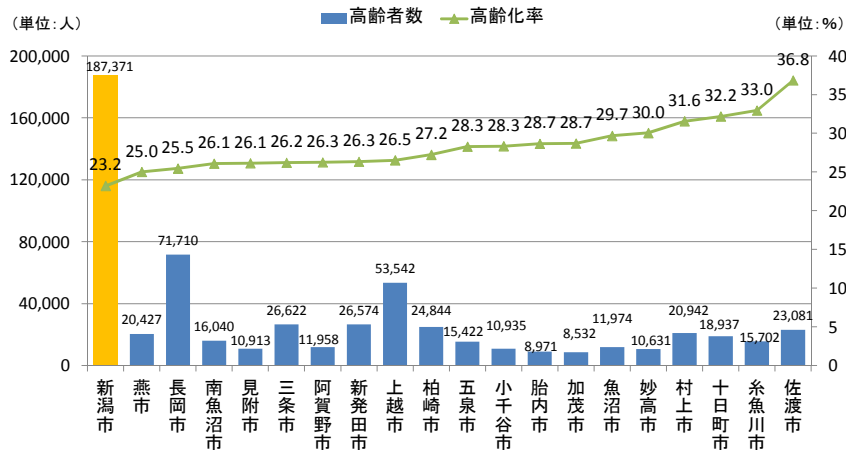


高齢者数(65歳以上)は横浜市が最も多く、高齢化率では、北九州市が最も高くなっている。本市は19都市中、高齢者数が15番目、高齢化率は高い方から3番目。

1-4. 超高齢化

県内各市の高齢者数と高齢化率

資料：国勢調査(H22)

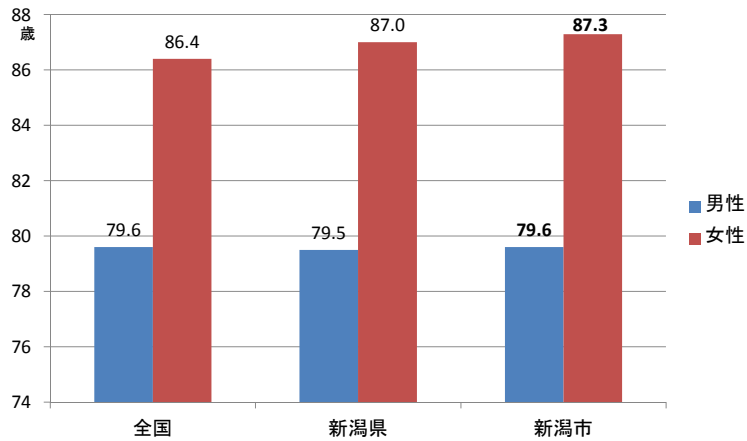


高齢者数(65歳以上)は本市が最も多く、高齢化率では、佐渡市が最も高くなっている。本市の高齢化率は20都市中、最も低い。

1-4. 超高齢化

本市の平均寿命

資料：厚生労働省 平成22年市区町村別生命表

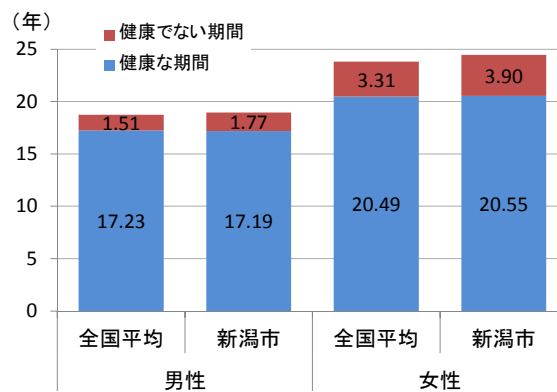


本市の平均寿命は、男性は全国並みであるが、女性は全国、新潟県を上回っている。

1-4. 超高齢化

本市の健康寿命

資料：新潟市保健所健康増進課

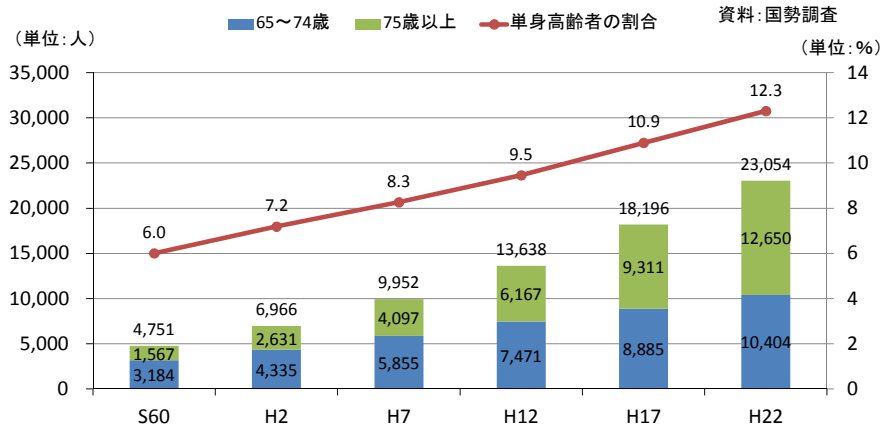


※65歳時点の平均余命年数のうち、日常生活が自立している期間(年数)と自立していない期間(年数)を表す

本市の健康寿命は男女ともに、「健康な期間」が全国平均を下回り、「健康でない期間」が長くなっている。

1-4. 超高齢化

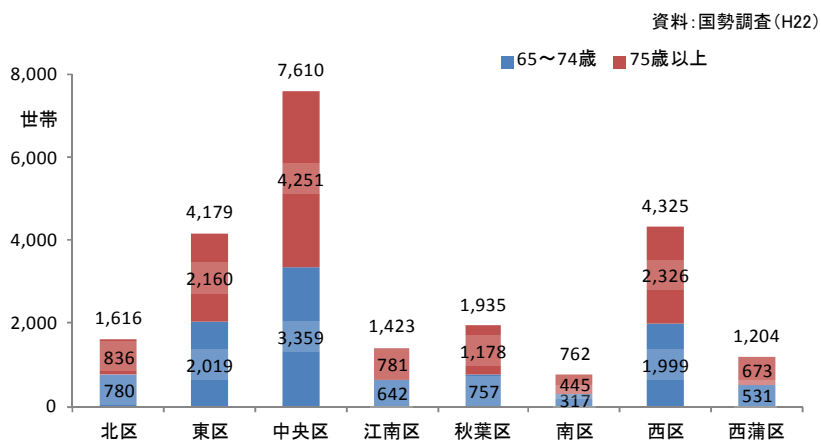
本市の単身高齢者数と高齢者人口に占める割合の推移



本市の単身高齢者数は平成22年には昭和60年の約5倍となり、高齢者人口に占める単身数の割合は12.3%となっている。75歳以上の単身高齢者数は昭和60年の約8倍となっており、平成17年からは65～74歳を上回っている。

1-4. 超高齢化

区別 単身高齢世帯数

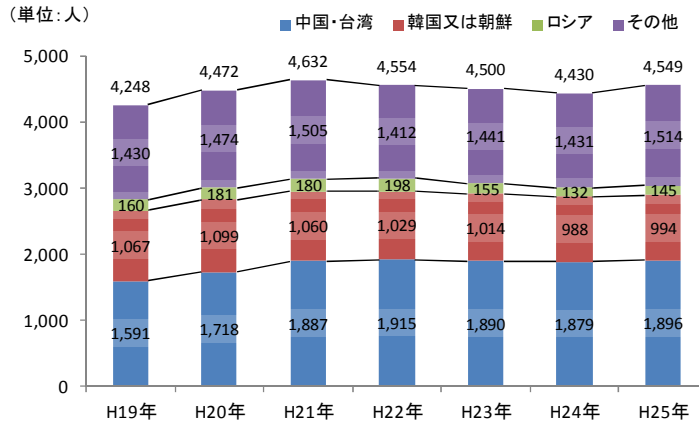


区別の単身高齢世帯数は中央区が最も多く、西区、東区の順となっており、3区で市全体の単身高齢世帯の約7割を占めている。

1-5. 外国人

本市における外国人人口の推移

資料：H23年までは外国人登録者数、
H24年以降は住民基本台帳人口(外国人)
(各年12月末現在)

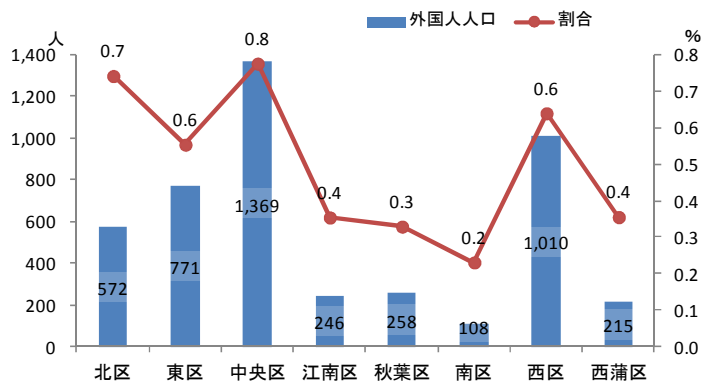


本市の外国人人口は、国籍では「中国・台湾」が最も多くなっている。

1-5. 外国人

区別 外国人人口と割合

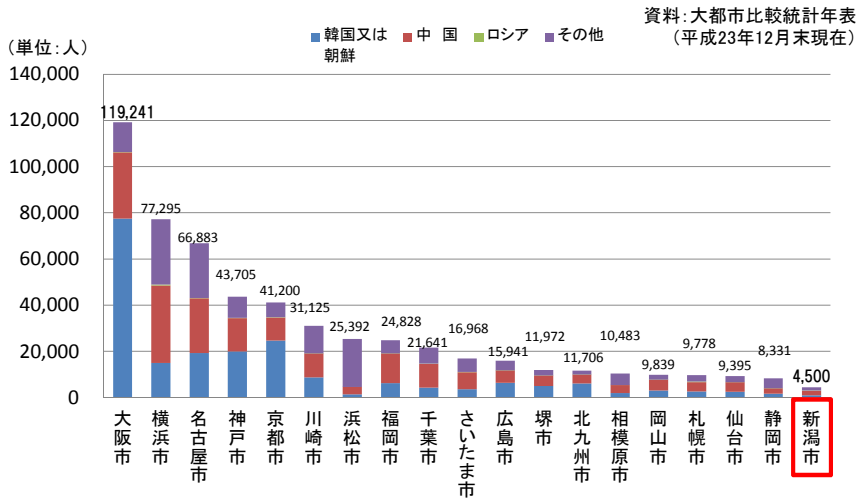
資料：H23年までは外国人登録者数、
H24年以降は住民基本台帳人口(外国人)
(平成25年12月末現在)



外国人人口は中央区が最も多く、西区、東区、北区の順となっている。外国人人口割合についても中央区が最も高く、北区、西区、東区が続いている。

1-5. 外国人

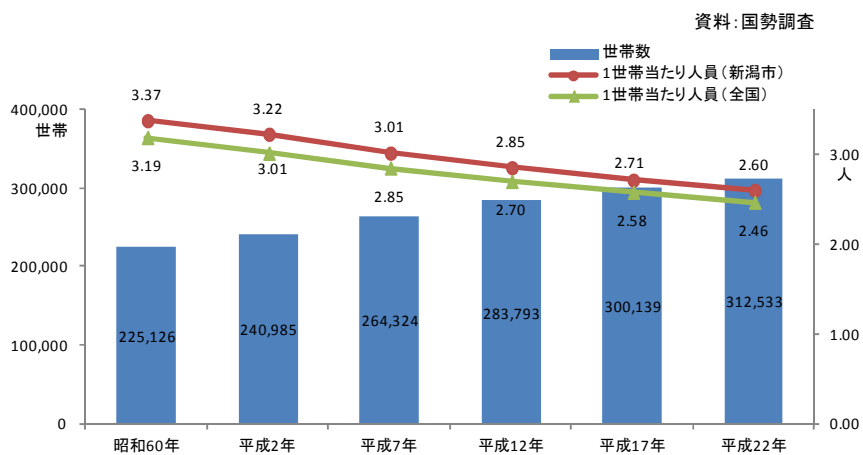
政令市国籍別 外国人登録者数



本市の平成23年12月末の外国人登録者数は、政令市の中で最下位。

1-6. 世帯

世帯数と1世帯当たり人員の推移

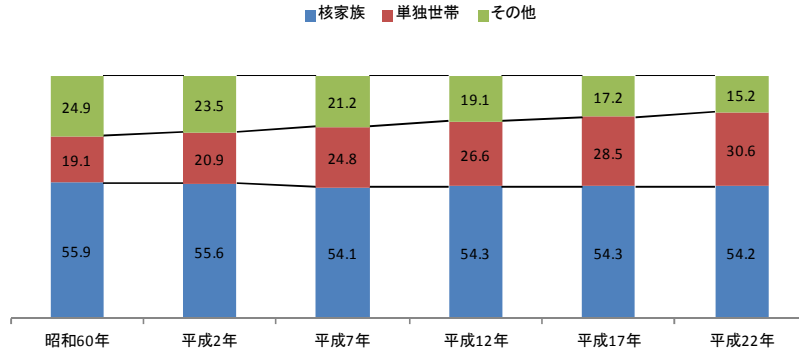


平成22年の本市の世帯数は、平成17年から約12,000世帯増加。1世帯当たりの人員は、減少しており、全国平均をわずかに上回っている。

1-6. 世帯

本市における一般世帯家族類型割合の推移

資料：国勢調査
(単位：%)

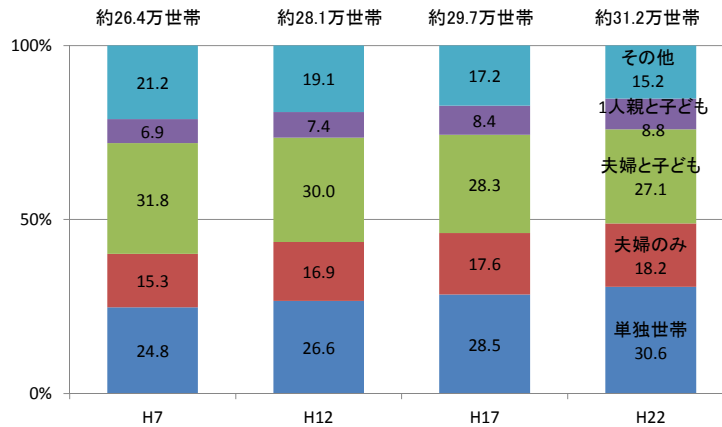


核家族が55%前後であるのに対し、単独世帯は増加し、平成22年には30%を超えた。

1-6. 世帯

本市における家族類型別世帯割合の推移

資料：国勢調査

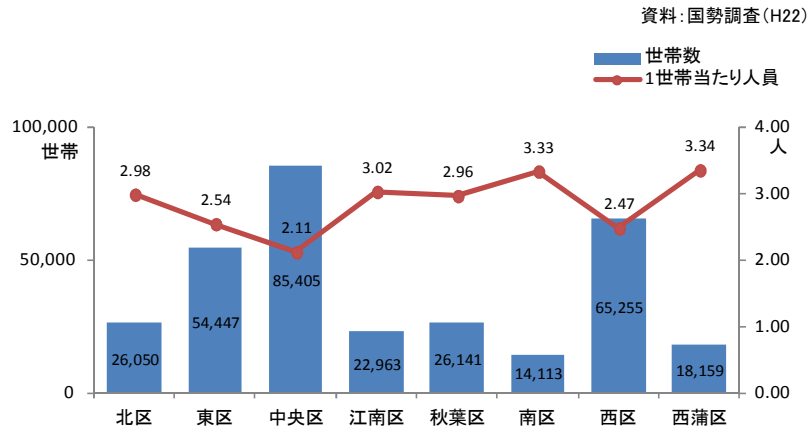


※端数調整のため内訳と合計が一致しない

単独世帯の割合が増加し、平成22年には30%を超えて、最も多くなっている。また、夫婦のみ世帯と単独世帯が一般世帯数の約半数を占めており、1世帯当たりの世帯員数が過去最低となった。

1-6. 世帯

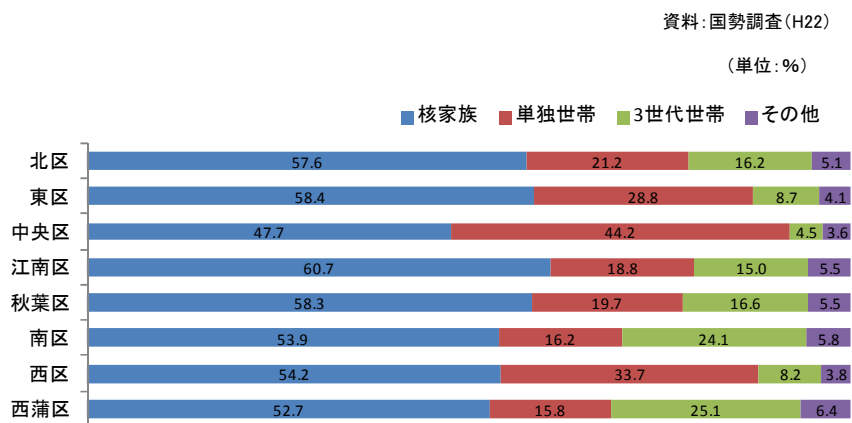
区別 世帯数及び1世帯当たり人員



世帯数は中央区が最も多く、西区、東区が続く、南区が最も少ない。1世帯当たり人員は、西蒲区が最も多く、南区、江南区が続く、この3区だけが3人以上となっている。

1-6. 世帯

区別 一般世帯家族類型割合

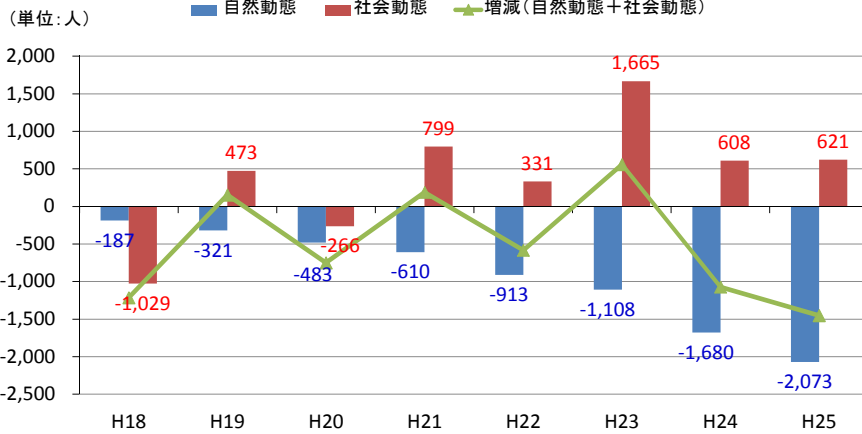


全区で核家族の割合が最も高くなっている。中央区、西区では、単独世帯割合が高く、西蒲区、南区では3世代世帯の割合が高くなっている。

1-7. 人口動態

本市における人口動態の推移

資料:新潟県人口移動調査(各年10月1日基準)



近年は自然動態の減少が社会動態の増加を上回り、人口減少に転じている。

1-7. 人口動態

本市の人口動態

資料:新潟県人口移動調査
(平成25年10月1日基準)

新潟市の自然動態・社会動態 (人)

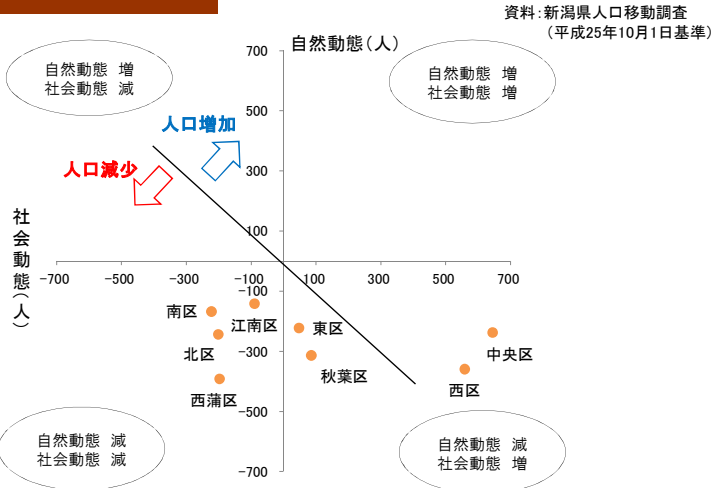
| 24.10.1 推計人口 | 自然動態 | | | 社会動態 | | | | | | 年間 増減 | 25.10.1 推計人口 | |
|-----------------|-------|-------|---------|-------|--------|-----------|-------|--------|-----------|----------|-----------------|---------|
| | 出生 | 死亡 | 差引 | 転入 | | | 転出 | | | | | 差引 |
| | | | | 県内 | 県外 | その他 ※1 | 県内 | 県外 | その他 ※1 | | | |
| 811,386 | 6,332 | 8,405 | △ 2,073 | 7,902 | 11,868 | 153 | 6,034 | 12,907 | 361 | 821 | △ 1,452 | 809,934 |

※1 転入の「その他」とは「従前の住所地在不明の者」、「職権記載による者」及び「帰化による者」をいい、転出の「その他」とは「職権消滅による者」及び「国籍離脱の者」をいう。

平成24年10月から平成25年9月までの1年間における本市の転入者数は19,923人、転出者は19,302人で、621人の転入超過。一方、自然動態は、死亡が出生を上回り2,073人減少し、自然動態と社会動態を合わせると、1,452人の人口減少となった。

1-7. 人口動態

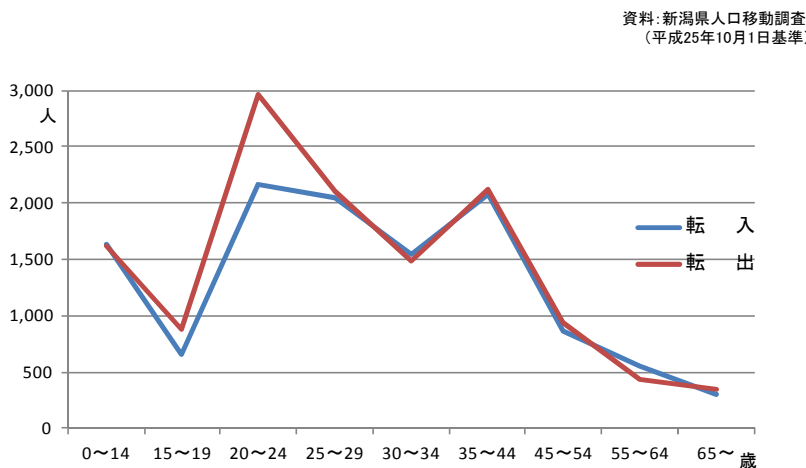
区別 人口動態



平成25年の調査では、1年間で全区において自然動態が減少。中央区、西区、秋葉区、東区で社会動態が増加しているが、人口が増加しているのは中央区、西区のみとなっている。

1-7. 人口動態

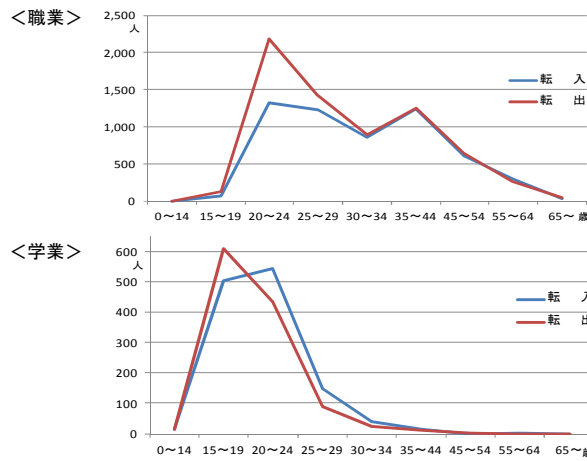
本市における年齢階層別 県外への転入・転出者数



平成25年の調査では、1年間における全年齢の県外への転出超過の総数1,039人のうち、20~24歳が797人、76.7%を占めている。

1-7. 人口動態

本市における年齢階層・理由別 県外への転入・転出者数

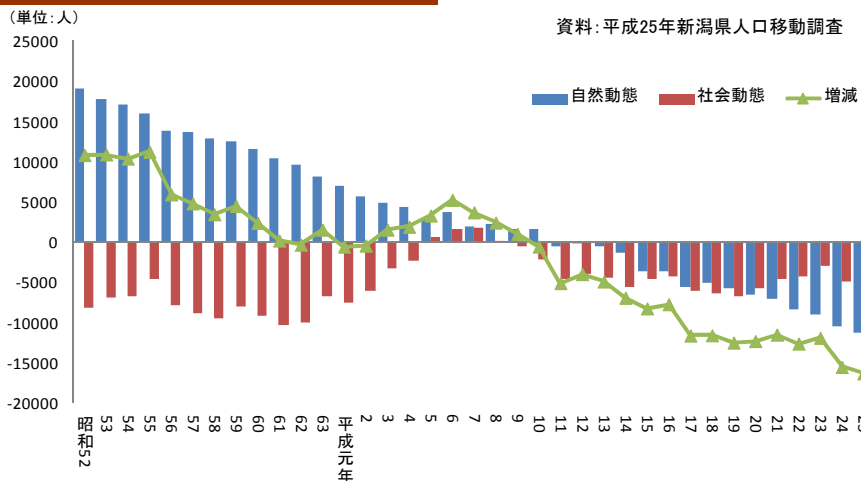


資料:新潟県人口移動調査
(平成25年10月1日基準)

職業では20歳代全般、特に20~24歳の県外への転出が目立ち、30歳代以降では、転入・転出の人数がほぼ同数。職業を理由とした人口移動が、転入・転出全体に大きく影響。
学業では、15~19歳は転出超過となっているが、20~44歳では転入超過となっている。

1-7. 人口動態

本県の人口動態



社会減少は平成9年から続いている。自然減少は平成11年から続き、減少幅は平成19年から7年連続で拡大しており、平成20年からは自然減少数が社会減少数を上回っている。

1-7. 人口動態



県内市町村別 社会動態と人口増減

資料：新潟県人口移動調査
(平成25年10月1日基準)
(単位：人)

| 社会動態 (転入数－転出数) | | 社会動態 (転入数－転出数) | | 1年間の人口増減 (自然動態＋社会動態) | | 1年間の人口増減 (自然動態＋社会動態) | |
|-------------------|-------|-------------------|-------|-------------------------|-------|-------------------------|---------|
| 新潟市 | 621 | 妙高市 | △ 158 | 粟島浦村 | 10 | 阿賀野市 | △ 451 |
| 湯沢町 | 43 | 阿賀野市 | △ 179 | 聖籠町 | △ 2 | 小千谷市 | △ 468 |
| 粟島浦村 | 13 | 胎内市 | △ 179 | 湯沢町 | △ 11 | 南魚沼市 | △ 590 |
| 聖籠町 | △ 5 | 小千谷市 | △ 219 | 刈羽村 | △ 52 | 新発田市 | △ 635 |
| 見附市 | △ 9 | 村上市 | △ 226 | 弥彦村 | △ 55 | 糸魚川市 | △ 636 |
| 弥彦村 | △ 23 | 糸魚川市 | △ 240 | 出雲崎町 | △ 114 | 五泉市 | △ 656 |
| 燕市 | △ 24 | 五泉市 | △ 262 | 関川村 | △ 118 | 魚沼市 | △ 663 |
| 出雲崎町 | △ 27 | 南魚沼市 | △ 275 | 田上町 | △ 169 | 村上市 | △ 819 |
| 刈羽村 | △ 27 | 佐渡市 | △ 297 | 津南町 | △ 194 | 三条市 | △ 842 |
| 関川村 | △ 47 | 魚沼市 | △ 337 | 見附市 | △ 245 | 十日町市 | △ 854 |
| 津南町 | △ 54 | 三条市 | △ 376 | 阿賀町 | △ 333 | 佐渡市 | △ 1,039 |
| 田上町 | △ 74 | 長岡市 | △ 382 | 胎内市 | △ 337 | 柏崎市 | △ 1,159 |
| 新発田市 | △ 108 | 十日町市 | △ 440 | 燕市 | △ 368 | 新潟市 | △ 1,452 |
| 阿賀町 | △ 114 | 柏崎市 | △ 598 | 加茂市 | △ 384 | 長岡市 | △ 1,519 |
| 加茂市 | △ 141 | 上越市 | △ 819 | 妙高市 | △ 397 | 上越市 | △ 1,743 |

県内市町村の社会動態では、本市を含む3市町村のみが転入超過。1年間の人口増減では、粟島浦村のみが増加し、本市は上越市、長岡市に次いで3番目に減少数が多い。県内では、長岡・新発田・上越などの移動が多く、県外では、首都圏への転出、近隣県との移動が多い。

1-7. 人口動態



政令市別 人口動態

資料：大都市比較統計年表(平成23年)
(単位：人)

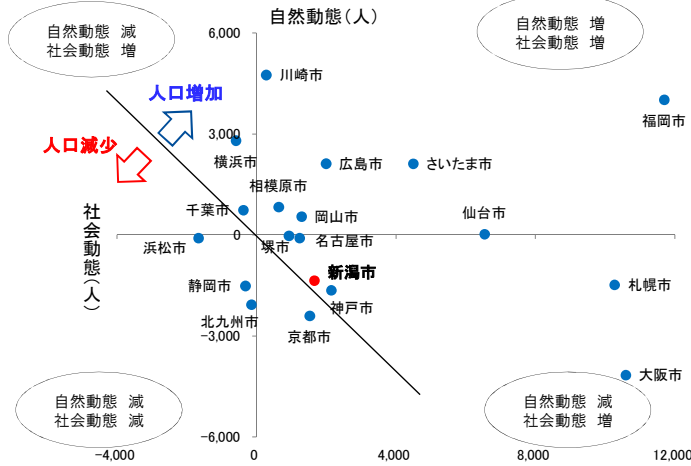
| 都市 | 増減数 | 都市 | 自然動態 | 都市 | 社会動態 |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 福岡市 | 15,711 | 1 川崎市 | 4,758 | 1 福岡市 | 11,692 |
| 2 札幌市 | 8,787 | 2 福岡市 | 4,019 | 2 大阪市 | 10,590 |
| 3 さいたま市 | 6,614 | 3 横浜市 | 2,808 | 3 札幌市 | 10,267 |
| 4 仙台市 | 6,568 | 4 広島市 | 2,122 | 4 仙台市 | 6,540 |
| 5 大阪市 | 6,427 | 5 さいたま市 | 2,120 | 5 さいたま市 | 4,494 |
| 6 川崎市 | 5,037 | 6 相模原市 | 833 | 6 神戸市 | 2,143 |
| 7 広島市 | 4,115 | 7 千葉市 | 741 | 7 広島市 | 1,993 |
| 8 横浜市 | 2,218 | 8 岡山市 | 550 | 8 新潟市 | 1,658 |
| 9 岡山市 | 1,843 | 9 名古屋市 | 418 | 9 京都市 | 1,527 |
| 10 名古屋市 | 1,653 | 10 仙台市 | 28 | 10 岡山市 | 1,293 |
| 11 相模原市 | 1,470 | 11 堺市 | △ 22 | 11 名古屋市 | 1,235 |
| 12 堺市 | 906 | 12 浜松市 | △ 90 | 12 堺市 | 928 |
| 13 神戸市 | 501 | 13 新潟市 | △ 1,351 | 13 相模原市 | 637 |
| 14 千葉市 | 363 | 14 札幌市 | △ 1,480 | 14 川崎市 | 279 |
| 15 新潟市 | 307 | 15 静岡市 | △ 1,510 | 15 北九州市 | △ 146 |
| 16 京都市 | △ 875 | 16 神戸市 | △ 1,642 | 16 静岡市 | △ 319 |
| 17 浜松市 | △ 1,755 | 17 北九州市 | △ 2,068 | 17 千葉市 | △ 378 |
| 18 静岡市 | △ 1,829 | 18 京都市 | △ 2,402 | 18 横浜市 | △ 590 |
| 19 北九州市 | △ 2,214 | 19 大阪市 | △ 4,163 | 19 浜松市 | △ 1,665 |

平成23年中の推計人口の増加数は、本市は19市中14位となっており、社会動態は増加しているが、自然動態が減少し、307人の増加となった。

1-7. 人口動態

政令市別 人口動態

資料：大都市比較統計年表（平成23年）



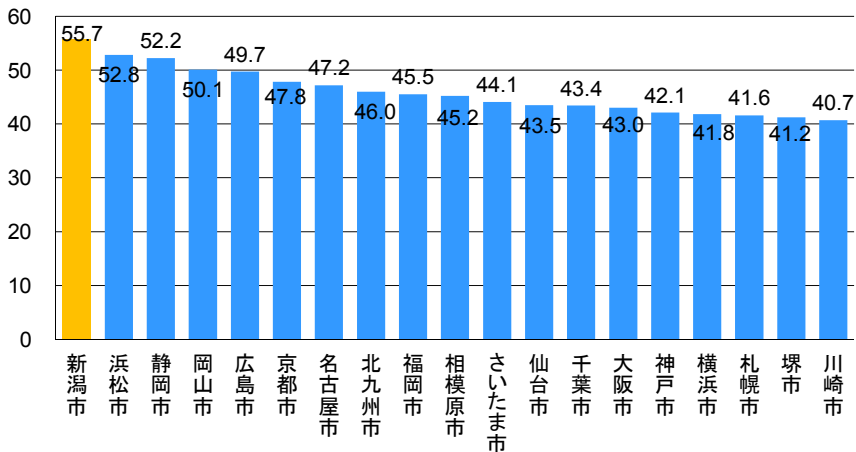
平成23年で自然動態、社会動態がともに増加しているのは、福岡市など9市。北九州市、静岡市、浜松市では、自然動態、社会動態ともに減少している。

2. 子育て・教育

政令市別 子どものいる夫婦の共働き率

(単位：%)

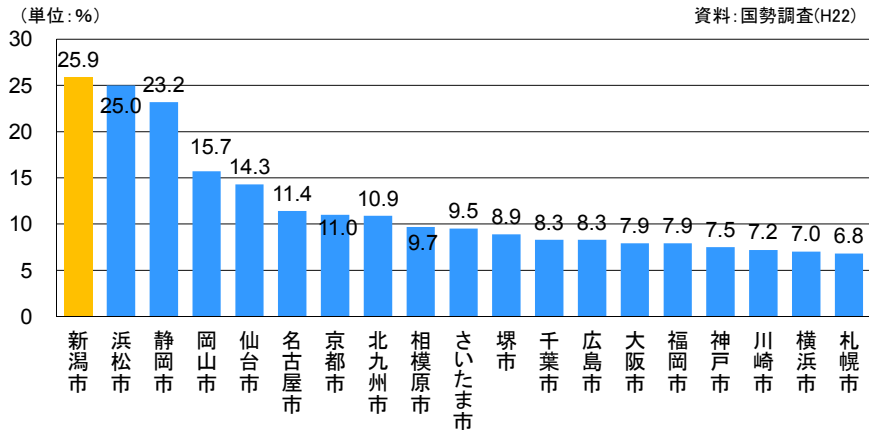
資料：国勢調査(H22)



本市の子どものいる夫婦の共働き率は55.7%で政令市1位。

2. 子育て・教育

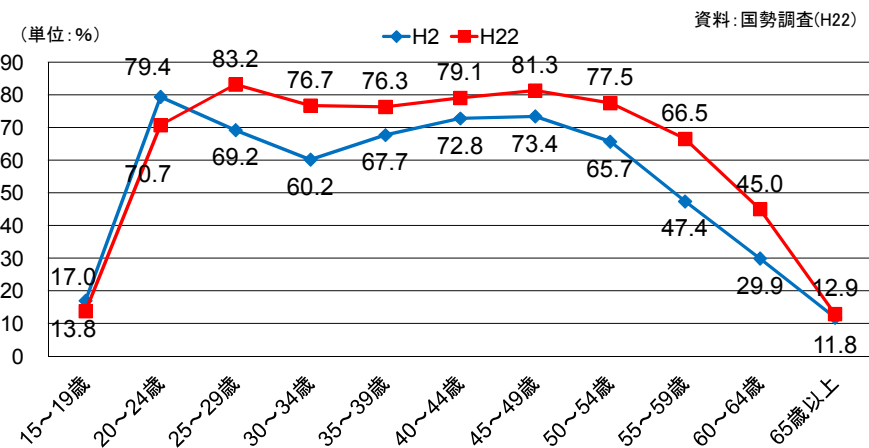
政令市別 子どものいる夫婦世帯に 対する3世代世帯割合



子どものいる夫婦世帯のなかで3世代世帯の割合について、本市は25.9%で、政令市1位。

2. 子育て・教育

本市の女性労働力率

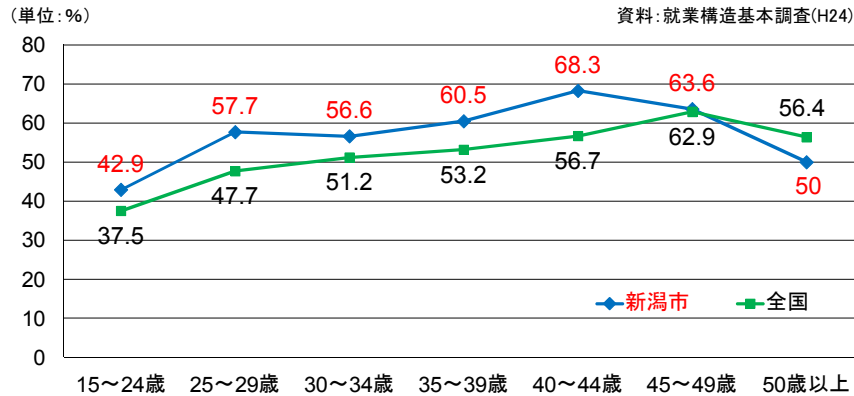


※労働力率: 生産年齢(15歳以上)人口中に占める労働の意思と能力を持っている人口の割合

平成2年と平成22年を比較すると、女性の労働力率のピークが20~24歳から25~29歳へ移動。

2. 子育て・教育

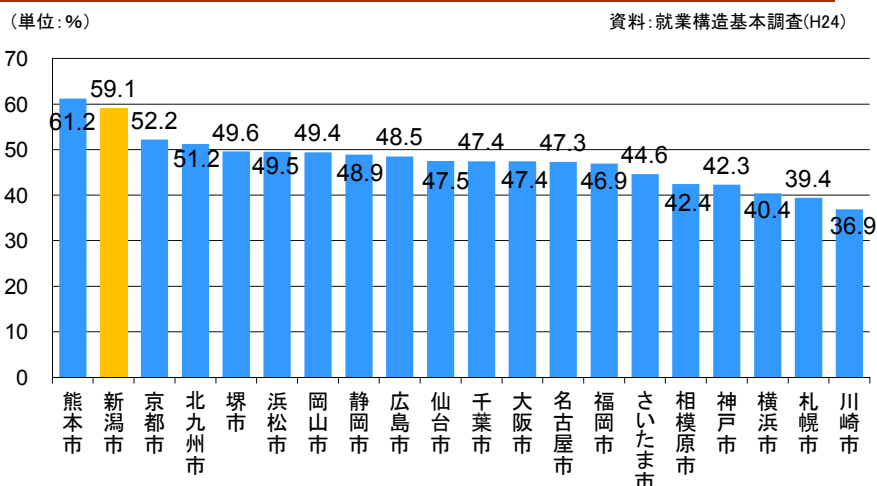
本市の育児をしている女性の 年齢階級別有業率



本市の女性の有業率は49歳までは全国を上回っているが、50歳以上では下回っている。

2. 子育て・教育

政令市別 育児をしている女性の有業率



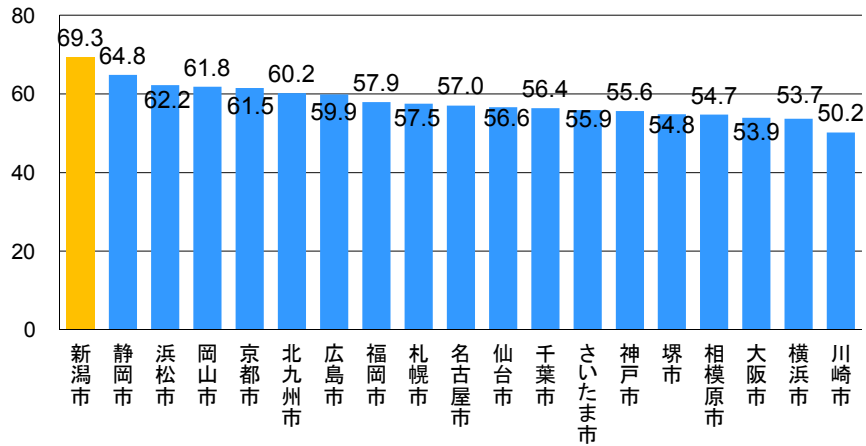
育児をしている女性の有業率は、熊本市が61.2%で最も高く、本市は政令市で2番目となっている。

2. 子育て・教育

政令市別 30歳代の女性就業率

(単位: %)

資料: 国勢調査(H22)



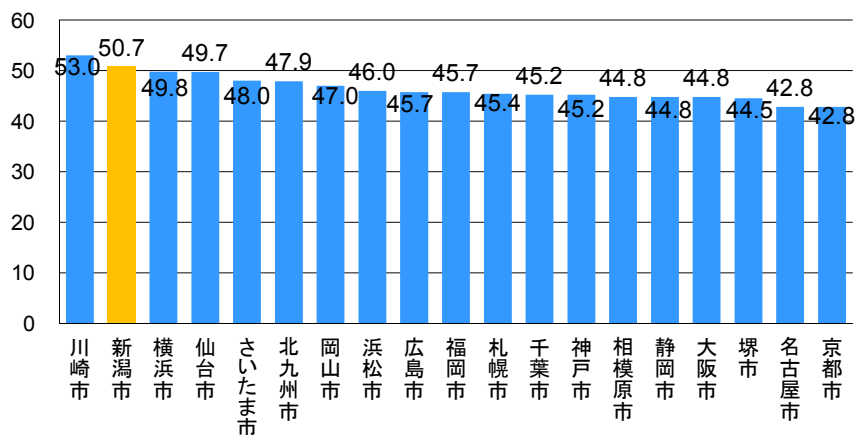
30歳代女性の本市の女性就業率は69.3%で、政令市1位。

2. 子育て・教育

政令市別 30歳代女性の正規雇用割合

(単位: %)

資料: 国勢調査(H22)



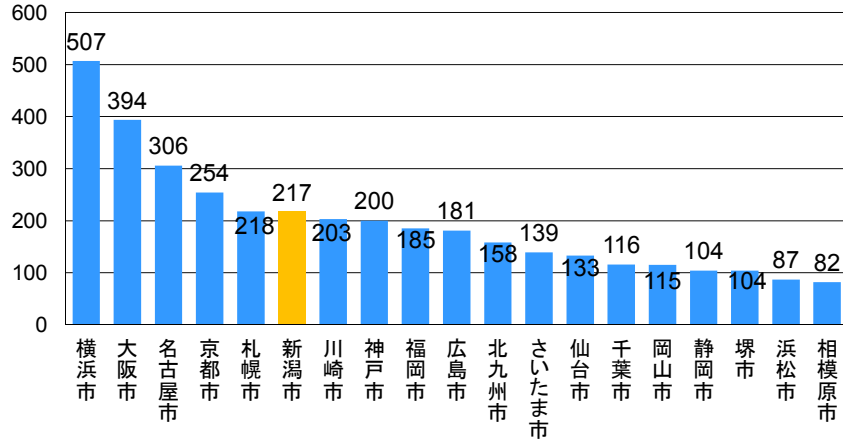
本市の30代女性就業者に対する正規職員・従業員の割合は50.7%で2人に1人が正規職員・従業員。政令市の中では川崎市に次ぐ高い割合となっている。

2. 子育て・教育

政令市別 保育所数

(単位:所)

資料:大都市比較統計年表(H24.4.1)



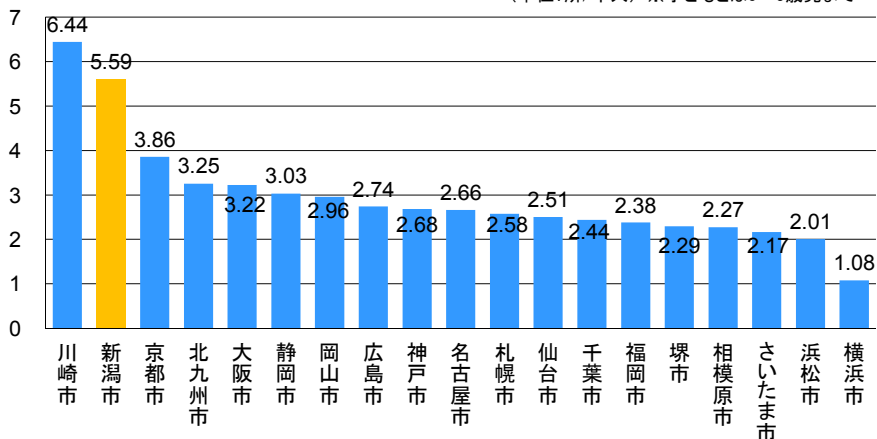
政令市の保育所数は横浜市が最も多く、大阪市、名古屋市が続き、本市は政令市中6位。

2. 子育て・教育

政令市別 子ども千人に対する保育所数

(単位:所)

資料:国勢調査(H22)、大都市比較統計年表(H24.4.1)
(単位:所/千人) ※子どもとは0~5歳児まで



本市の子ども千人当たりの保育所数は、川崎市に次いで政令市2番目。

2. 子育て・教育

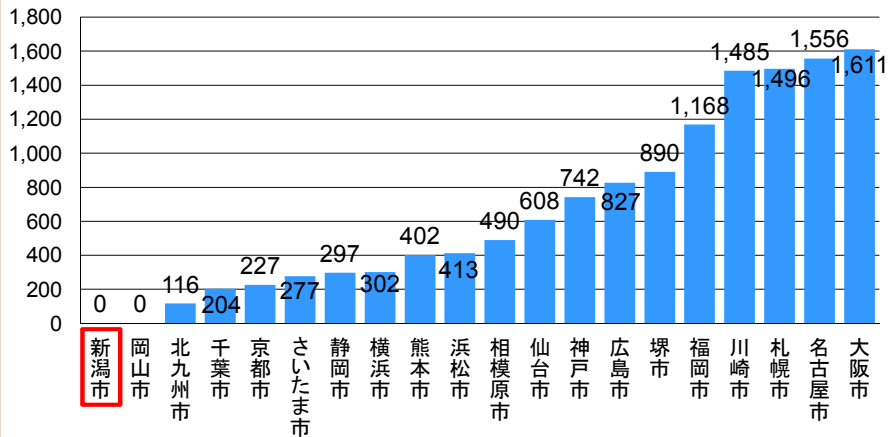
花開く活力。
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 保育所入所待機児童数

(単位:人)

資料:厚生労働省資料(H24)



本市の保育所入所待機児童数は、岡山市と並んで0人。

2. 子育て・教育

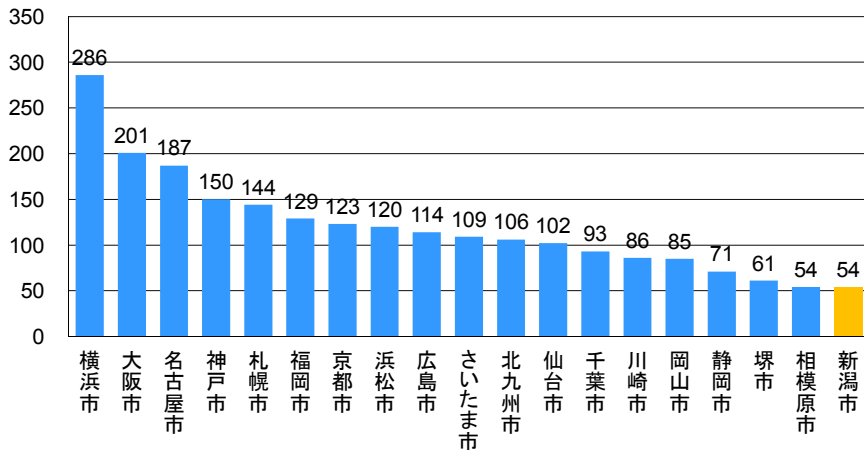
花開く活力。
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 幼稚園数

(単位:園)

資料:学校基本調査(H25)



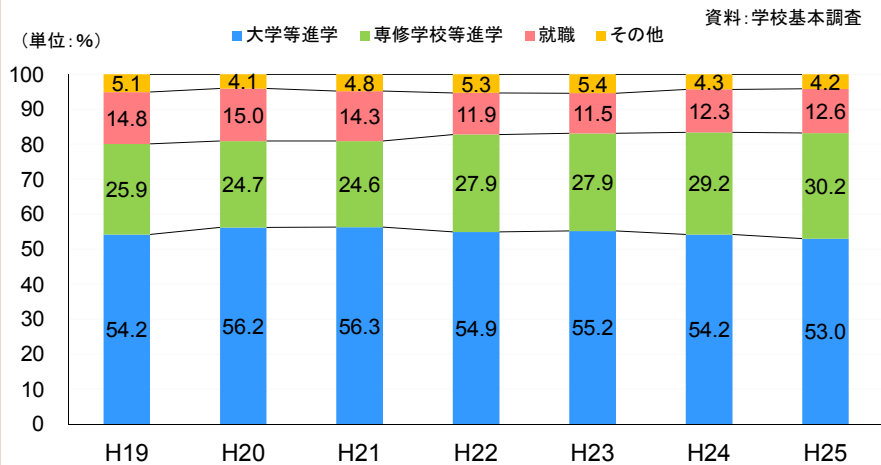
本市の幼稚園数は、相模原市と並んで政令市中最も少ない。

2. 子育て・教育

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



本市の高等学校卒業生状況別 割合の推移



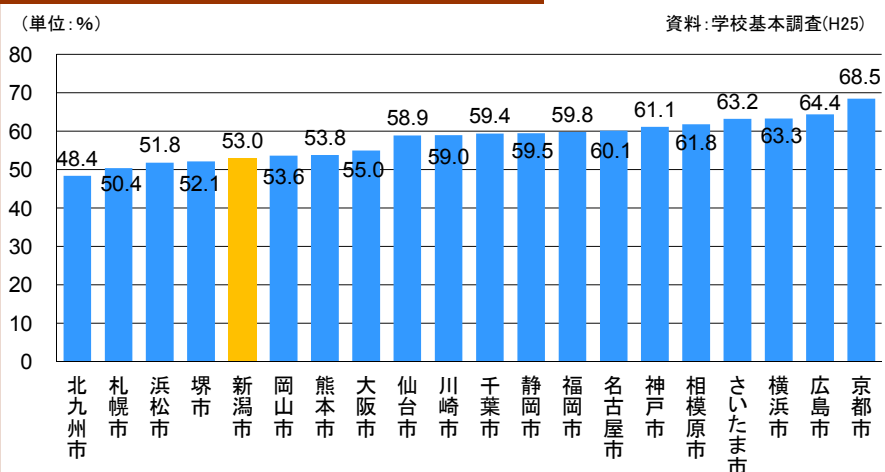
平成25年の本市の大学等進学率は53.0%で、前年と比べ1.2ポイント低下。一方、専修学校等進学率は1.0ポイント上昇。

2. 子育て・教育

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 大学進学率



政令市の大学進学率は京都市が68.5%で最も高く、本市は53.0%で、20市中16位。

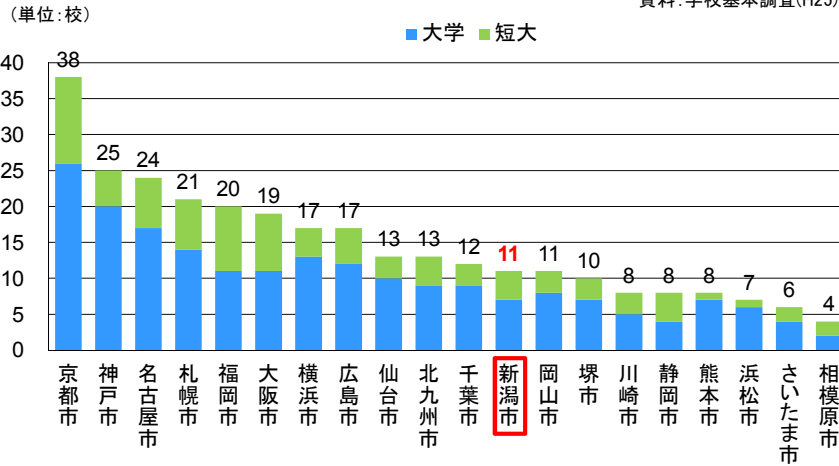
2. 子育て・教育

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 大学・短大数

資料：学校基本調査(H25)



政令市の大学・短大数は、京都市が38校と最も多く、本市は11校で20市中12位。

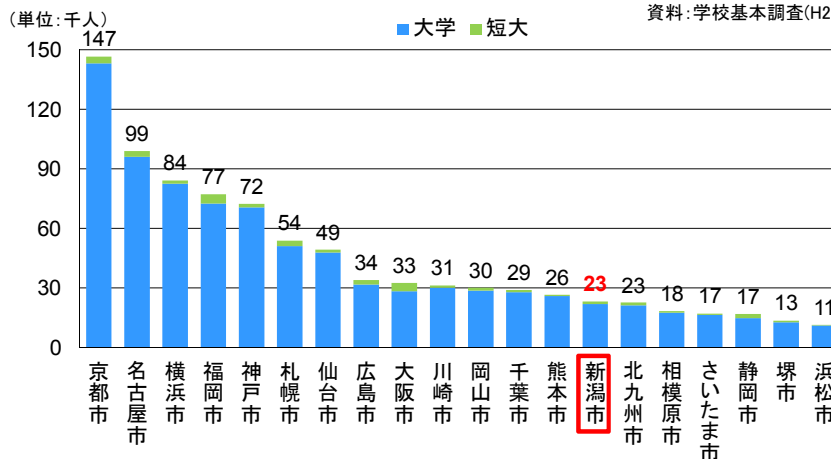
2. 子育て・教育

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 大学・短大学生数

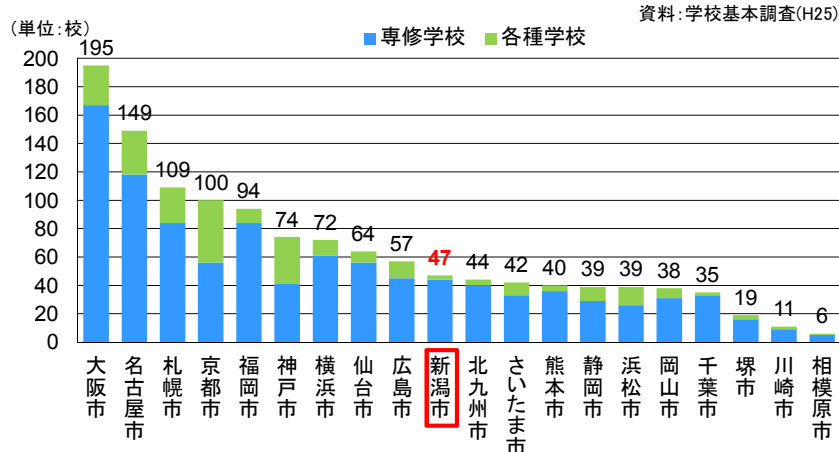
資料：学校基本調査(H25)



政令市の大学・短大学生数は、京都市が約14万7千人と最も多く、本市は約2万3千人で20市中14位となっている。

2. 子育て・教育

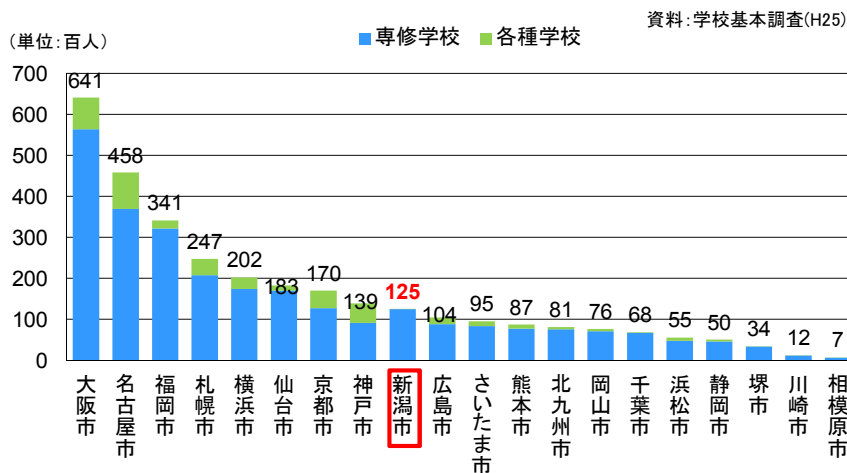
政令市別 専修学校・各種学校数



政令市の専修学校・各種学校数は、大阪市が195校で最も多く、本市は47校で20市中10位となっている。

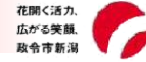
2. 子育て・教育

政令市別 専修学校・各種学校生徒数

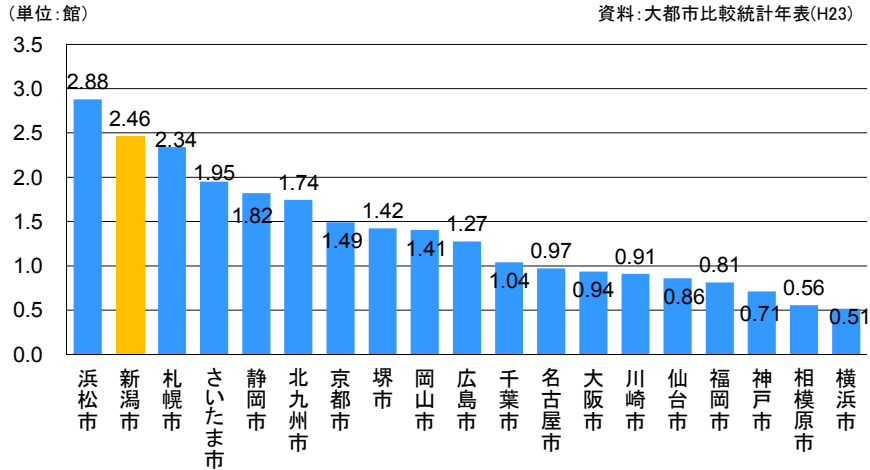


政令市の専修学校・各種学校生徒数は、大阪市が最も多く、本市は20市中9位。

2. 子育て・教育



政令市別 人口10万人当たりの図書館数

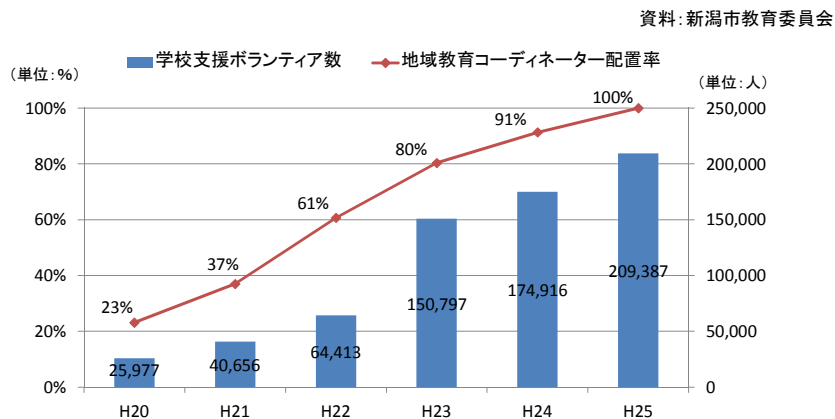


本市の人口10万人当たりの図書館数は2.46館で、浜松市に次いで政令市2位。

2. 子育て・教育



本市の地域教育コーディネーター配置率 および学校支援ボランティア数の推移



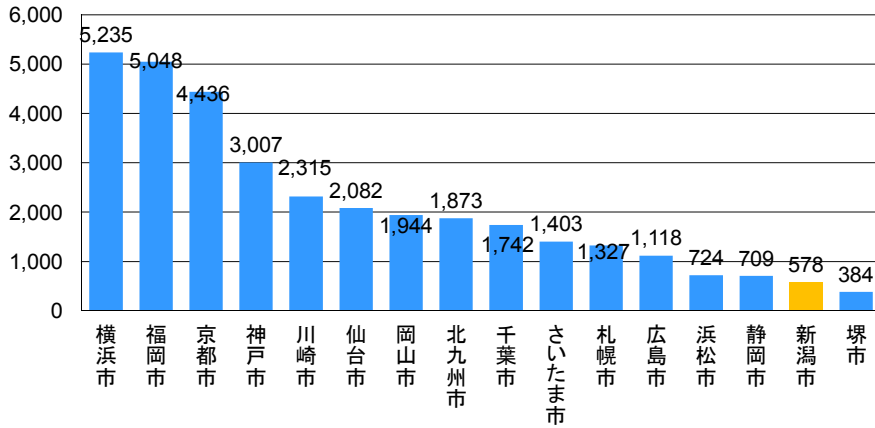
地域教育コーディネーターは、平成25年に市立の小・中・中等教育・特別支援学校に全てに配置が完了している。また、学校支援ボランティア数は、増加している。

2. 子育て・教育

政令市別 外国人留学生数

(単位:人)

資料:仙台市市民企画局交流政策課作成資料(H21.4)



※名古屋市、大阪市は統計なし

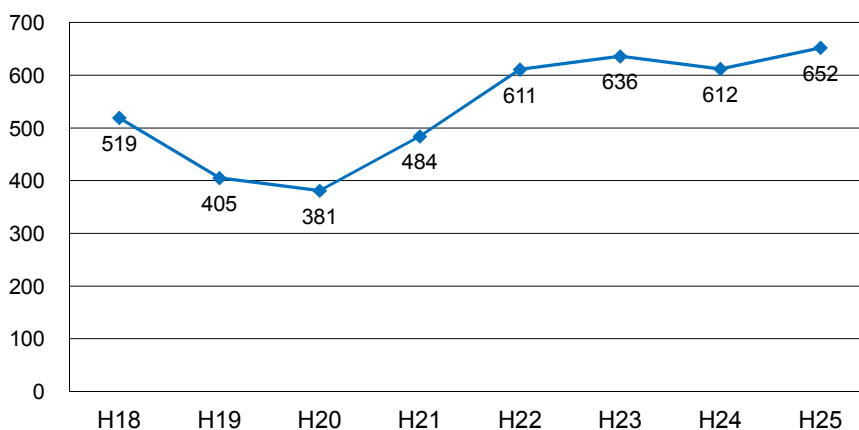
本市の外国人留学生数は、堺市に次いで少ない。

2. 子育て・教育

本市における外国人留学生数の推移

(単位:人)

資料:新潟市資料

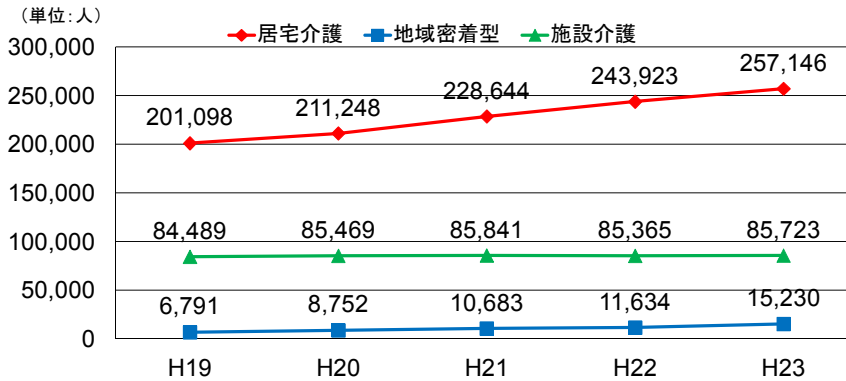


本市の外国人留学生数は平成20年以降、増加傾向にある。

3. 高齢者

本市の第1号被保険者の 介護サービス延べ受給者数

資料：厚生労働省
「介護保険事業状況報告」

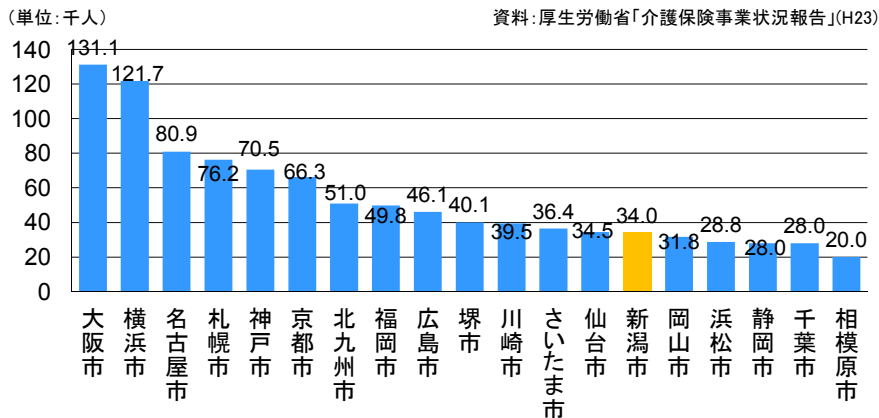


※第1号被保険者：65歳以上の人

介護保険第1号被保険者の介護サービス延べ受給者数は、居宅介護サービスが最も多くなっている。地域密着型サービスの受給者数は、平成19年度から平成23年度までの5年間で2倍以上に増加している。施設介護サービスはほぼ横ばいとなっている。

3. 高齢者

介護保険第1号被保険者のうち 要支援・要介護認定者数(政令市比較)



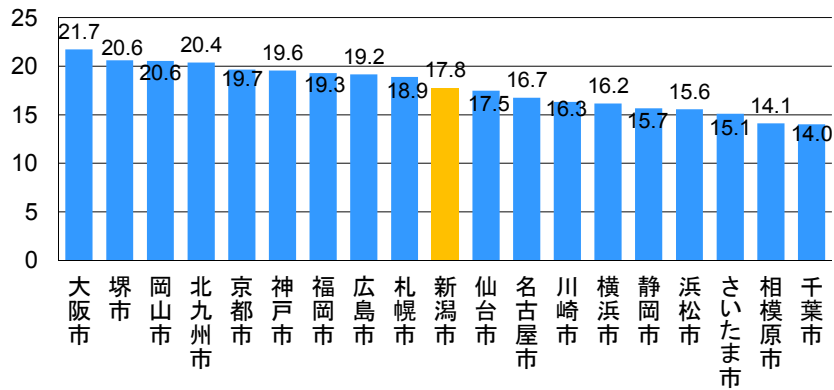
本市の介護保険第1号被保険者のうち、要支援・要介護認定者の数は約34,000人で、政令市中第10位となっている。第1位は大阪市で約13万1,100人となっている。

3. 高齢者

介護保険要支援・要介護認定者の 第1号被保険者に占める割合(政令市比較)

(単位:%)

資料:厚生労働省「介護保険事業状況報告」(H23)



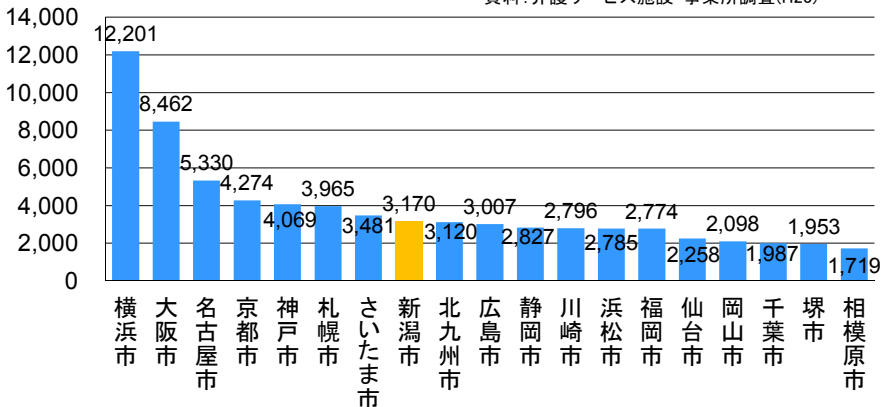
本市の要支援・要介護認定者の第1号被保険者に占める割合は17.8%で、政令市中第10位となっている。第1位は大阪市で21.7%。

3. 高齢者

政令市別 特別養護老人ホーム定員数

(単位:人)

資料:介護サービス施設・事業所調査(H23)



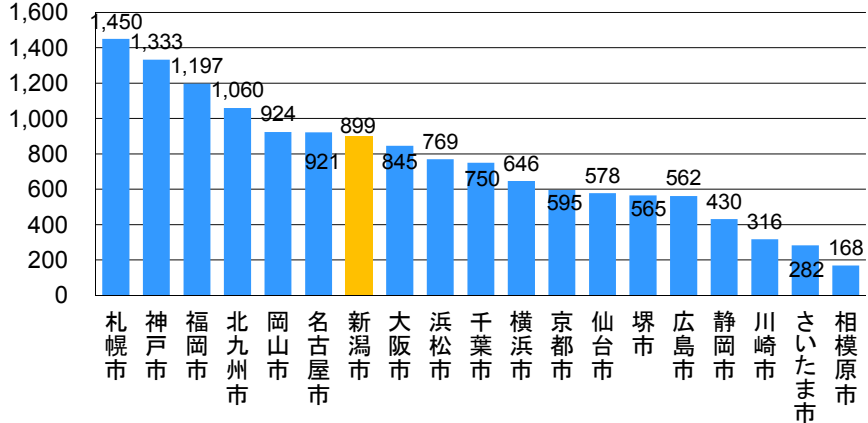
本市の特別養護老人ホームの定員数は3,170人で、政令市中第8位となっている。横浜市が第1位で12,201人となっている。

3. 高齢者

政令市別 軽費老人ホーム定員数

(単位:人)

資料:社会福祉施設等調査(H23)



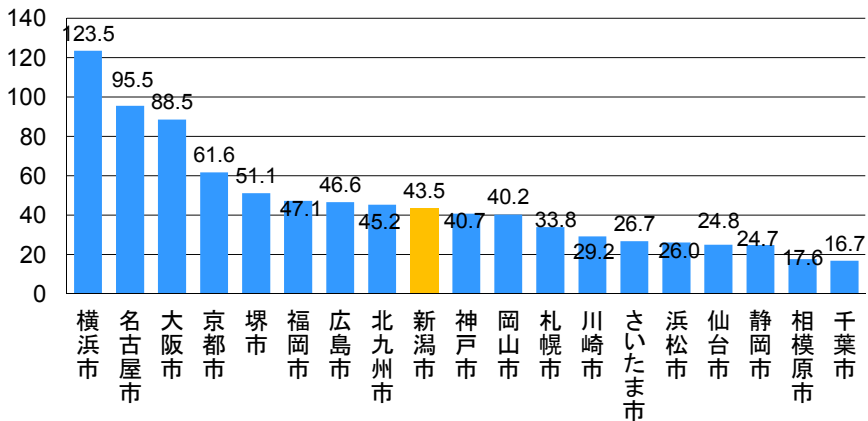
本市の軽費老人ホームの定員数は899人で、政令市中第7位となっている。
札幌市が第1位で、1,450人。

3. 高齢者

政令市別 老人クラブ会員数

(単位:千人)

資料:厚生労働省福祉行政報告例(H22)



本市の老人クラブの会員数は約43,500人で、政令市中第9位となっている。第1位は横浜市で約12万3,500人。

3. 高齢者

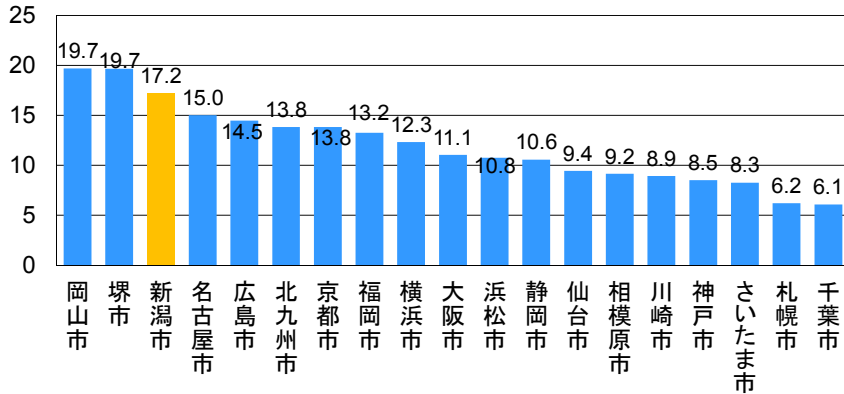
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 老人クラブ会員の割合

資料：厚生労働省福祉行政報告例(H22)、国勢調査(H22)

(単位：%)



本市の60歳以上の人口に対する老人クラブ加入者の割合は17.2%で、政令市中第3位となっている。第1位は岡山市と堺市で19.7%。

4. 障がい者

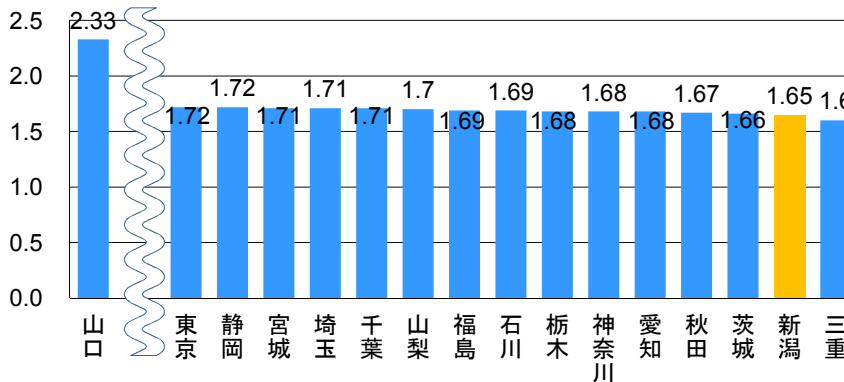
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



都道府県別 障がい者実雇用率

資料：厚生労働省資料(H25)

(単位：%)



※企業の主たる事務所(特例子会社等の認定を受けている企業にあっては、その親会社の主たる事務所)が所在する都道府県において、集計したもの

本県における障がい者の実雇用率は1.65で、47都道府県中46位であり、三重県の1.60に次いで低くなっている。

5. 医療

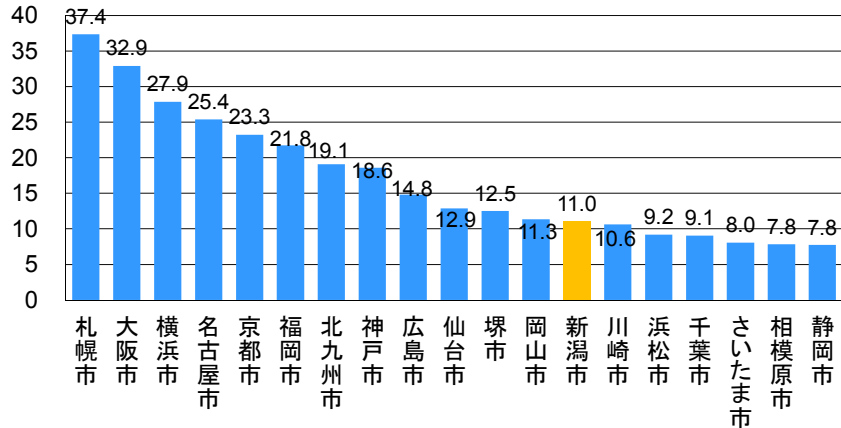
花開く活力。
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 病院の病床数

(単位:千床)

資料:医療施設調査(H24)



本市の病院の病床数は約11,000床で、政令市中第13位となっている。第1位は札幌市で、約37,400床。

5. 医療

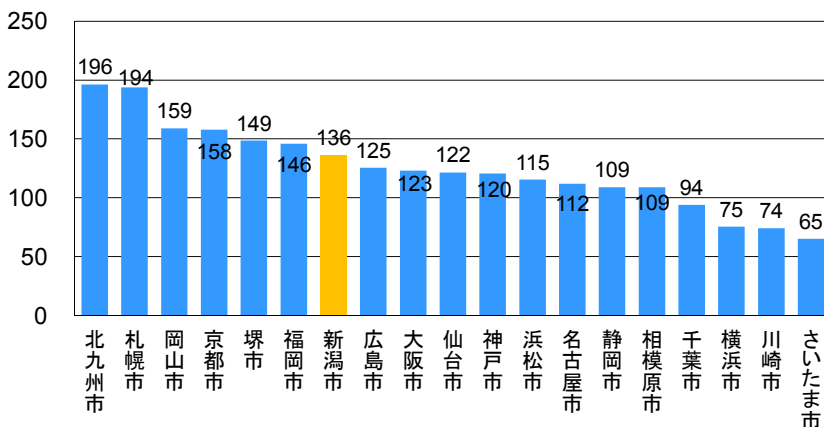
花開く活力。
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 人口1万人当たりの病床数

(単位:床)

資料:医療施設調査(H24)



本市の人口1万人当たりの病床数は136床で、政令市中第7位となっている。第1位は北九州市で196床。

5. 医療

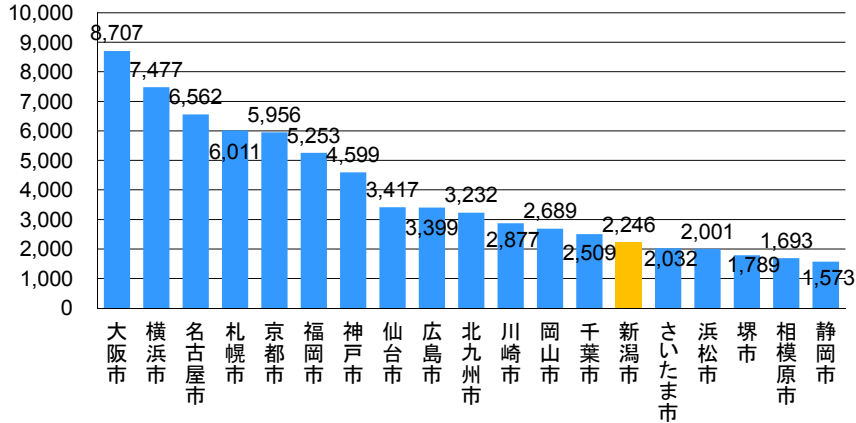
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 常勤医師数

(単位:人)

資料: 医師・歯科医師・薬剤師調査(H22)



本市の常勤医師数は2,246人で、政令市中第14位となっている。第1位は大阪市で8,707人。

5. 医療

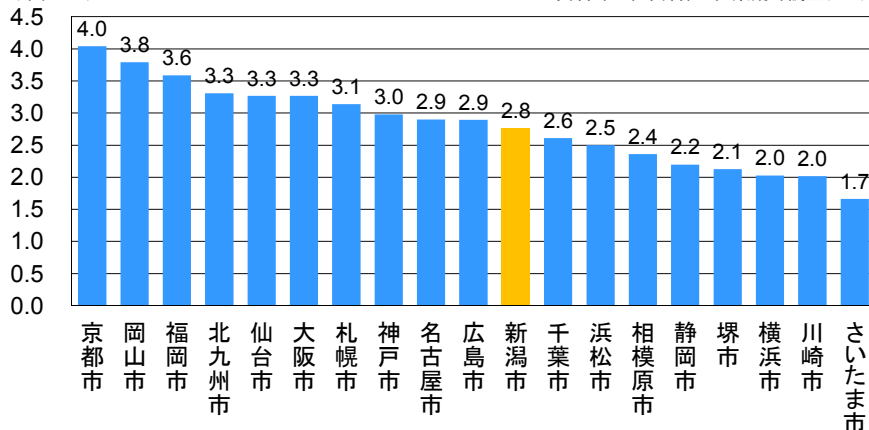
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 人口千人当たりの医師数

(単位:人)

資料: 医師・歯科医師・薬剤師調査(H22)



本市の人口千人当たりの医師数2.8人で、政令市中第11位となっている。第1位は京都市で4.0人。

5. 医療

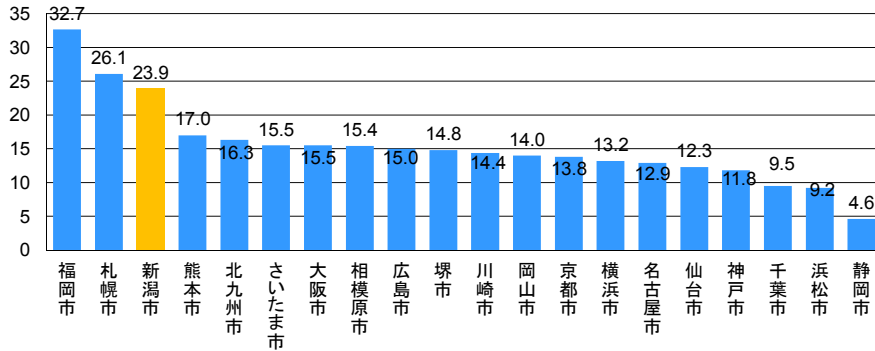
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 1ヵ月生存率

(単位: %)

資料:新潟市資料(H23)



※1ヵ月生存率:市民に目撃された心肺停止の傷病者で、
その原因が心疾患だった人のうち、1ヵ月生存した人の割合

本市の1ヵ月生存率は23.9%と政令市中第3位で、福岡市、札幌市に次ぐ高い割合となっている。(1ヵ月生存率は、心肺機能が停止した傷病者に対し、市民、救急隊、医療機関等による迅速な対応が行われることで割合が高くなる。)

6. 雇用

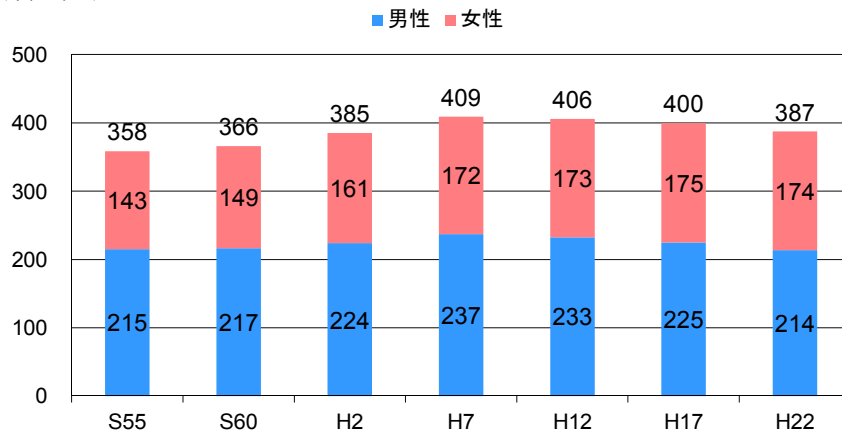
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



本市における就業者数の推移

(単位:千人)

資料:国勢調査



本市の就業者数は平成7年をピークに減少。平成17年と平成22年を比較すると、男性の就業者数が大幅に減少している。

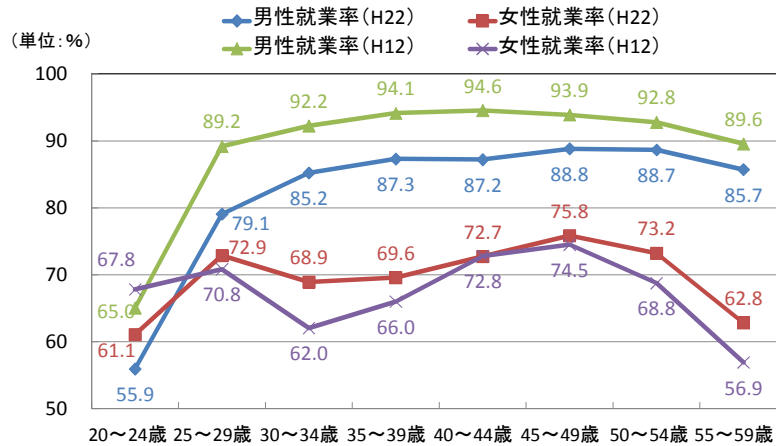
6. 雇用

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



本市の年齢階級別就業率

資料：国勢調査(H22)



女性の就業率は、全世代を通じ上昇傾向にあり、男性は全世代を通じて下降傾向にある。

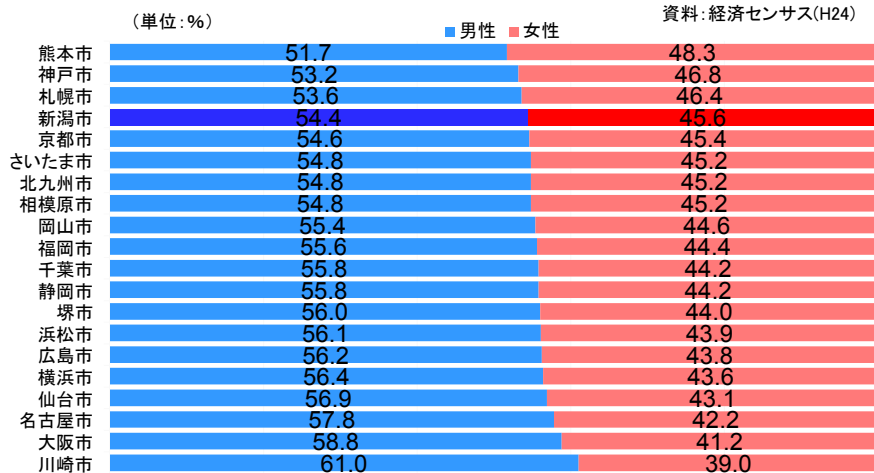
6. 雇用

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 従業者数の男女構成比

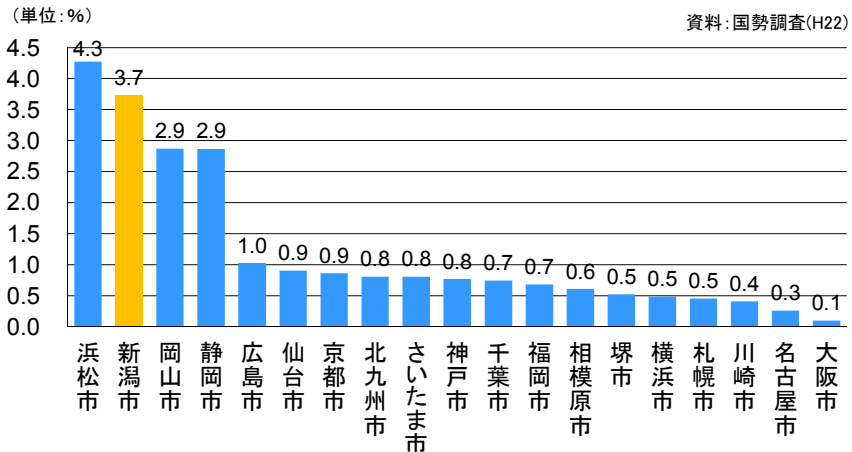
資料：経済センサス(H24)



本市における従業者数の男女構成比は男性が54.4%、女性が45.6%。政令指定都市の中で4番目に女性の構成比が高い。

6. 雇用

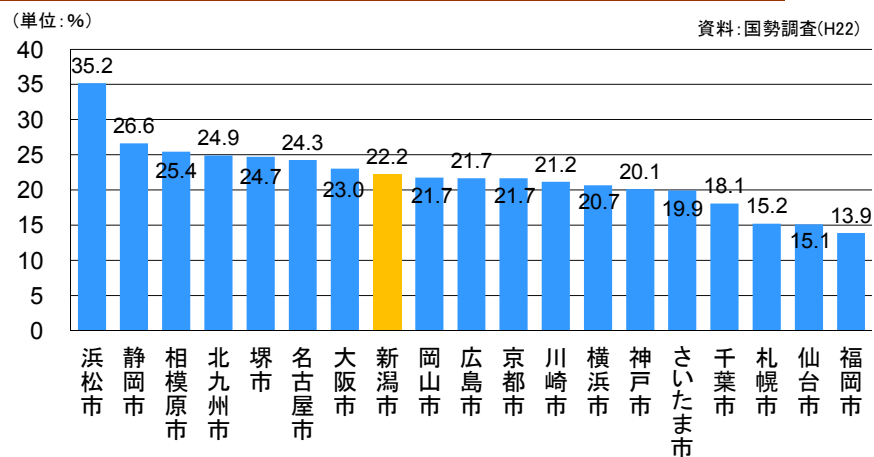
政令市別 第1次産業の就業者割合



本市の第1次産業の就業者の割合は3.7%で、政令市中第2位となっており、浜松市に次いで割合が高くなっている。

6. 雇用

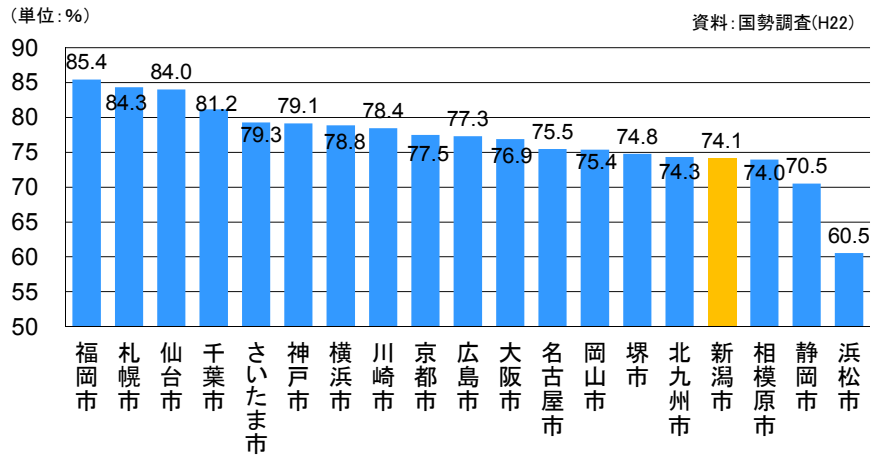
政令市別 第2次産業の就業者割合



本市の第2次産業の就業者の割合は22.2%で、政令市中第8位となっている。第1位は浜松市で35.2%。

6. 雇用

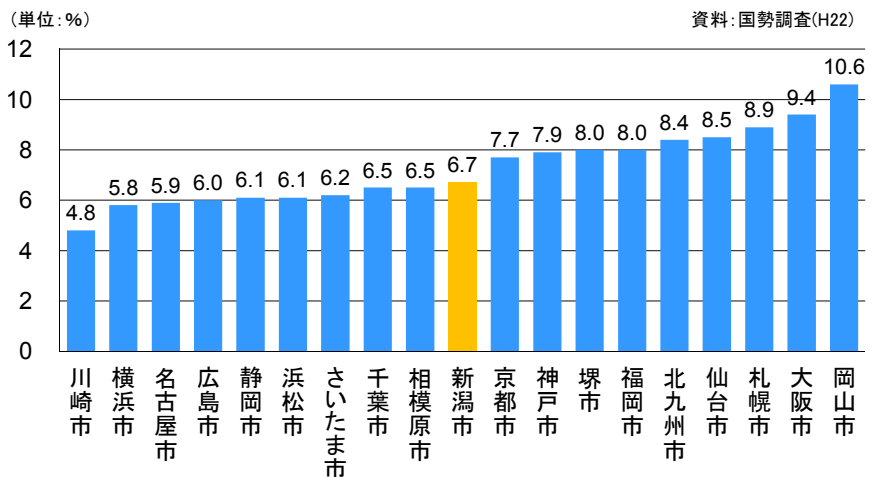
政令市別 第3次産業の就業者割合



本市の第3次産業の就業者の割合は74.1%で、政令市中第16位となっている。第1位は福岡市で85.4%。

6. 雇用

政令市別 25～39歳の完全失業率(男性)



本市の25～39歳の男性の完全失業率は6.7%で、政令市中第10位となっている。一番低いのは川崎市で4.8%。一番高いのは岡山市で10.6%。

6. 雇用

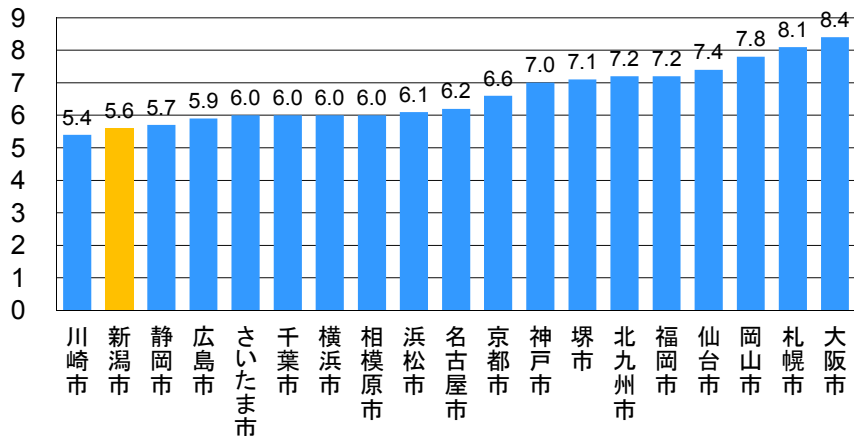
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 25～39歳の完全失業率(女性)

(単位: %)

資料: 国勢調査(H22)



本市の25～39歳の女性の完全失業率は5.6%で、政令市中川崎市に次いで2番目に低くなっている。一番高いのは大阪市で8.4%。

6. 雇用

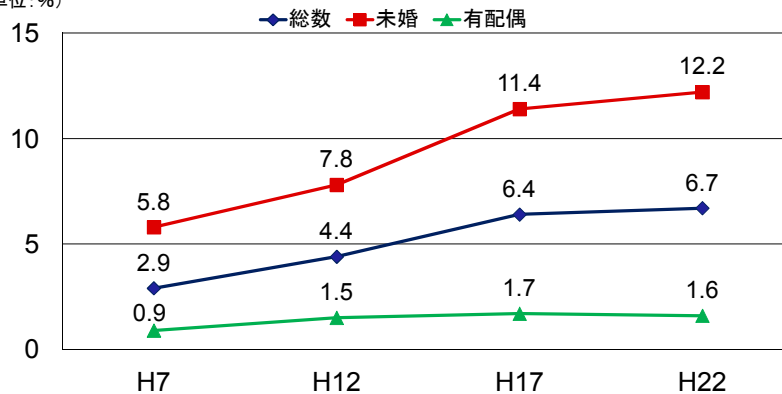
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



本市における男性(25～39歳)の完全失業率の推移

(単位: %)

資料: 国勢調査



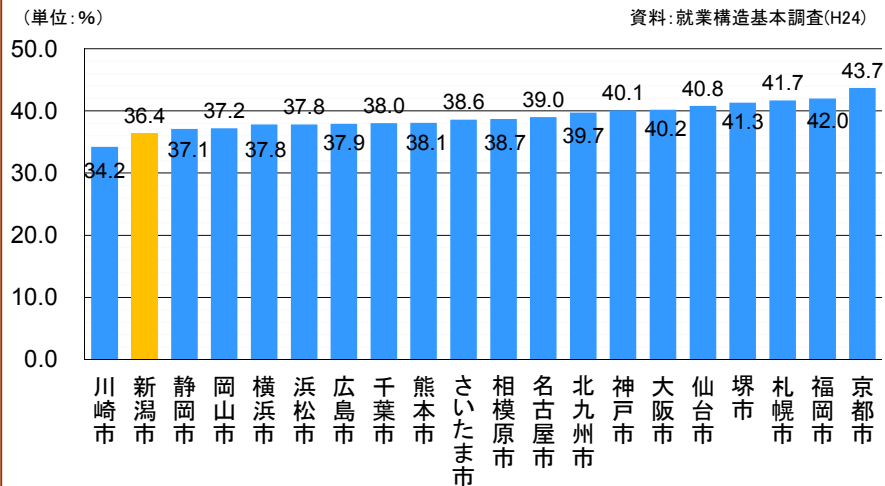
本市の25～39歳の男性の完全失業率は上昇傾向にある。既婚者は横ばい傾向であるのに対し、未婚者の完全失業率の上昇の割合が大きくなっている。

6. 雇用

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 非正規雇用者割合



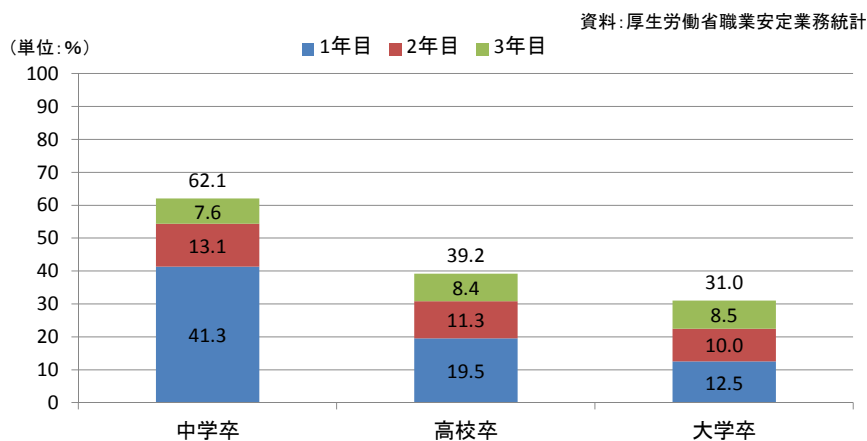
本市の非正規雇用者割合は36.4%で政令指定都市の中で2番目に低い割合。
最も高いのは京都市で43.7%、次いで福岡市が42.0%。

6. 雇用

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



全国における新規学卒者の離職状況



※平成22年3月卒業者の離職率

中学、高校、大学の卒業3年以内の離職率が中学卒で62.1%、高校卒で39.2%、大学卒で31.0%となっており、なかでも中学卒1年目の離職率が41.3%と高い率になっている。

6. 雇用

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



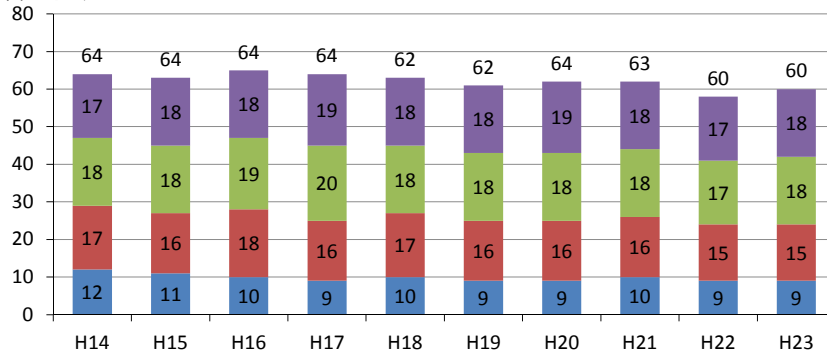
全国における若年無業者数の推移

(単位:%)

資料:総務省統計局「労働力調査」

(単位:万人)

■ 15～19歳 ■ 20～24歳 ■ 25～29歳 ■ 30～34歳



※平成22年3月卒業者の離職率 ※H23のデータは岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果
※端数調整しているため、内訳と合計と一致しない

若年無業者(15～34歳の非労働力人口のうち、家事も通学もしていない者)は10年間
ほぼ横ばいで推移している。

7. 住環境

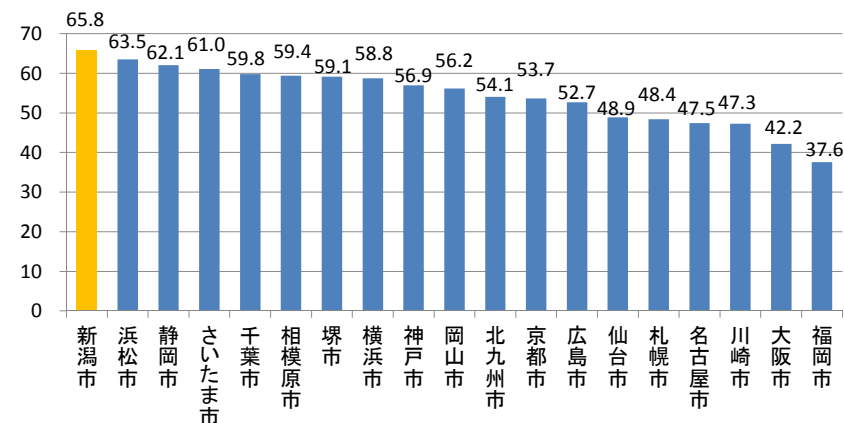
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 持ち家率

資料:国勢調査(H22)

(単位:%)

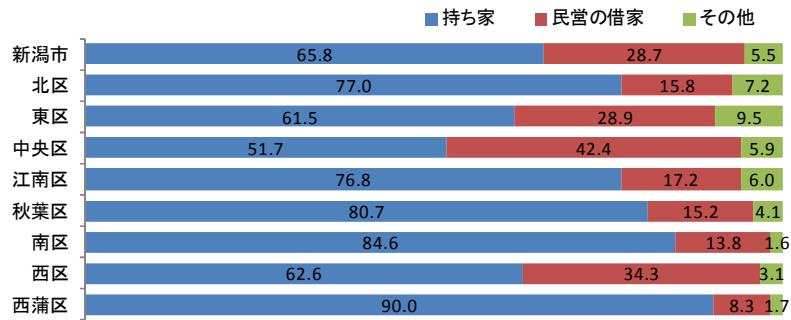


本市の住宅に住む一般世帯のうち、持ち家の世帯の割合は65.8%で、政令市19市中第1位となっている。

7. 住環境

本市の住宅所有関係別 一般世帯数割合

資料：国勢調査(H22)
(単位：%)

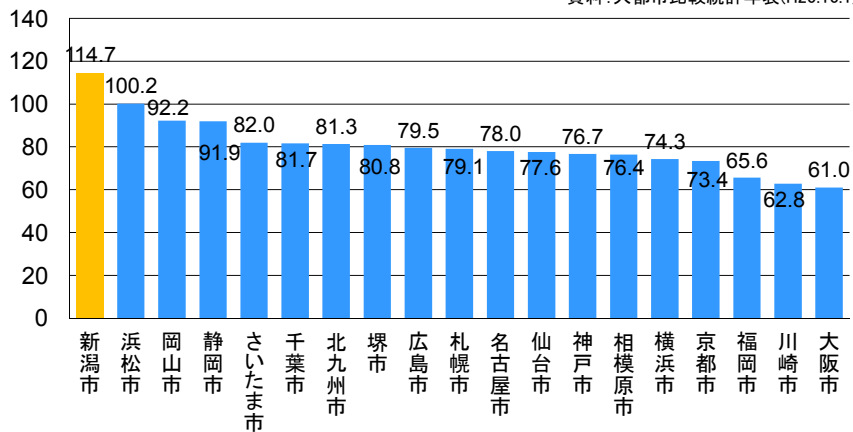


住宅所有別にみると、本市では、持ち家が65.8%と最も高い。
持ち家は全区で最も高く、西蒲区、南区、秋葉区の順に高くなっている。中央区は、他の区と比較すると持ち家率が最も低く、民営の借家の割合が高くなっている。

7. 住環境

政令市別 1住宅当たり延べ面積

(単位：㎡) 資料：大都市比較統計年表(H20.10.1)

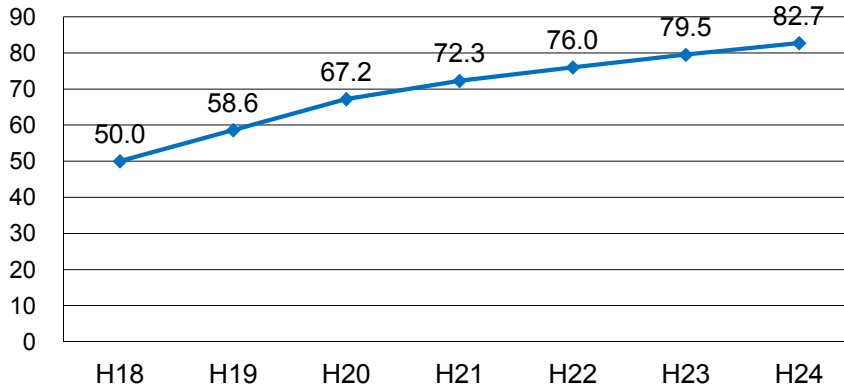


本市の1世帯当たりの住宅延床面積は114.7㎡で、政令市中で一番広がっている。

7. 住環境

本市における自主防災組織結成率の推移

(単位:%) 資料:新潟市資料

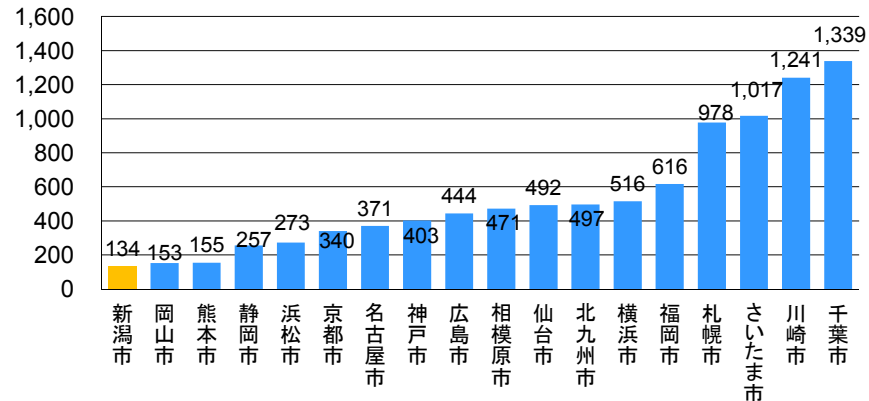


本市の自主防災組織の結成率は、平成18年度から年々上昇しており、平成24年度には82.7%となっている。

7. 住環境

政令市別 消防団員1人当たりの人口

(単位:人) 資料:新潟市資料(H25)



※大阪市には消防団がなく、堺市には合併地域以外にないため除外

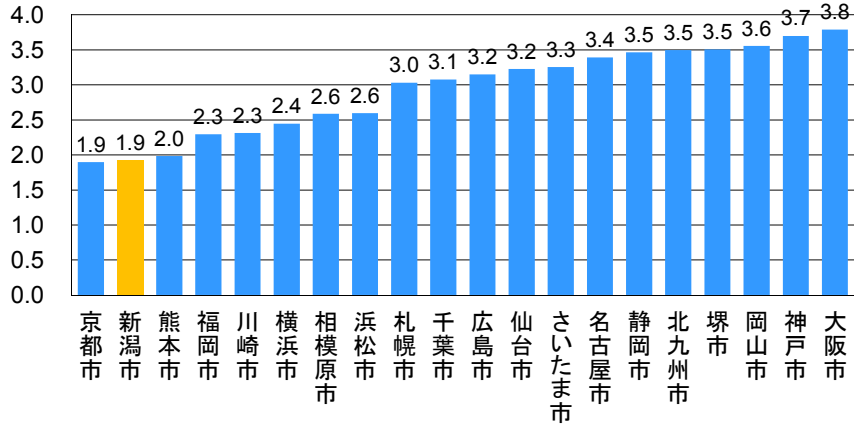
本市の消防団員の1人当たりの人口(人口÷消防団員実人員)は134人となっており、政令市の中で最も少なくなっている。最も多いのは千葉市で1,339人。

7. 住環境

政令市別 出火率

(単位:件)

資料:新潟市資料(H24)



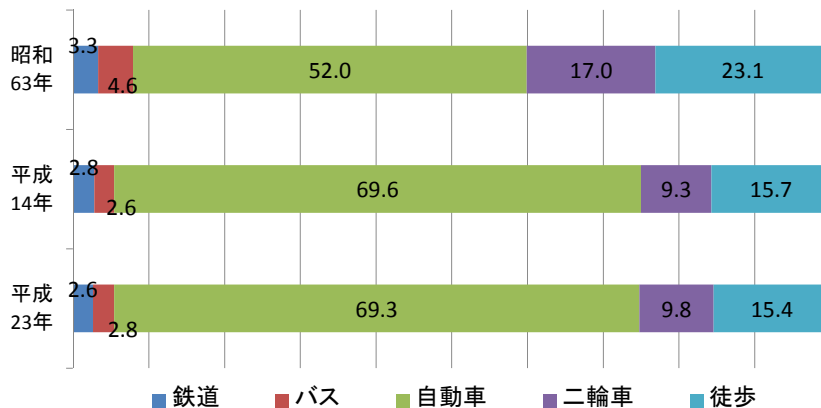
本市の出火率(人口1万人当たりの出火件数)は1.9となっており、政令市中で京都市に次いで2位となっている。

8. 公共交通

本市における交通手段別構成比の推移

(単位:%)

資料:新潟市



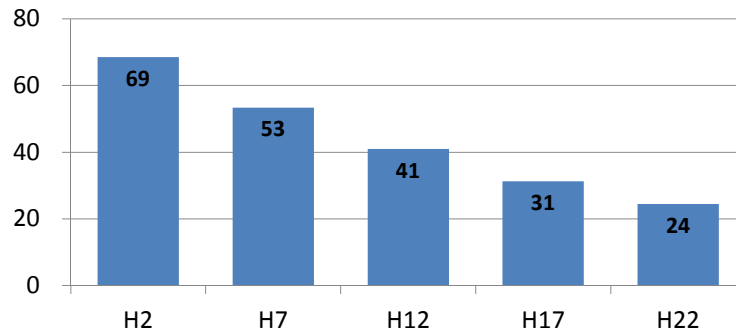
市民の移動における自動車の利用割合は、約70%と割合が伸びている。
公共交通(鉄道・バス)については、2%台と減少している。

8. 公共交通

本市におけるバス利用者数の推移

資料：新潟市

(単位：百万人/年)



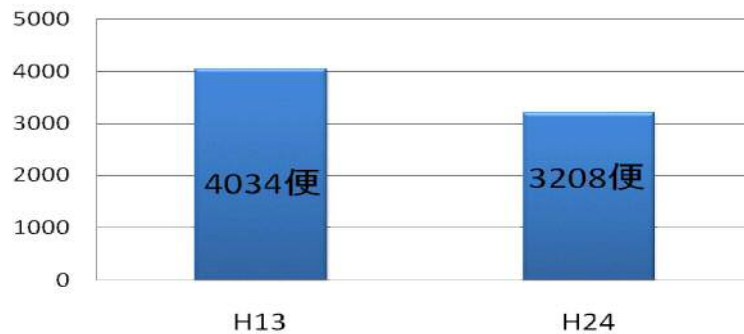
本市のバス利用者数は、平成2年から平成22年までの20年間で約65%減少している。また、平成12年から平成22年までの10年間では約40%減少している。

8. 公共交通

本市におけるバス運行便数の推移

資料：新潟市

(単位：便/日)

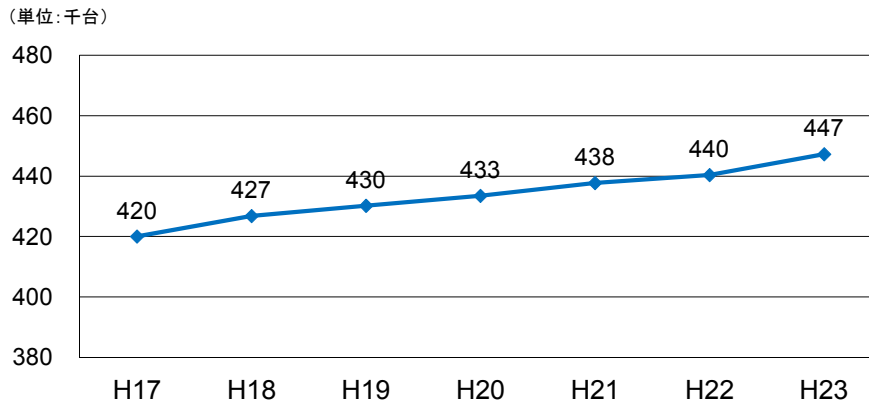


本市のバスの運行便数は、平成13年と平成24年を比較すると、約10年で約20%減少している。

8. 公共交通

本市における乗用車・軽乗用車の 保有車両数の推移

資料：新潟市統計書

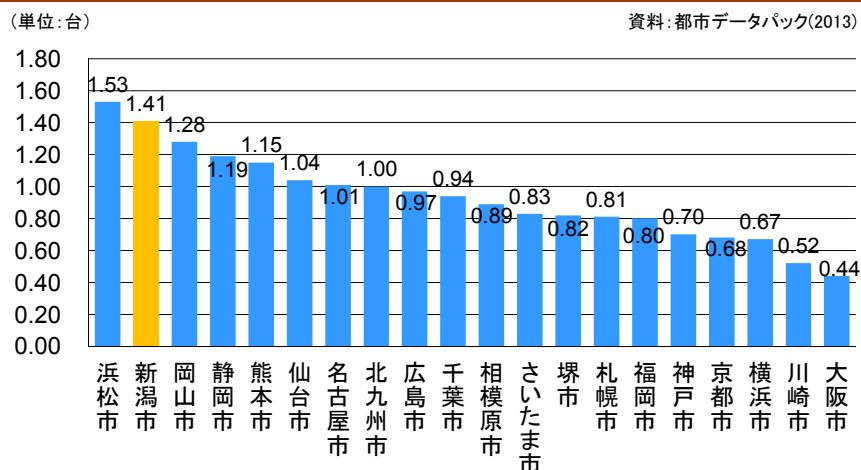


本市の乗用車、軽乗用車の保有車両数は年々増加しており、平成23年度には約447,000台となっている。

8. 公共交通

政令市別 1世帯当たりの乗用車保有台数

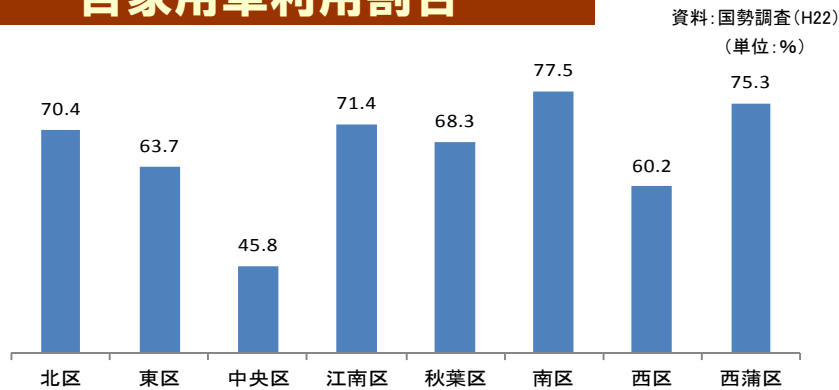
資料：都市データパック(2013)



本市の1世帯当たりの乗用車の保有台数は1.41台で、政令市中浜松市の1.53台に次いで第2位となっている。

8. 公共交通

区別 自宅外就業者・通学者の 自家用車利用割合

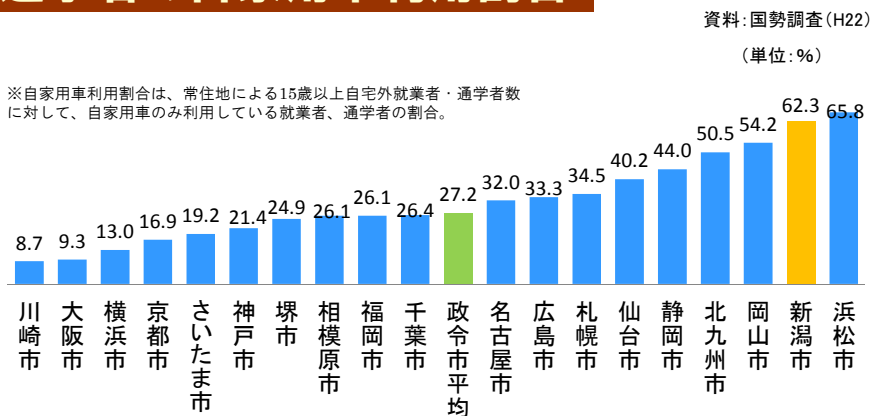


※自家用車利用割合は、常住地による15歳以上自宅外就業者・通学者数
に対して、自家用車のみ利用している就業者、通学者の割合。

自宅外就業者・通学者の自家用車利用割合は、南区の77.5%が最も高く、西蒲区75.3%、江南区71.4%と続いている。市全体の利用割合62.3%を下回っている区は中央区、西区のみである。

8. 公共交通

政令市別 自宅外就業者・ 通学者の自家用車利用割合



本市の自宅外就業者・通学者の自家用車の利用割合は62.3%で、政令市中浜松市の65.8%に
次いで2番目に高い割合となっている。

9. 道路

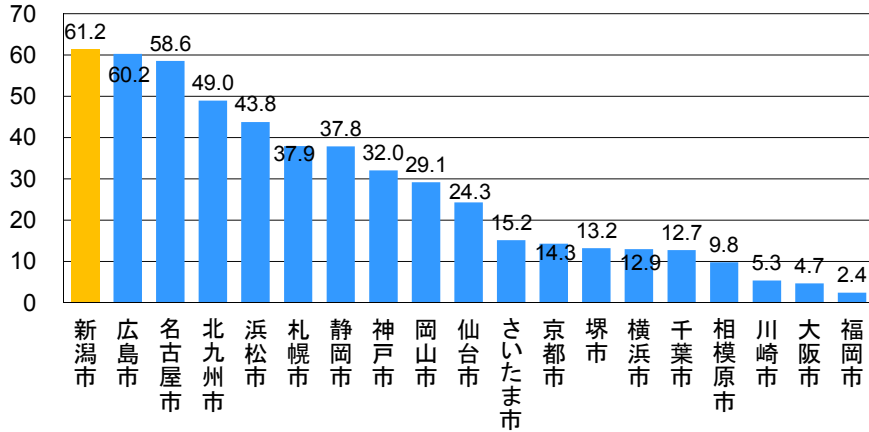
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 高速道路延長

(単位:km)

資料:大都市比較統計年表(H24.4.1)



本市の高速道路延長は61.2kmで、政令市中第1位になっている。第2位は広島市で60.2km。

9. 道路

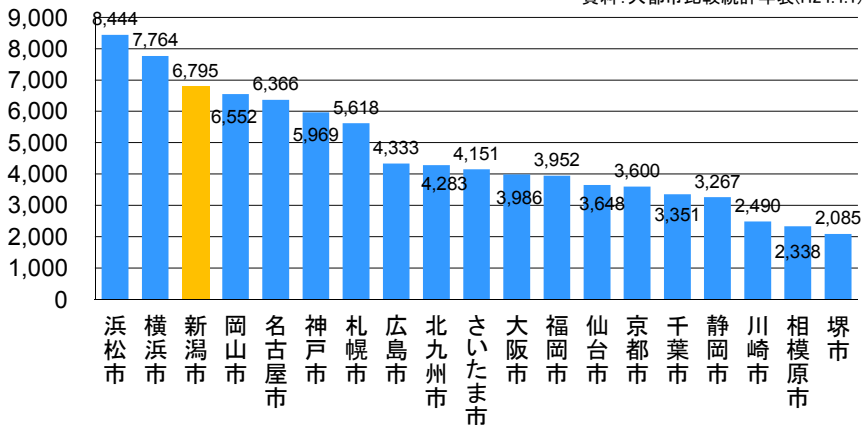
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 道路実延長

(単位:km)

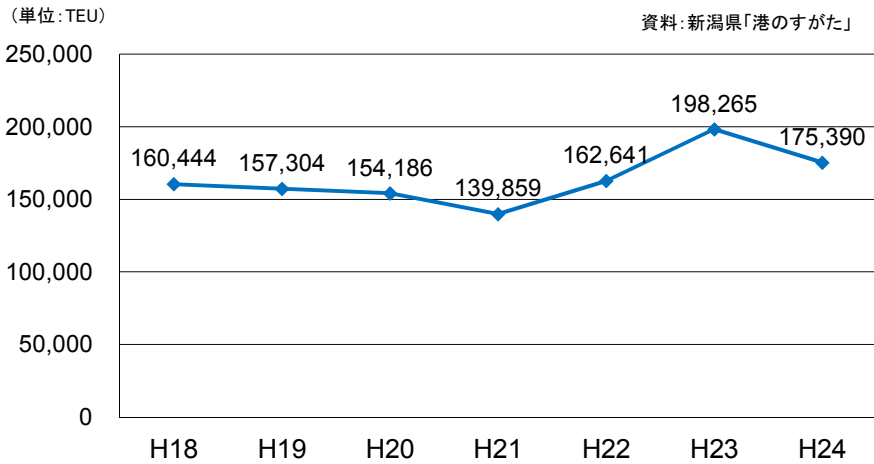
資料:大都市比較統計年表(H24.4.1)



本市の道路実延長は6,795kmで、政令市中浜松市の8,444km、横浜市7,764kmに次いで第3位となっている。

10. 港湾・空港

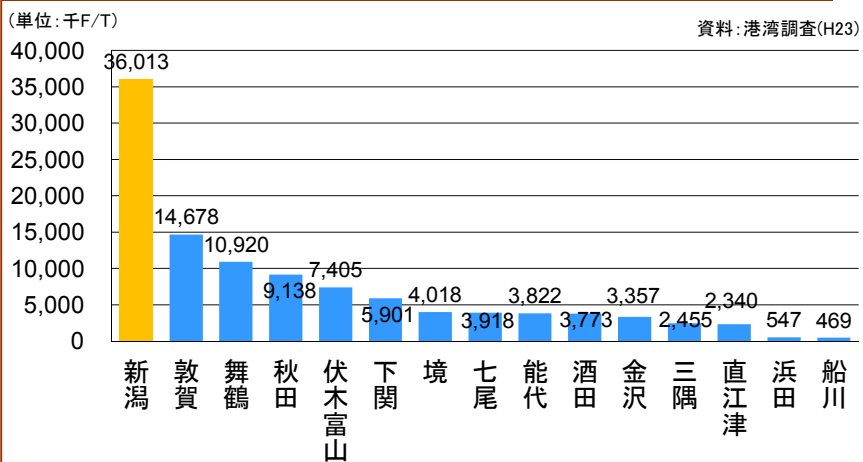
新潟港における外貨コンテナ取扱量の推移



新潟港の外貨コンテナ取扱量は、平成21年まで減少していたが、平成22年に増加に転じ、平成23年度に198,265TEUとなった。

10. 港湾・空港

本州日本海側の港湾別 貨物取扱量



新潟港の貨物取扱量は、3,601万3千F/Tで、本州日本海側で第1位となっている。第2位は敦賀港で、1,467万8千F/T。

10. 港湾・空港

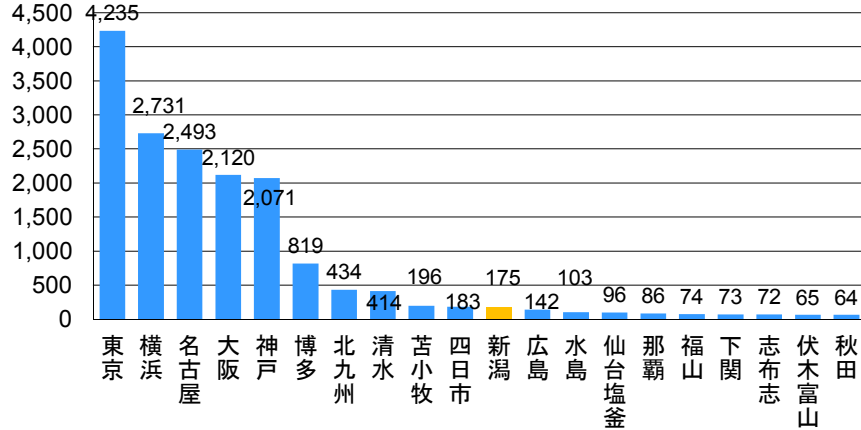
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



港湾別 外貨コンテナ取扱量

(単位:千TEU)

資料:国土交通省資料(H24)



新潟港の外貨コンテナ取扱量は、17万5千TEUと全国の港湾の中で第11位となっている。第1位は東京港で423万5千TEU。

10. 港湾・空港

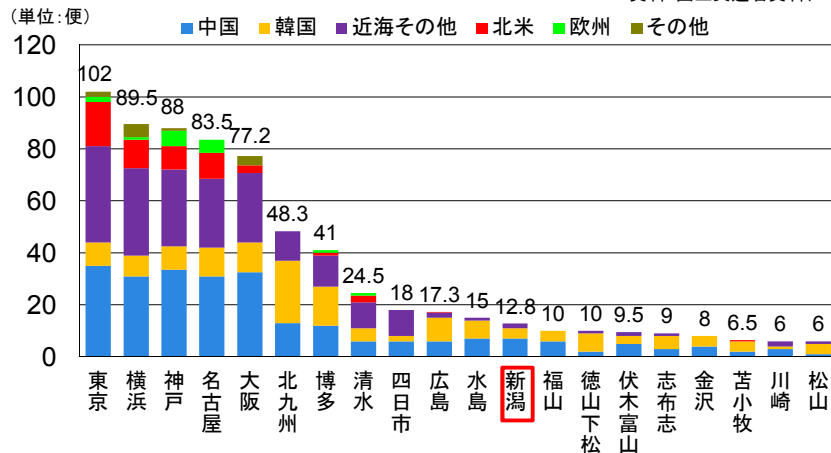
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



港湾別 外貨定期コンテナ航路便数

(単位:便)

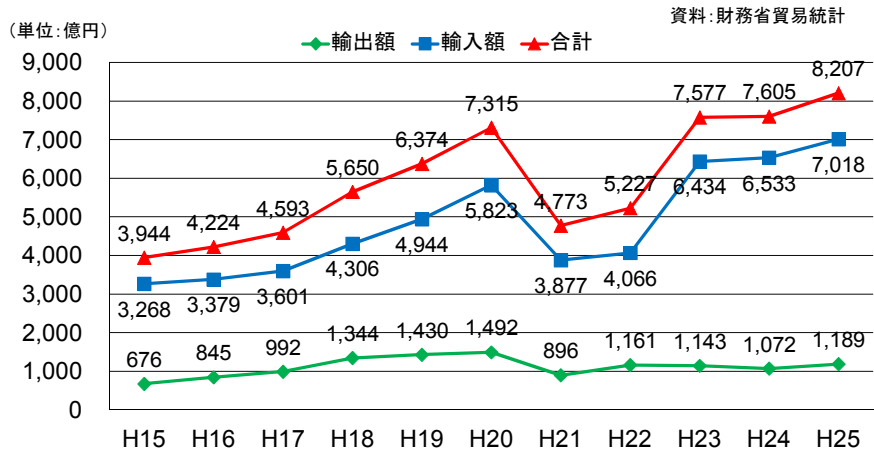
資料:国土交通省資料(H25)



新潟港の1週間当たりの外貨定期コンテナ航路便数は12.8便で、全国の港湾で第12位となっている。このうち、中国航路が最も多く、7.0便/週となっている。

10. 港湾・空港

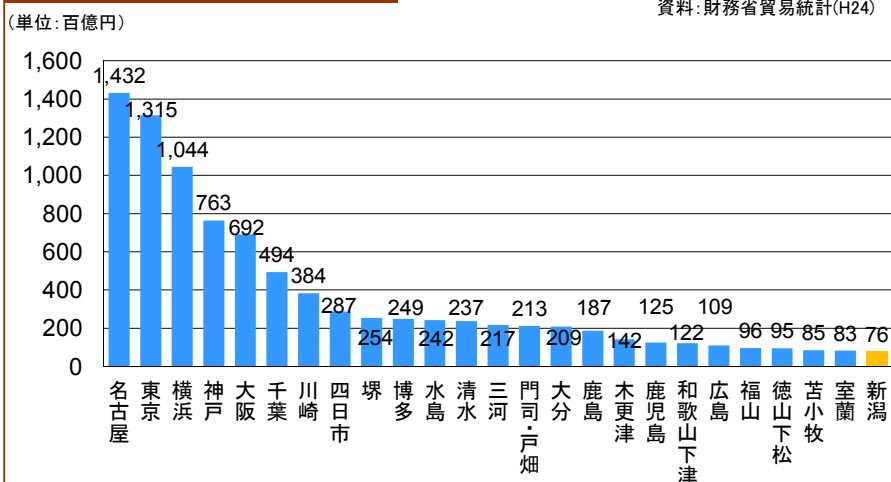
新潟港における貿易額の推移



新潟港の輸入額は、平成23年に前年比約1.6倍と大きく増加した。平成25年は過去最高額となっている。輸出額は、平成20年まで増加していたが、平成21年に減少し、1,000億円を下回った。その後、平成22年に増加したが、平成23年、24年は減少し、平成25年に再び増加に転じた。

10. 港湾・空港

港湾別 貿易額

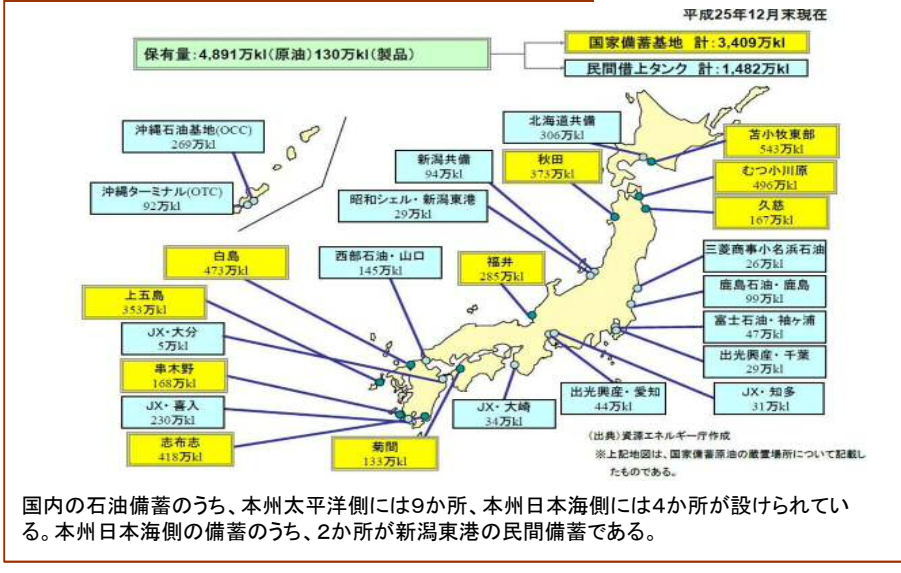


新潟港の貿易額は約7,600億円で、全国の港湾の中で第25位となっている。第1位は名古屋港で約14兆3,200億円。

10. 港湾・空港



全国における石油備蓄

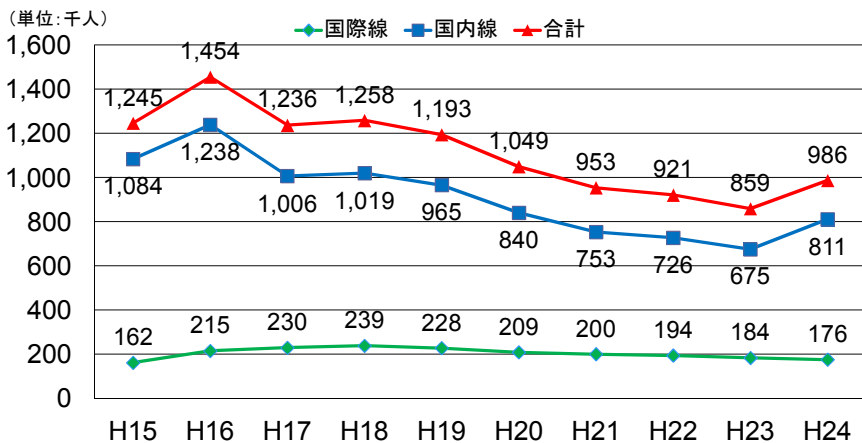


10. 港湾・空港



新潟空港における乗降客数の推移

資料:国土交通省「空港管理状況調査」



新潟空港の乗降客数は、平成16年度をピークに減少が続いていたが、平成24年度に国内線が増加に転じた。国際線は平成18年度から減少し続けている。

10. 港湾・空港

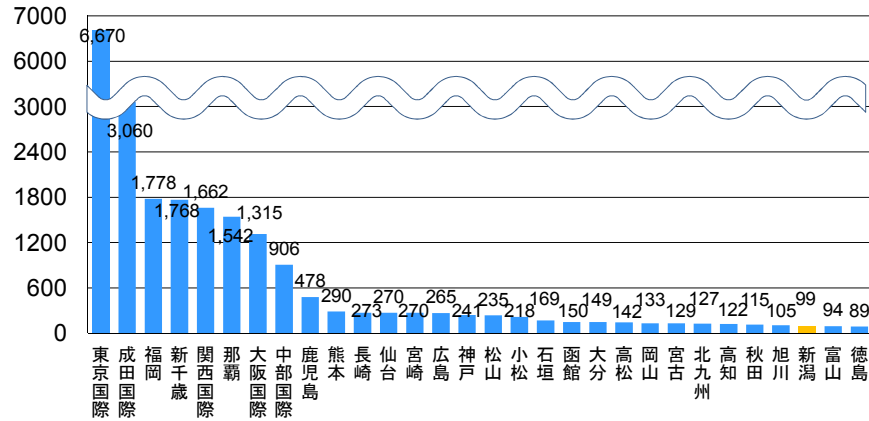
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



空港別 乗降客数

(単位:万人)

資料:国土交通省「空港管理状況調書」(H24)



新潟空港の乗降客数は約99万人で、全国の空港の中で第28位となっている。第1位は東京国際空港で、約6,670万人。

10. 港湾・空港

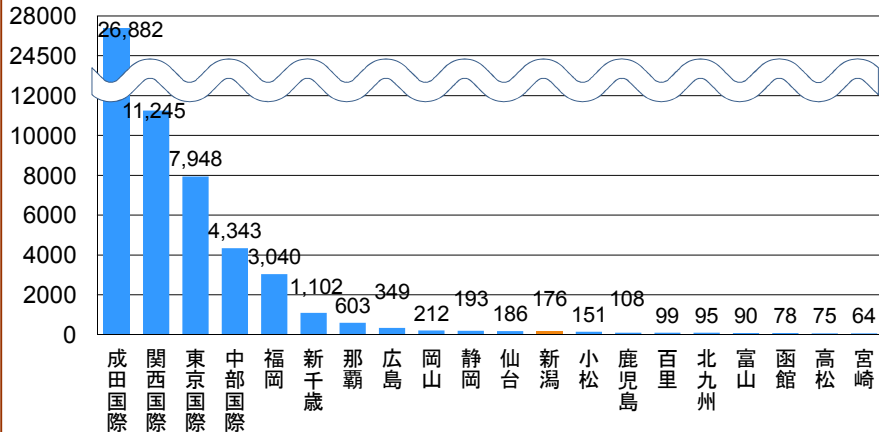
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



空港別 国際線乗降客数

(単位:千人)

資料:国土交通省「空港管理状況調書」(H24)



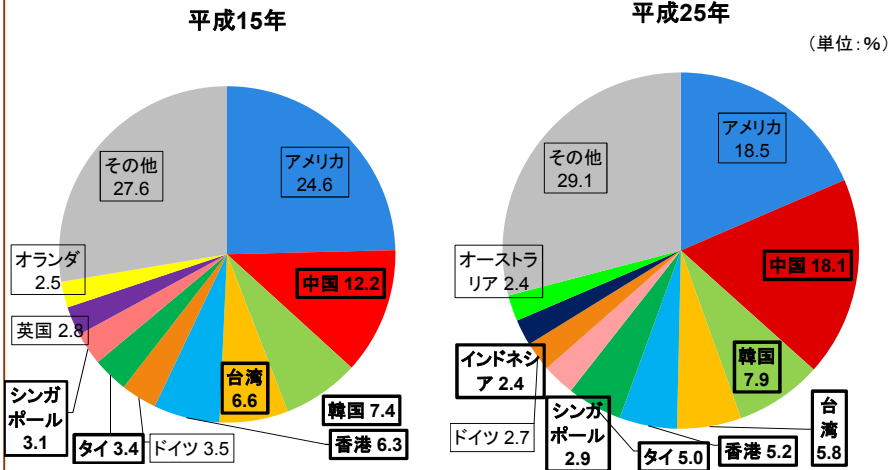
新潟空港の国際線乗降客数は約17万6,000人で、全国の空港の中で第12位となっている。第1位は成田国際空港で、約2,688万2,000人。

10. 港湾・空港



日本の国別輸出額割合

資料：財務省貿易統計



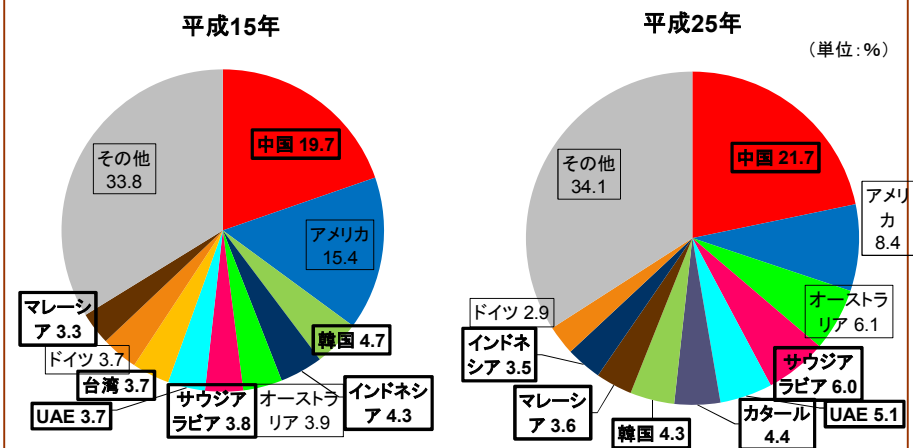
日本の国別輸出額の割合は、平成15年と平成25年の比較で、アジア諸国への輸出額の割合が39.0%から47.3%と8.3ポイント増加している。

10. 港湾・空港



日本の国別輸入額割合

資料：財務省貿易統計



日本の国別輸入額の割合は、平成15年と平成25年の比較で、アジア諸国からの輸入額の割合が43.2%から48.6%と5.4ポイント増加している。

11. 観光・交流

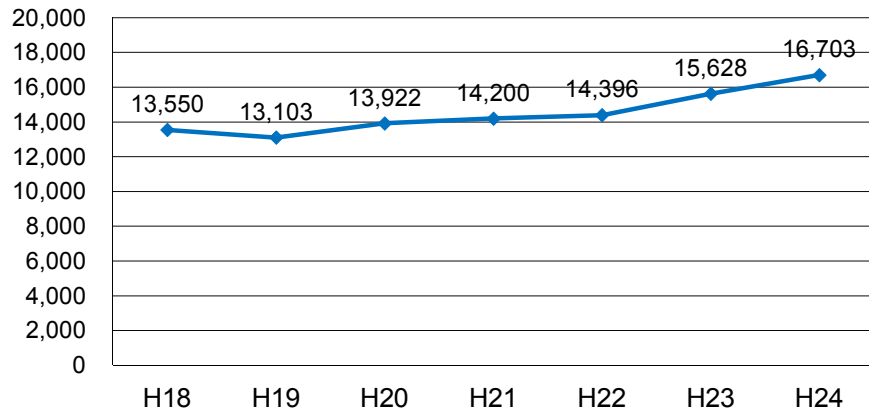
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



本市における観光入込客数の推移

(単位:千人)

資料:新潟県観光入込客統計



本市の観光入込客数は、平成19年度から増加傾向にある。
※調査方法変更のため平成23年より年度単位から年単位集計となっている。

11. 観光・交流

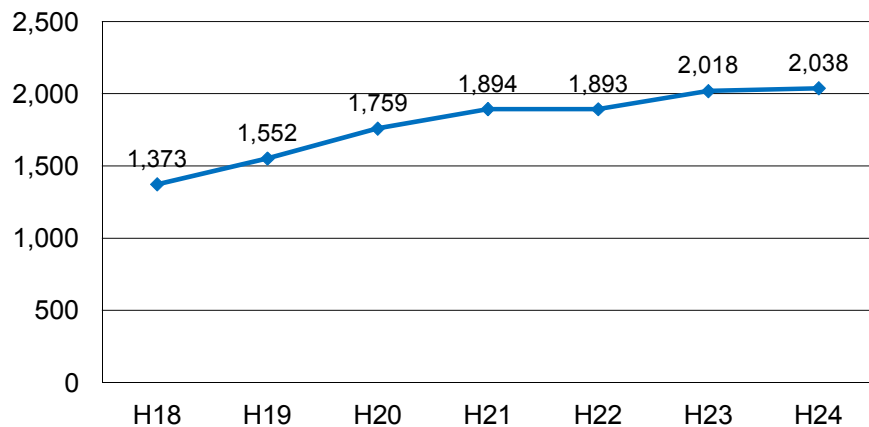
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



本市における延べ宿泊者数の推移

(単位:千人)

資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」



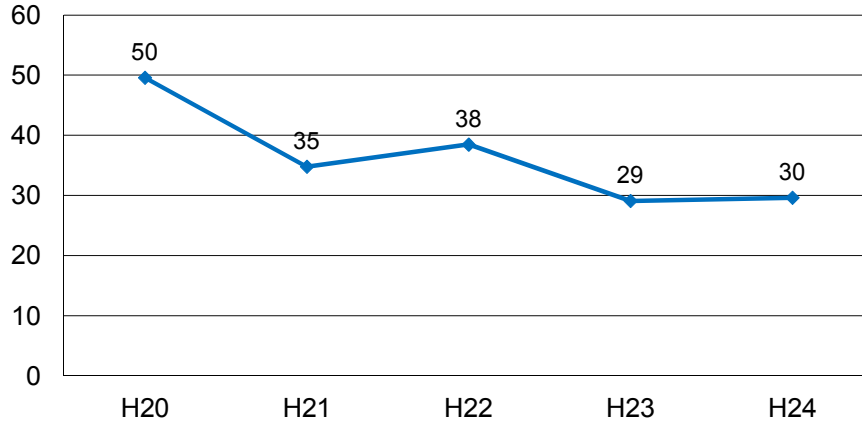
本市の延べ宿泊者数は、平成18年度から増加傾向にある。平成24年度は約203万8,000人となっている。

11. 観光・交流

本市における外国人宿泊者数の推移

(単位:千人)

資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」



本市の外国人宿泊者数は、平成20年度に約50,000人であったが、平成21年度は約35,000人と3割減少した。平成22年度に増加したが、平成23年度に再び減少し、平成24年度はほぼ横ばいである。

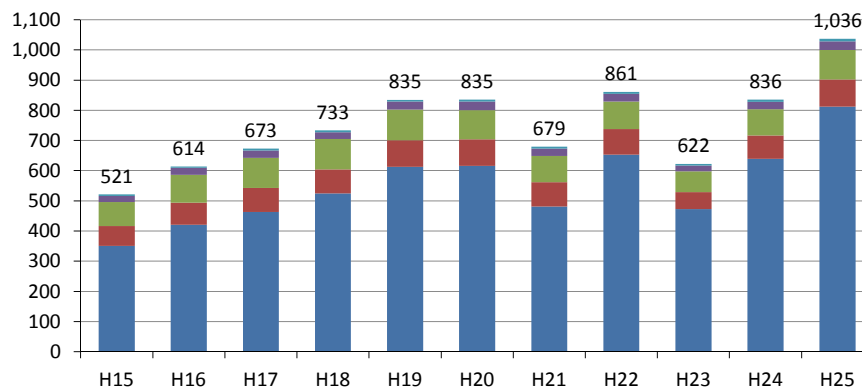
11. 観光・交流

訪日外国人旅行者数の推移(全国)

資料:日本政府観光局(JNTO)

(単位:万人)

■ アジア計 ■ ヨーロッパ計 ■ 北アメリカ計 ■ オセアニア計 ■ その他



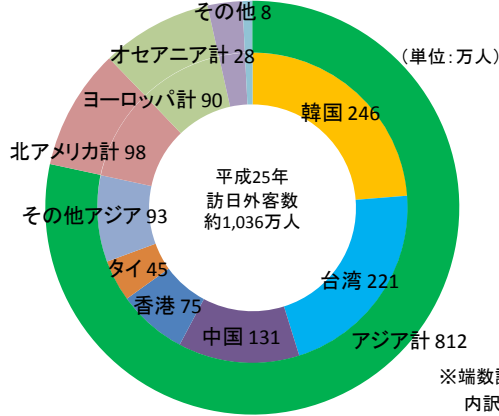
訪日外国人旅行者数は、平成23年に大幅に減少したが、平成24年には回復し、25年には1,000万人を初めて超えた。地域別では、アジアの割合が高くなっている。

11. 観光・交流



訪日外国人旅行者数地域別 内訳(全国)

資料：日本政府観光局(JNTO)



※端数調整しているため、内訳と合計が一致しない

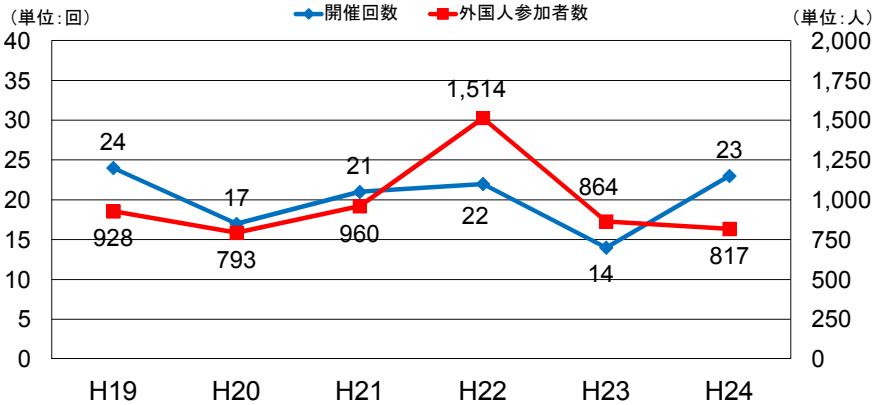
平成25年の訪日外国人旅行者数の地域別内訳では、アジアが8割近く占めている。なかでも韓国と台湾で全体の約半数を占め、次いで中国となっている。

11. 観光・交流



本市の国際会議開催回数と外国人参加者数の推移

資料：日本政府観光局(JNTO) 国際会議統計

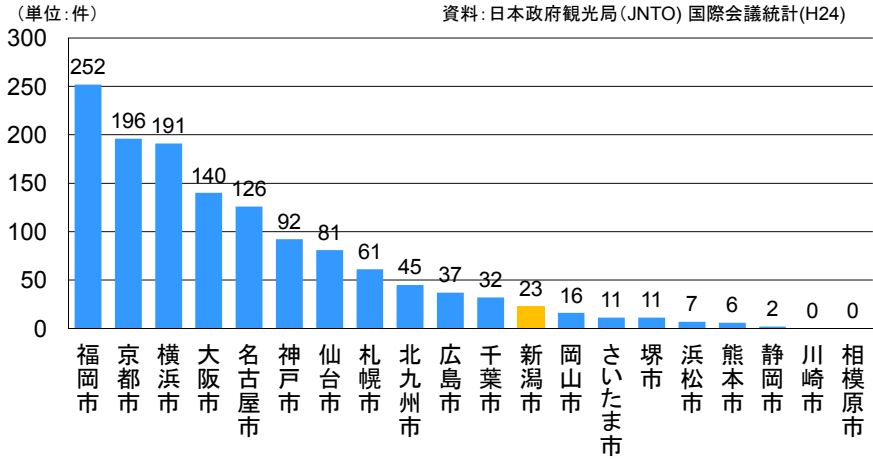


本市の国際会議の開催回数は、概ね20回前後で推移している。平成23年度に14回に減少したが、平成24年度には23回に増加した。外国人参加者数は平成22年度に1,514人と前年から554人増加したが、平成23年度には864人に減少した。

11. 観光・交流



政令市別 国際会議開催件数

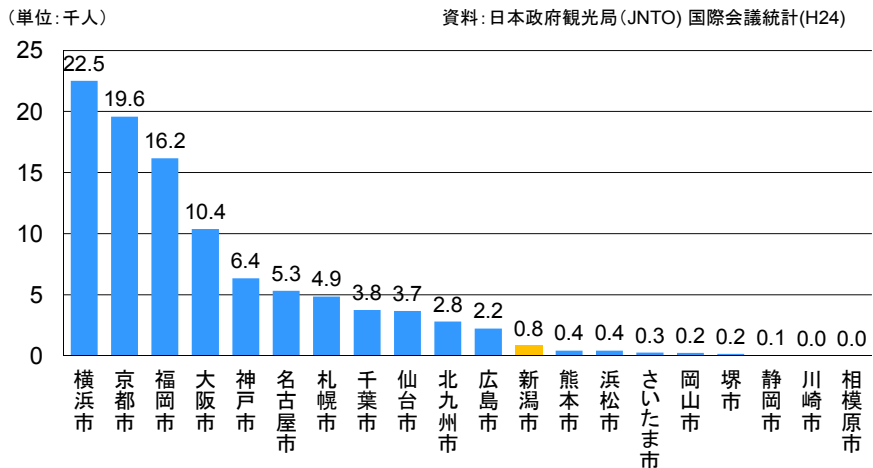


本市の国際会議の開催件数は23件で、政令市中第12位となっている。第1位は福岡市で252件。

11. 観光・交流



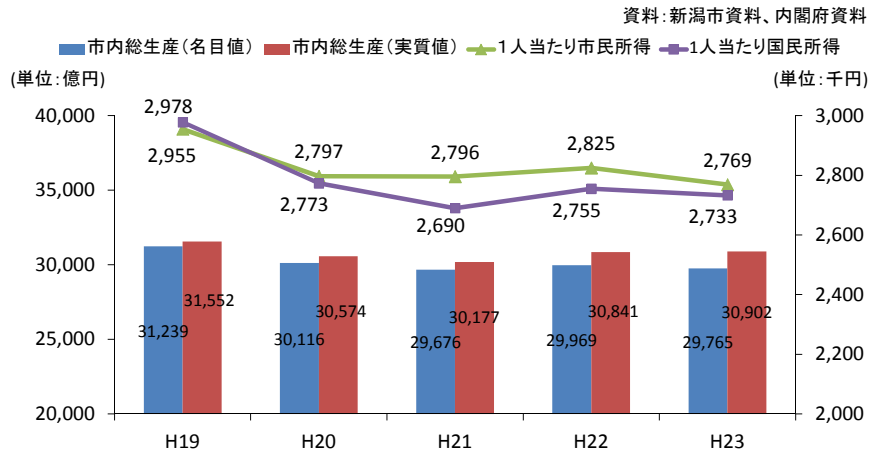
政令市別 国際会議外国人参加者数



本市の国際会議への外国人の参加者数は約800人で、政令市中第12位となっている。第1位は横浜市で約25,000人。

12. 産業

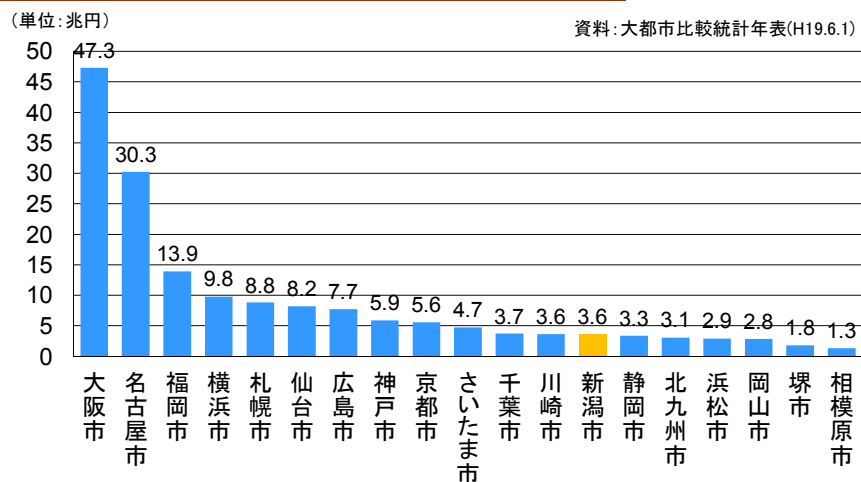
本市の市内総生産および市民所得推移



平成23年度の本市の市内総生産(実質値)は、約3兆円となっており、平成19年度以降ほぼ横ばいとなっている。1人当たりで比較すると、市民所得が国民所得をわずかに上回っている。

12. 産業

政令市別 年間商品販売額



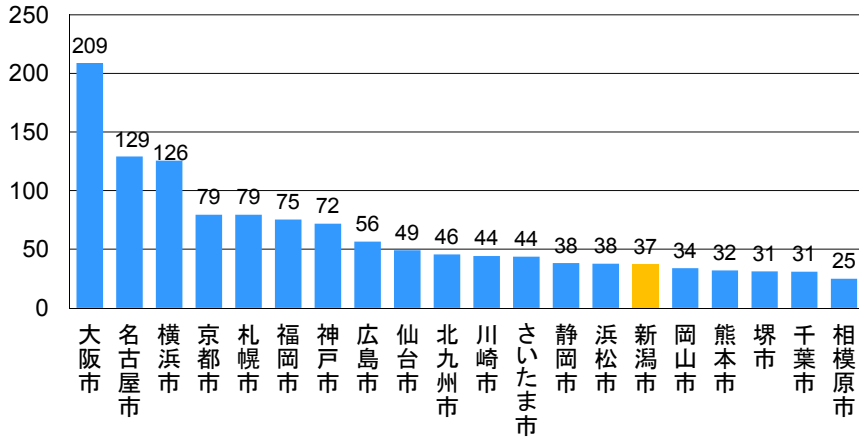
本市の年間商品販売額は約3兆6,000億円で政令指定都市の中で第13位となっている。

12. 産業

政令市別 事業所数

(単位:千)

資料:経済センサス(H24)

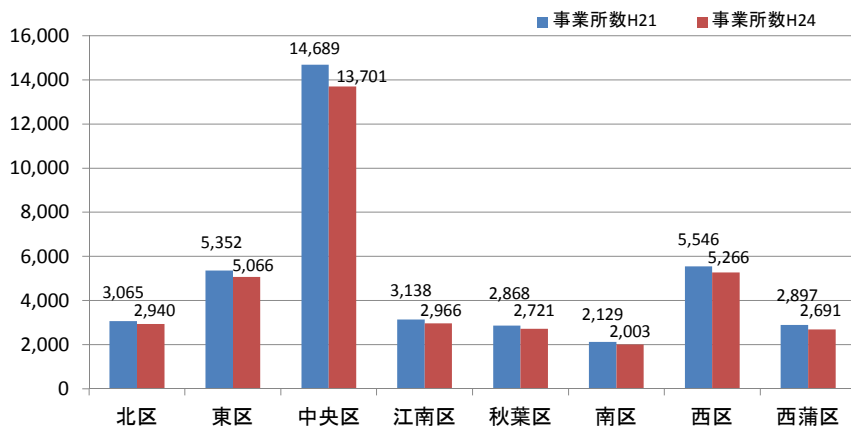


本市の事業所数は約3万7,000で政令指定都市の中で第13位。第1位は大阪市で約20万9,000事業所。

12. 産業

区別 事業所数

資料:経済センサス(H21,H24)



区別事業所数は中央区が平成24年は13,701と最も多く、次いで西区が5,266。全区で平成21年より平成24年が事業所数が減少。

12. 産業

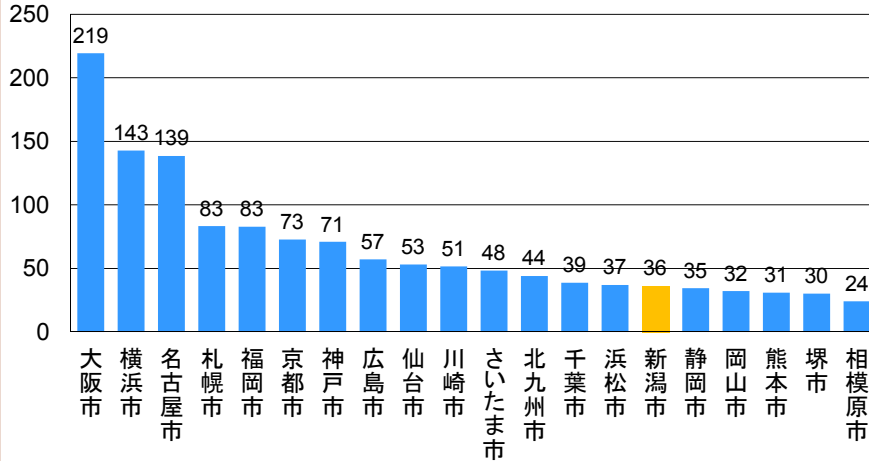
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 従業者数

(単位:万人)

資料:経済センサス(H24)



本市の従業者数は約36万人で政令指定都市の中で第15位。事業所数と同様に大阪府が第1位で約219万人。

12. 産業

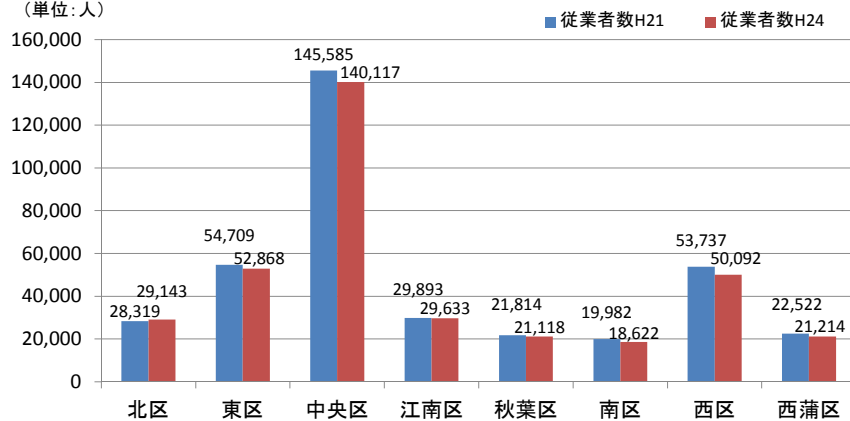
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



区別 従業者数

(単位:人)

資料:経済センサス(H21,H24)



区別従業者数は中央区が平成24年は140,117人と最も多く、次いで東区が52,868人。北区以外では平成21年より平成24年が従業者数が減少。

12. 産業

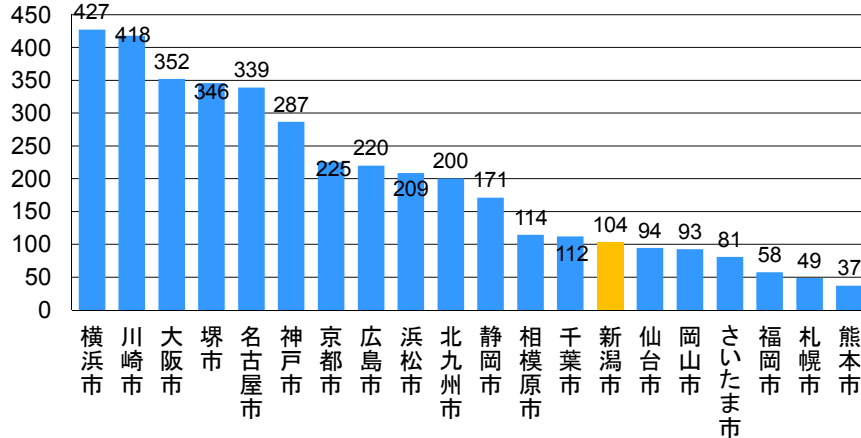
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 製造品出荷額等

(単位:百億円)

資料:工業統計調査(H24)



本市の製造品出荷額は約1兆400億円で政令指定都市の中で14位となっている。

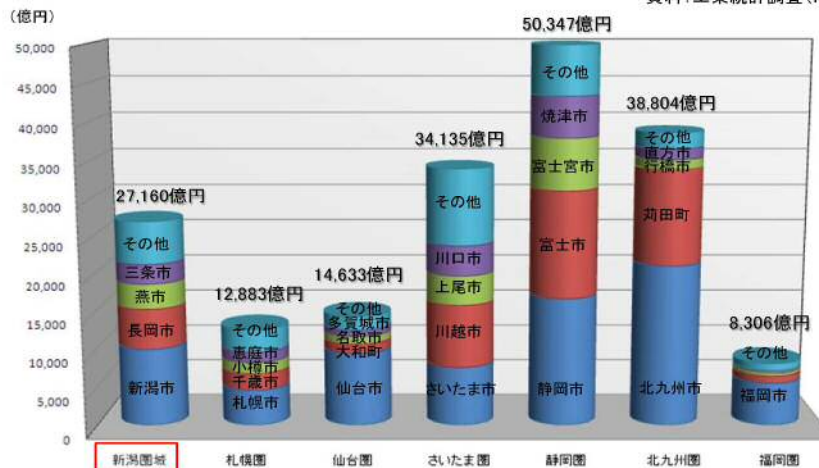
12. 産業

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



主な政令市(隣接市町村圏)の製造品出荷額

資料:工業統計調査(H22)



本市の製造品出荷額(H22)は約1兆円であり、仙台市とほぼ同じ規模となっている。
圏域で比較すると、新潟圏域は2.7兆円を超え、仙台圏域の約2倍の規模となっている。

12. 産業

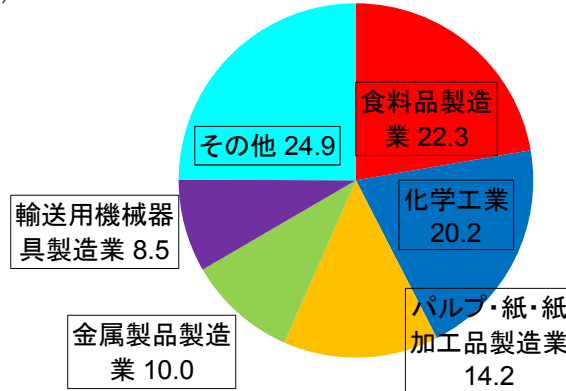
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



本市における製造品出荷額等の産業分類別内訳

資料：工業統計調査(H24)

(単位：%)



本市の平成24年の製造品出荷額等の産業分類別内訳は、食料品製造業が一番多く22.3%、次いで化学工業が20.2%、金属製品製造業が10.0%、輸送用機械器具製造業が8.5%となっている。

12. 産業

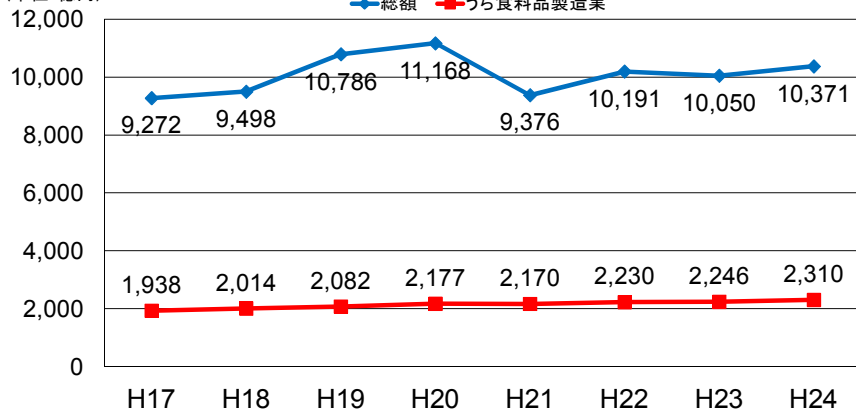
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



本市における製造品出荷額等の推移

資料：工業統計調査、経済センサス

(単位：億円)



本市の製造品出荷額は1兆円前後で推移し、そのうち食料品製造業が約2,000億円前後で推移。

12. 産業

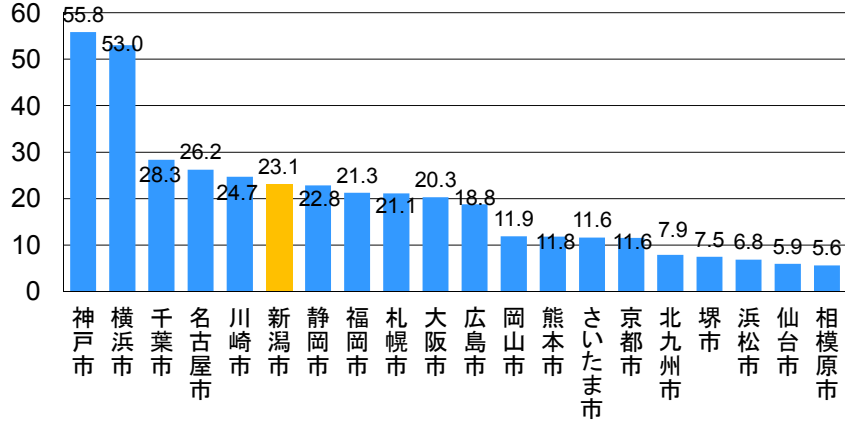
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 食料品製造業の出荷額等

(単位:百億円)

資料:工業統計調査(H24)



本市の食料品製造業の出荷額等は政令指定都市の中で第6位となっている。

12. 産業

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟

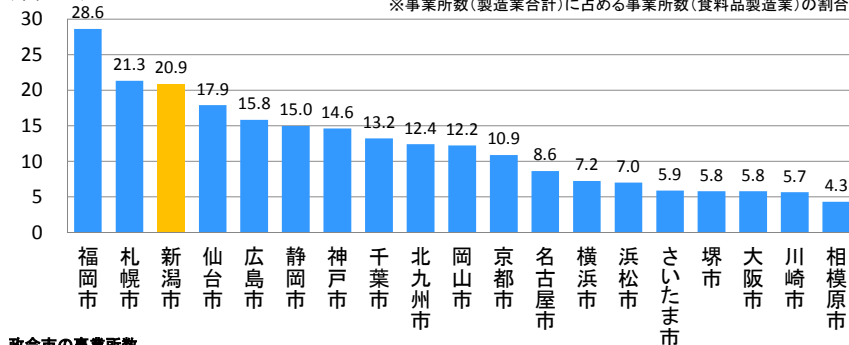


政令市別 食料品製造業の割合

(単位:%)

資料:経済センサス(H24)

※事業所数(製造業合計)に占める事業所数(食料品製造業)の割合



政令市の事業所数

| | 福岡 | 札幌 | 新潟 | 仙台 | 広島 | 静岡 | 神戸 | 千葉 | 北九州 | 岡山 | 京都 | 名古屋 | 横浜 | 浜松 | さいたま | 堺 | 大阪 | 川崎 | 相模原 |
|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-----|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 製造業合計 | 916 | 1,186 | 1,160 | 603 | 1,403 | 1,727 | 1,862 | 529 | 1,112 | 974 | 2,922 | 5,078 | 3,007 | 2,412 | 1,221 | 1,659 | 7,591 | 1,469 | 1,068 |
| うち食料品 | 262 | 253 | 242 | 108 | 222 | 259 | 272 | 70 | 138 | 119 | 318 | 437 | 217 | 169 | 72 | 96 | 439 | 83 | 46 |

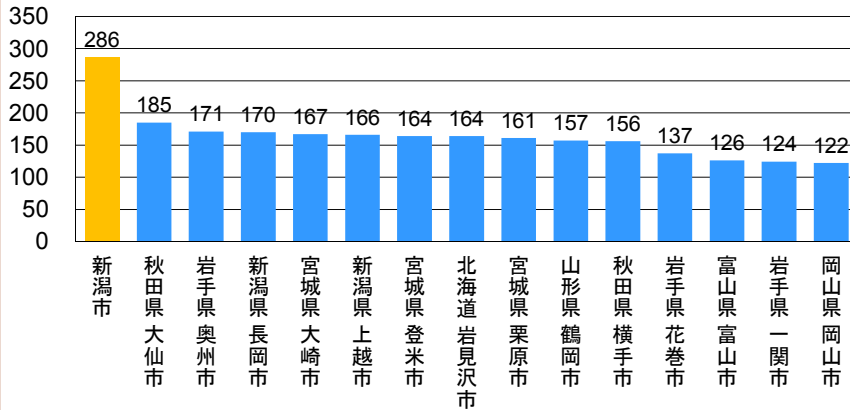
本市の食料品製造業の事業所割合は、福岡市、札幌市に次いで政令市第3位。

13. 農業

本市の水田耕地面積(他都市比較)

(単位:百ha)

資料:耕地面積統計調査(H24)



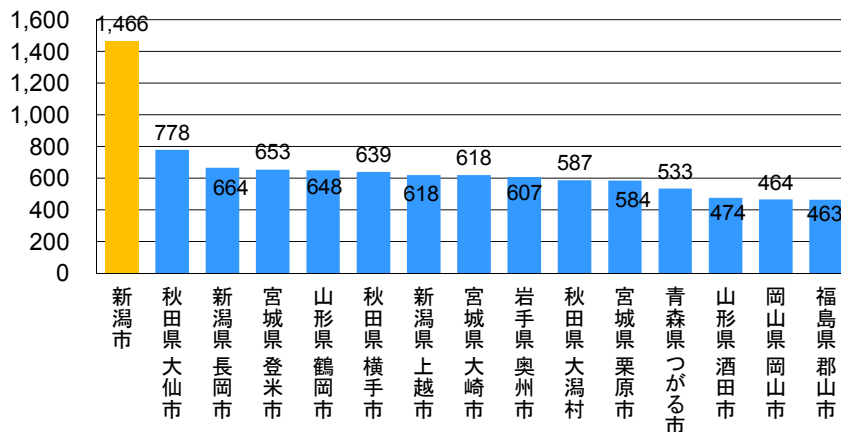
本市の田の耕地面積は28,600haで、全国の市町村中第1位となっている。第2位は秋田県大仙市の18,500ha、第3位は岩手県奥州市で17,100ha、第4位は新潟県長岡市で17,000haと続いている。

13. 農業

本市の水稻収穫量(他都市比較)

(単位:百t)

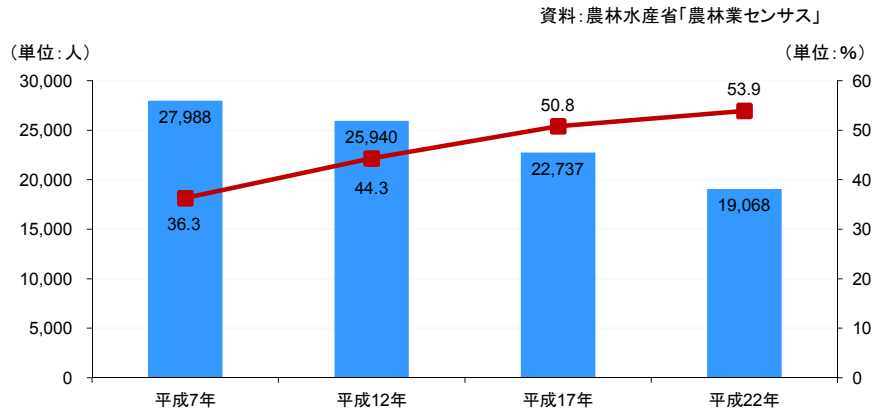
資料:作況調査(H24)



本市の水稻収穫量は146,600tで、全国の市町村中第1位となっている。第2位は秋田県大仙市の77,800t、第3位は新潟県長岡市で、66,400tと続いている。

13. 農業

本市の農業就業人口と65歳以上比率の推移

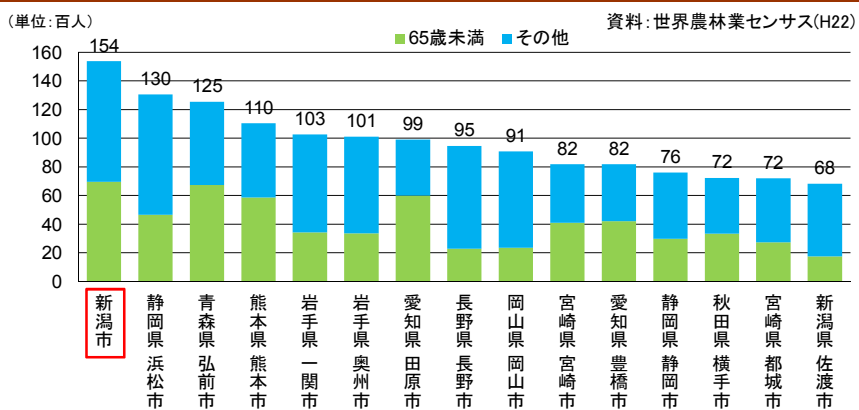


※農業就業人口：自営農業に主として従事した世帯員数

農林業センサスによる本市の農業就業人口は平成7年調査以降減少し続けており、平成22年調査では19,068人で、前回(平成17年)より3,669人減少した。また、65歳以上比率は平成7年調査以降増加し続けており、前回より3.1ポイント増加した。

13. 農業

本市の基幹的農業従事者数(他都市比較)



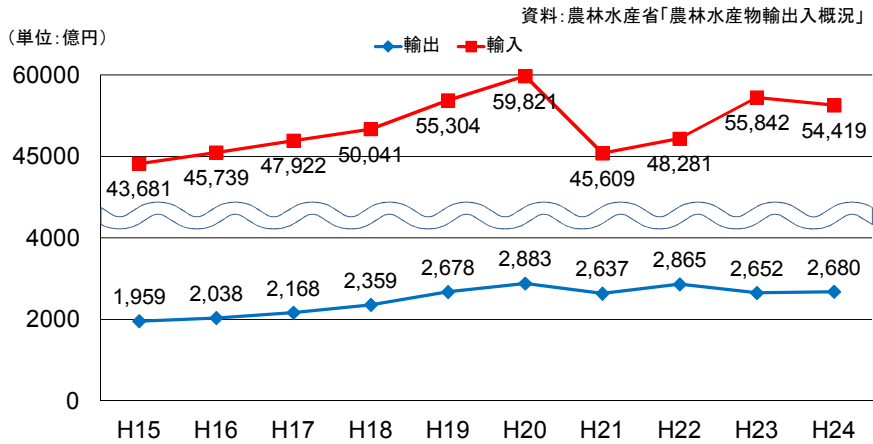
※基幹的農業従事者数：自営農業に主として従事した世帯員のうち、仕事が主の世帯員数

本市の基幹的農業従事者数は約15,400人で全国第1位となっている。
なお、本市の65歳未満の基幹的農業従事者の割合は45.2%を占めている。

13. 農業



日本における農産物の輸出入推移

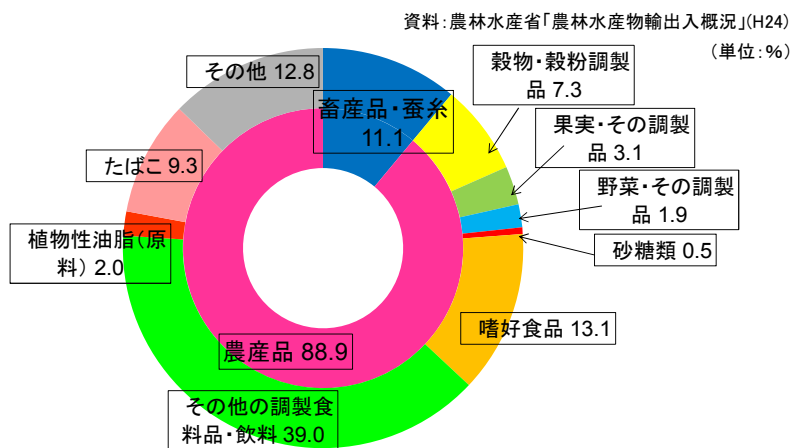


日本の農産物の輸出入状況は、輸出入ともに平成20年度まで増加していたが、平成21年度に減少。平成22年度以降増加傾向にある。平成24年度の輸入額は5兆4,419億円、輸出額は2,680億円。

13. 農業



日本における農産物の輸出品目別割合

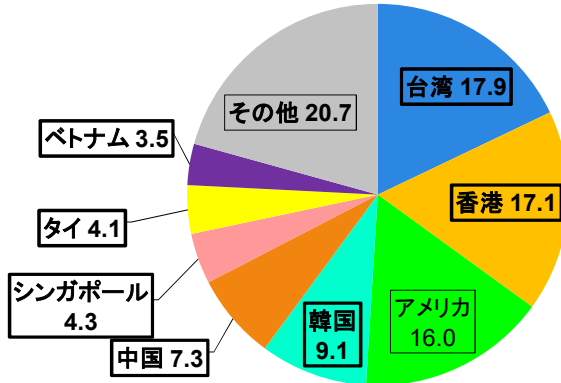


日本の農産物の輸出品目は、その他の調製食料品・飲料が最も多く39.0%、嗜好食品、畜産品・蚕糸、たばこ、穀物・穀粉調整品と続いている。

13. 農業

日本における農産物輸出額の国別割合

資料：農林水産省「農林水産物輸出入概況」(H24)
(単位：%)



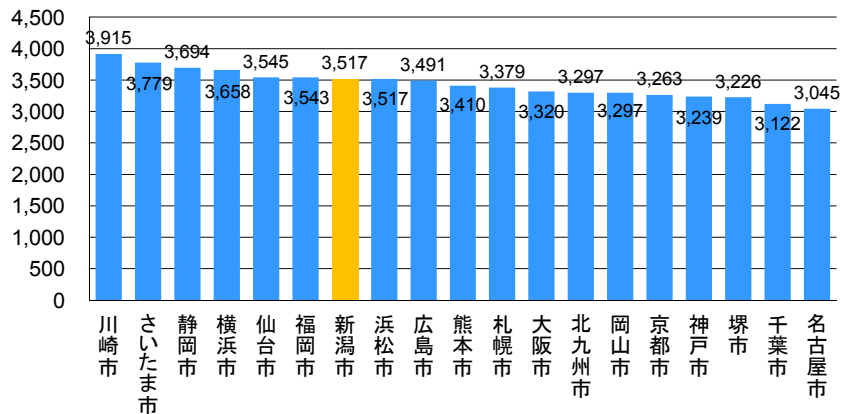
日本の農産物の輸出額の国別割合は、台湾が17.9%で最も多くなっている。アジア諸国(台湾、香港、韓国、中国、シンガポール、タイ、ベトナム)への輸出額の割合が全体の63.3%を占めている。

14. 消費

政令市別 年間消費支出額

(単位：千円)

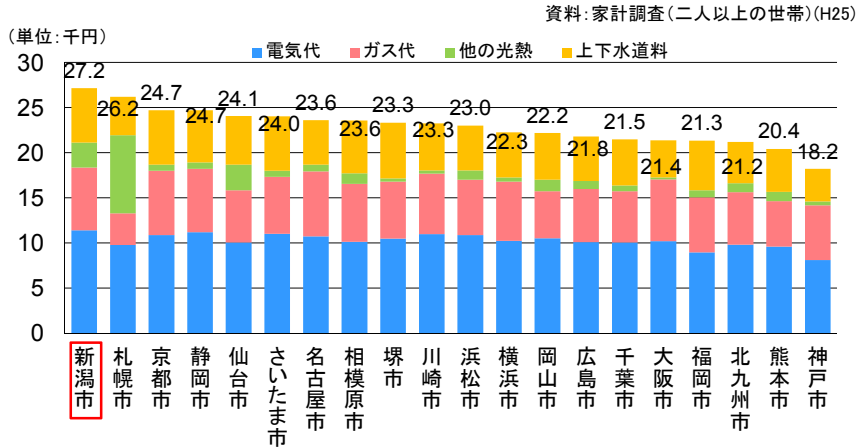
資料：家計調査(二人以上の世帯)(H24)



本市の2人以上の世帯の年間消費支出額は351万7千円で、政令市中第7位となっている。第1位は川崎市で391万5千円、第2位はさいたま市で377万9千円と続いている。

14. 消費

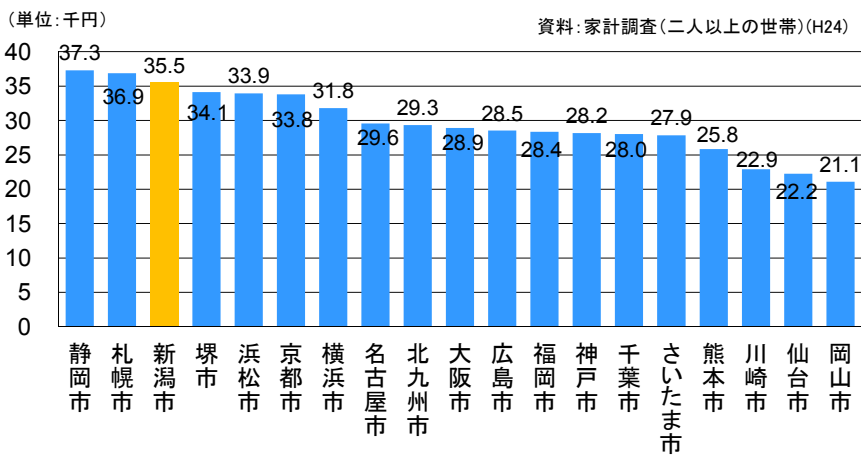
政令市別 1ヵ月平均消費支出(光熱、水道)



本市の2人以上の世帯の光熱、水道の1ヵ月平均消費支出は26,095円で、政令市中第1位となっている。電気代が10,536円で政令市中第3位、ガス代が6,698円、他の光熱が2,308円で政令市中第2位、上下水道料が6,554円で政令市中第1位となっている。

14. 消費

政令市別 年間米支出額



本市の2人以上の世帯の年間米支出額は35,500円で、静岡市の37,300円、札幌市の36,900円に続き、政令市中第3位となっている。

15. 環境

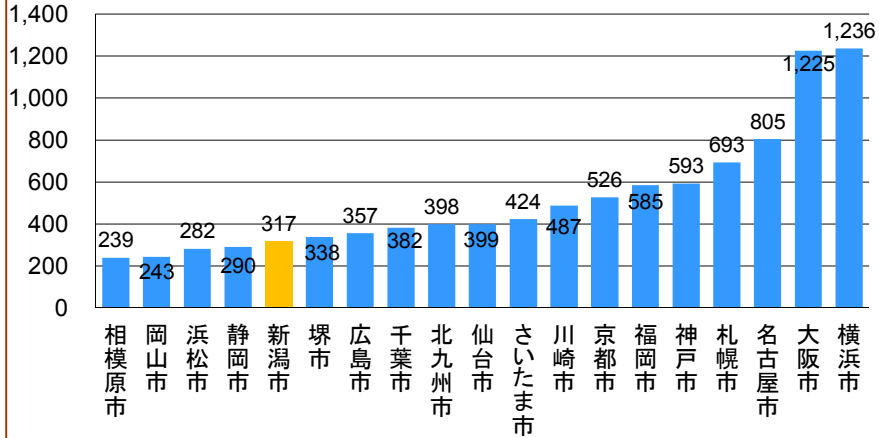
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 ごみ年間総排出量

(単位:千t)

資料:一般廃棄物処理実態調査(H22)



本市のごみ年間総排出量は31万7千tで、政令指定都市の中では相模原市、岡山市、浜松市、静岡市に続き5番目に少ない。

15. 環境

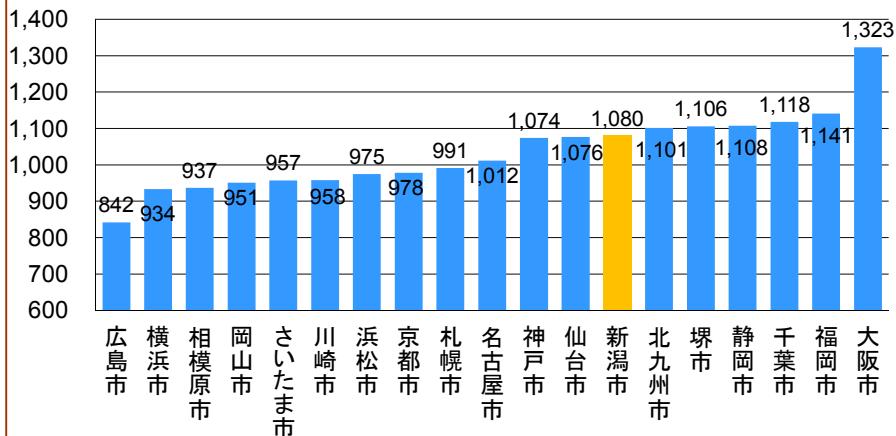
花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



政令市別 1人当たりごみ総排出量

(単位:g/人・日)

資料:一般廃棄物処理実態調査(H22)

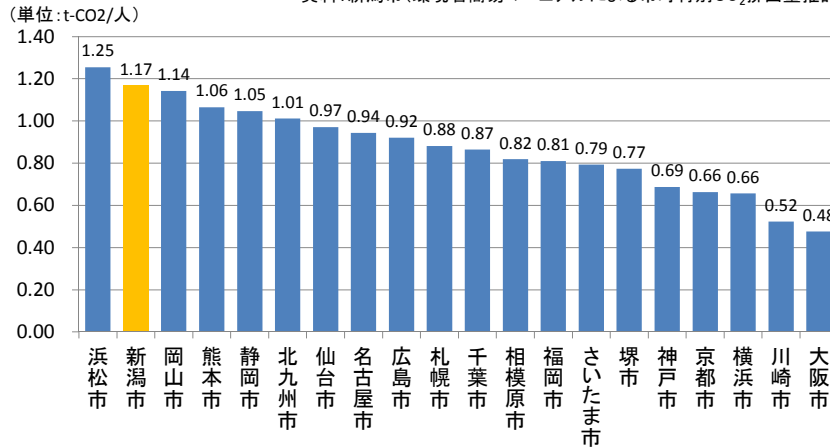


本市の1人当たりのごみ総排出量は1,080g/日で、政令指定都市の中では大阪市、福岡市、千葉市、静岡市、堺市、北九州市に続き、7番目に多い。

15. 環境

政令市別 1人当たり乗用自動車CO₂排出量

資料：新潟市(環境省簡易マニュアルによる市町村別CO₂排出量推計(H22))

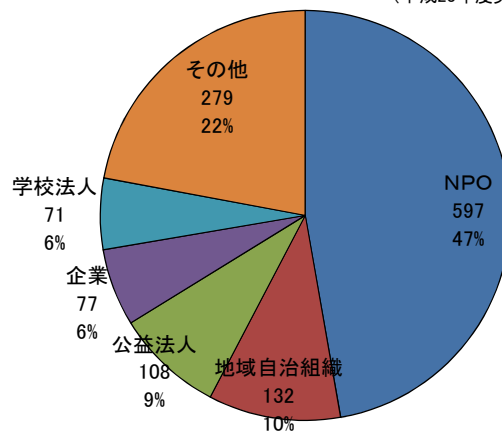


本市の1人当たりの自動車CO₂排出量は、政令市の中で浜松市に次いで多くなっている。

16. 協働

本市における協働の相手方(構成割合)

資料：新潟市「多様な主体との協働に関する調査」
(平成23年度実施事業)

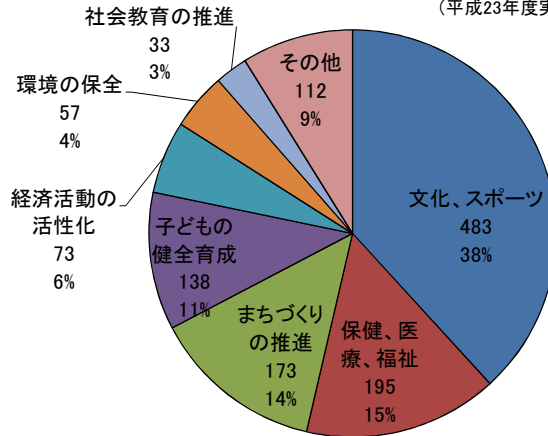


協働の相手方は、「NPO」が597件(47%)であり、次いで、「地域自治組織」が132件(10%)、「公益法人」が108件(9%)、「企業」が77件(6%)と続く。

16. 協働

本市における協働の活動分野(構成割合)

資料:新潟市「多様な主体との協働に関する調査」
(平成23年度実施事業)

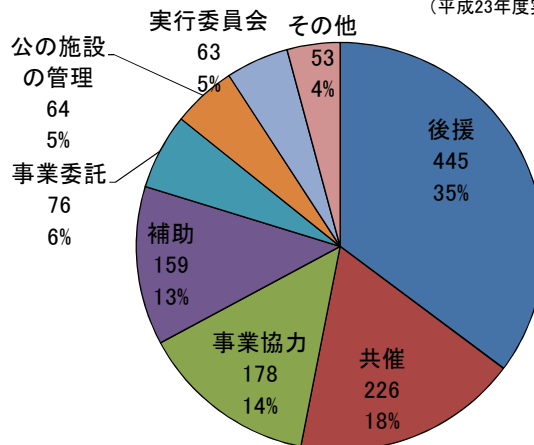


活動分野については、「文化、スポーツ」が483件(38%)であり、次いで、「保健、医療、福祉」が195件(15%)、「まちづくり」が173件(14%)と続く。

16. 協働

本市における協働の形態(構成割合)

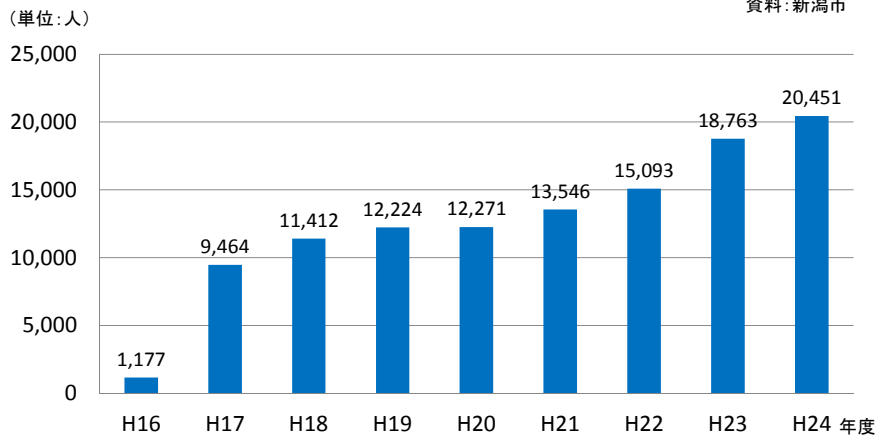
資料:新潟市「多様な主体との協働に関する調査」
(平成23年度実施事業)



協働の形態については、「後援」が445件(35%)であり、次いで「共催」が226件(18%)、「事業協力」が178件(14%)、「補助」が159件(13%)と続く。

16. 協働

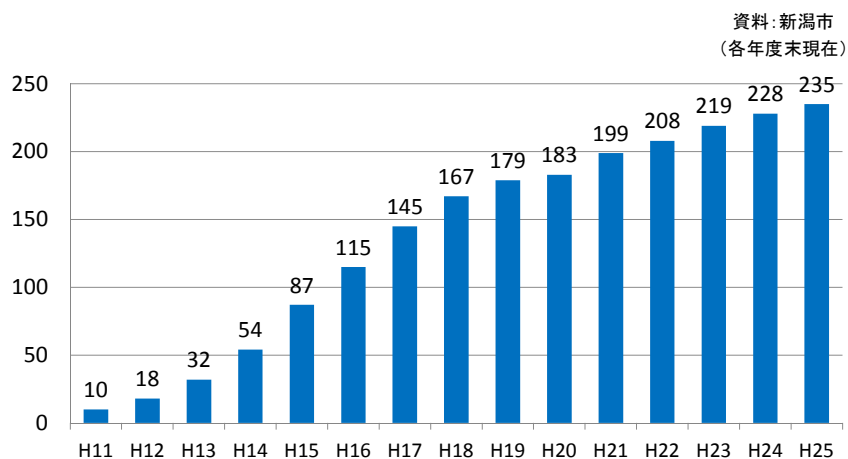
本市の市民活動支援センター利用者数の推移



市民活動支援センターの利用者数は、平成16年12月の開設以降、増加が続いている。

16. 協働

本市における特定非営利活動法人数の推移



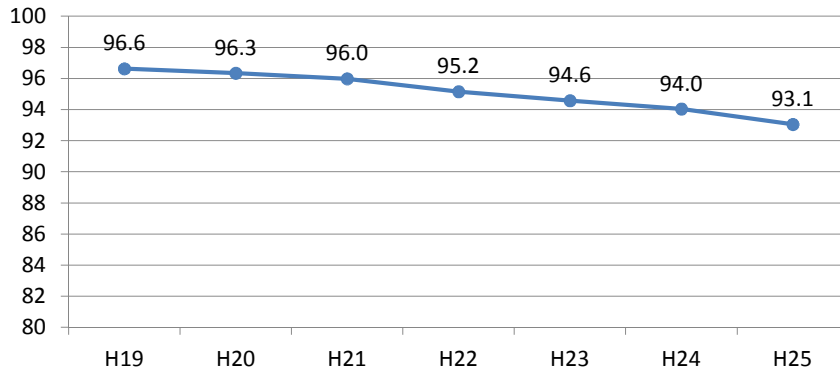
本市の特定非営利活動法人数は、増加傾向にある。

16. 協働

本市における自治会加入率の推移

(単位: %)

資料: 新潟市資料



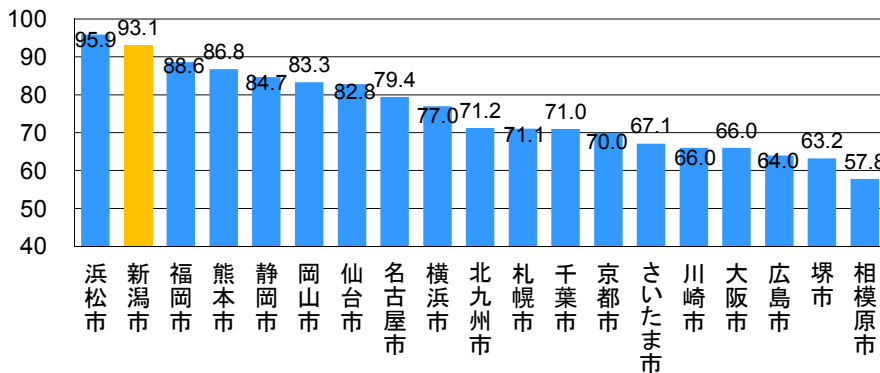
本市の自治会加入率は、平成19年度から減少傾向にあるが、90%以上の加入率を保っている。

16. 協働

政令市別 自治会加入率

(単位: %)

資料: 指定都市地域振興主管者連絡会議配布資料(H25)



※神戸市は調査なし、京都市、福岡市は自治会長等への聞き取り・アンケートによる

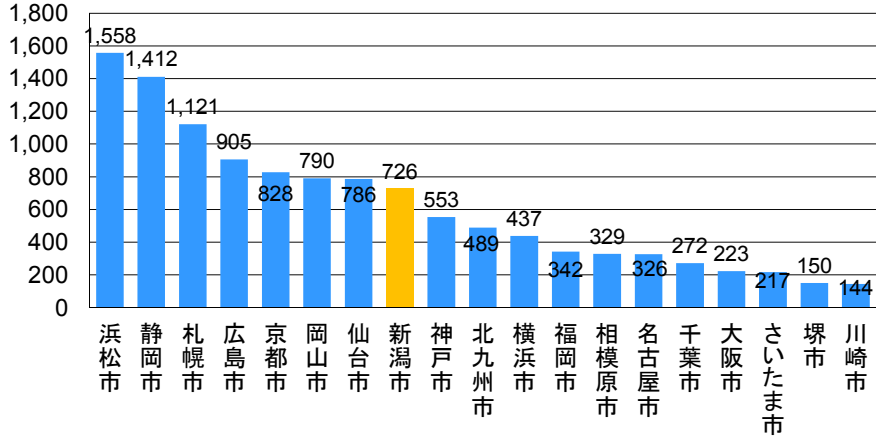
本市の平成25年度の自治会加入率は93.1%となっており、政令市の中で浜松市の95.9%に次ぐ高い割合となっている。

17. 土地利用

政令市別 市域面積

(単位:km²)

資料:大都市比較統計年表(H23)



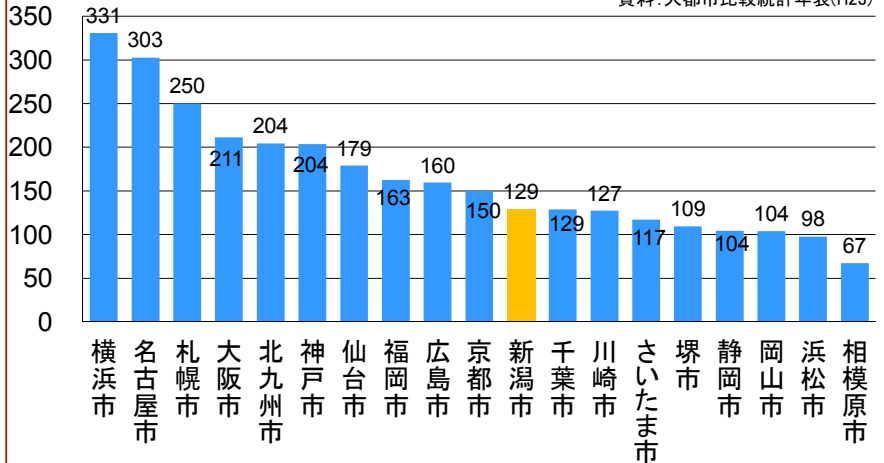
市域面積は726km²で、政令指定都市の中では8番目に大きい。最も面積が大きいのは浜松市で1,558km²。新潟市の約2.15倍。

17. 土地利用

政令市別 市街化区域面積

(単位:km²)

資料:大都市比較統計年表(H23)



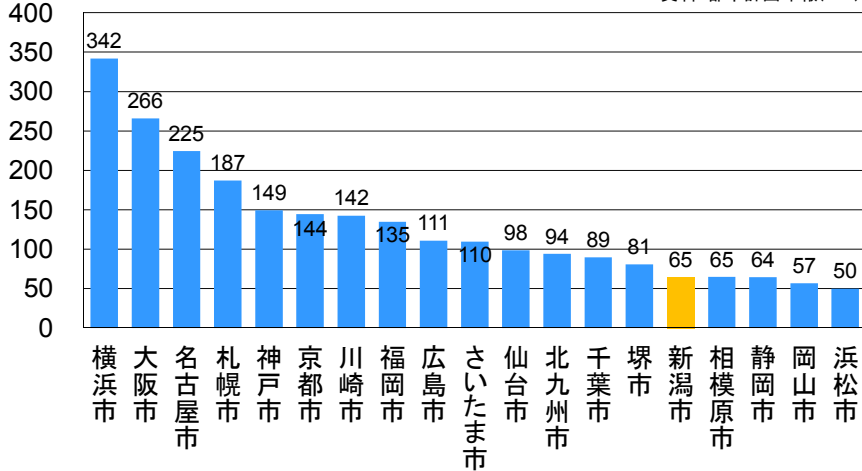
本市の市街化区域面積は129km²で政令指定都市の中では11番目に大きい。最も面積が大きいのは横浜市で331km²。新潟市の約2.57倍。

17. 土地利用

政令市別 市街化区域人口

(単位:万人)

資料:都市計画年報(H23)



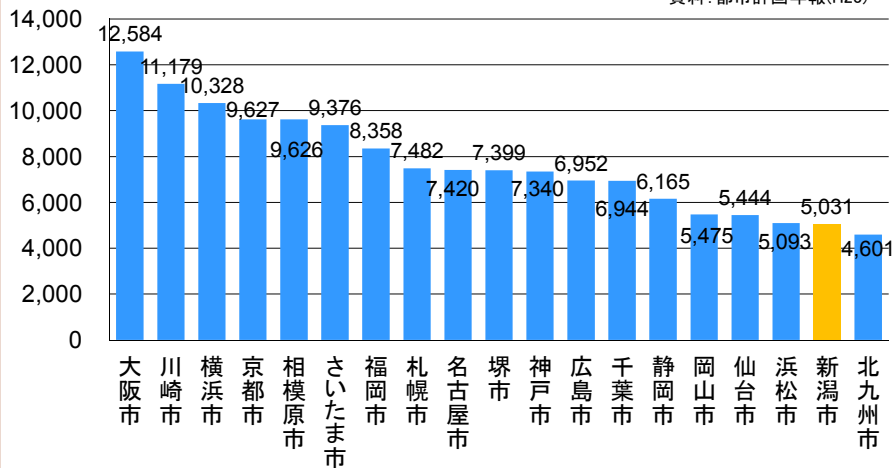
本市の市街化区域人口は約65万人で政令指定都市の中では第15位。最も多いのは横浜市で約342万人。

17. 土地利用

政令市別 市街化区域人口密度

(単位:人/km²)

資料:都市計画年報(H23)

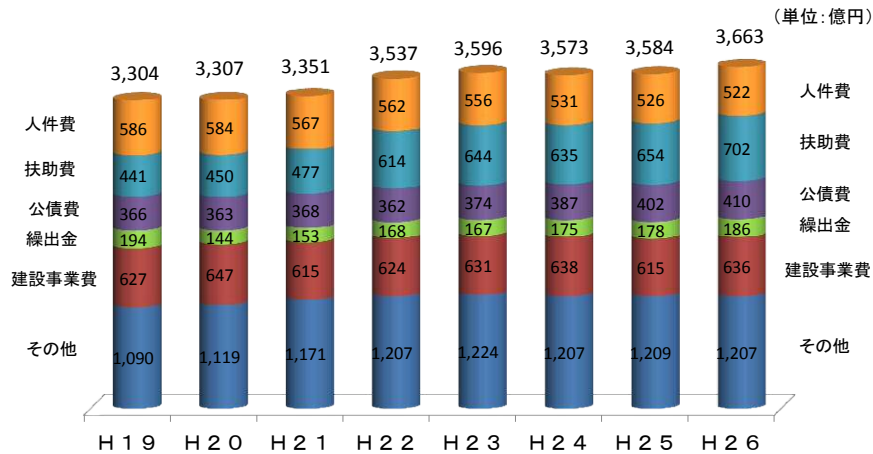


本市の市街化区域人口密度は5,031人/km²で政令指定都市の中で第18位。北九州市が最も低く、4,601人/km²で新潟市は2番目に低い。

18. 財政

本市の歳出規模の推移

資料：新潟市財務課

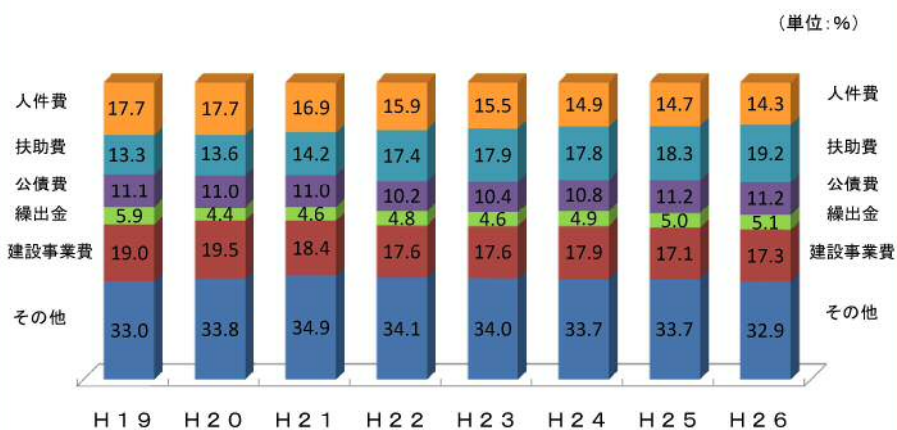


本市の平成26年度の予算規模は3,663億円となり、前年度に比較してプラス79億円、2.2%増となっている。

18. 財政

本市の歳出構成比の推移

資料：新潟市財務課

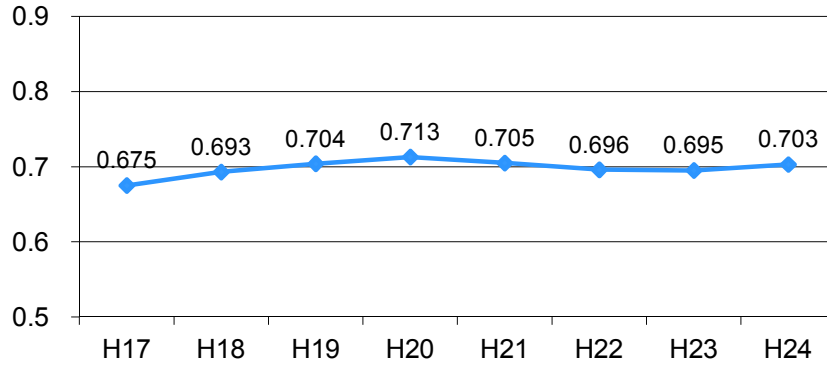


平成19年度以降、人件費の割合は低下。扶助費の割合が上昇している。

18. 財政

本市の財政力指数の推移

資料：新潟市財務課



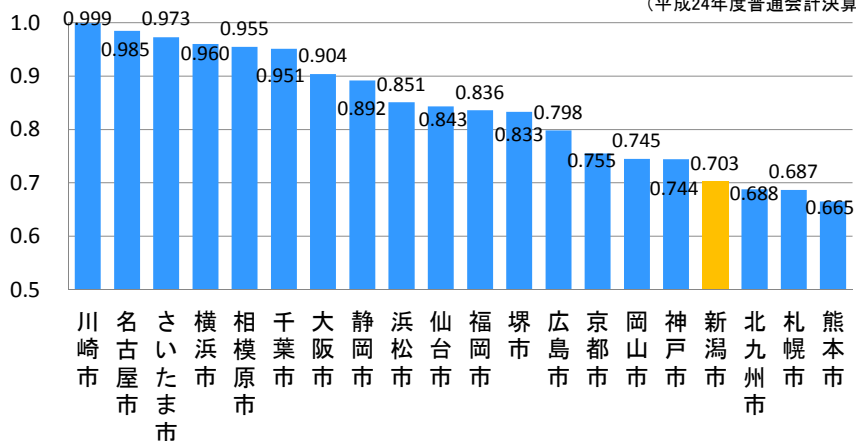
※財政力指数：地方公共団体の財政力の強弱を示す指標として用いられるもので、普通交付税の算定に用いる基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の3年間の平均。数値が1以上の団体は、通常、普通交付税の不交付団体となり、財政力の強い団体といえる。

本市の財政力指数は平成17年度以降、0.7前後で推移している。

18. 財政

政令市別 財政力指数

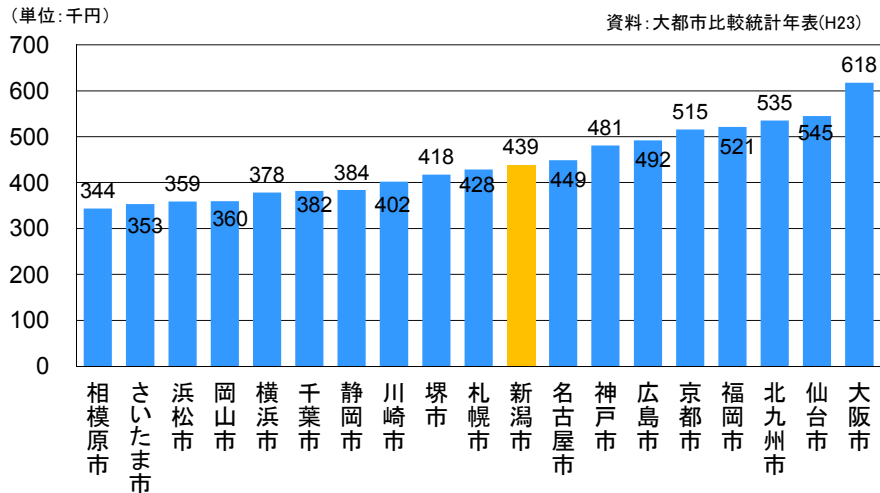
資料：新潟市財務課
(平成24年度普通会計決算)



政令市の中で最も財政力指数が高いのは川崎市0.999で、名古屋市、さいたま市が続く。本市は0.703と20市中17位。

18. 財政

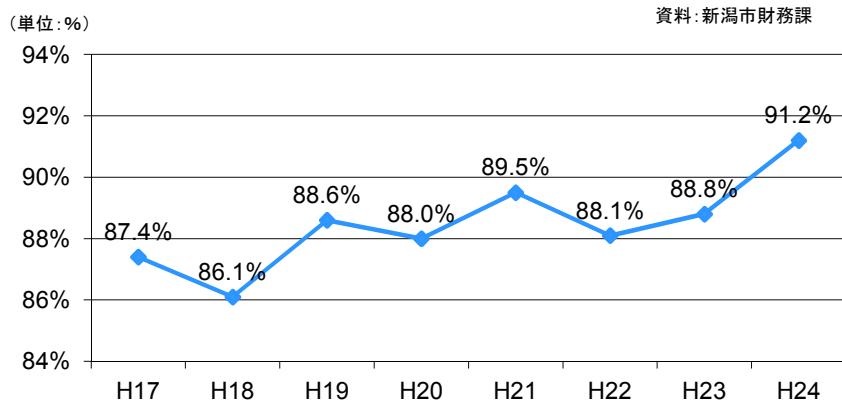
政令市別 1人当たり財政規模



本市の1人当たりの財政規模は43万9千円で、政令指定都市の中では9番目に大きい。最も大きいのは大阪市で61万8千円。

18. 財政

本市の経常収支比率の推移



※経常収支比率:財政構造の弾力性を判断するための指標で、市税などの経常的な収入である一般財源が、人件費などの経常的に必要となる経費にどの程度充てられているかを表す。

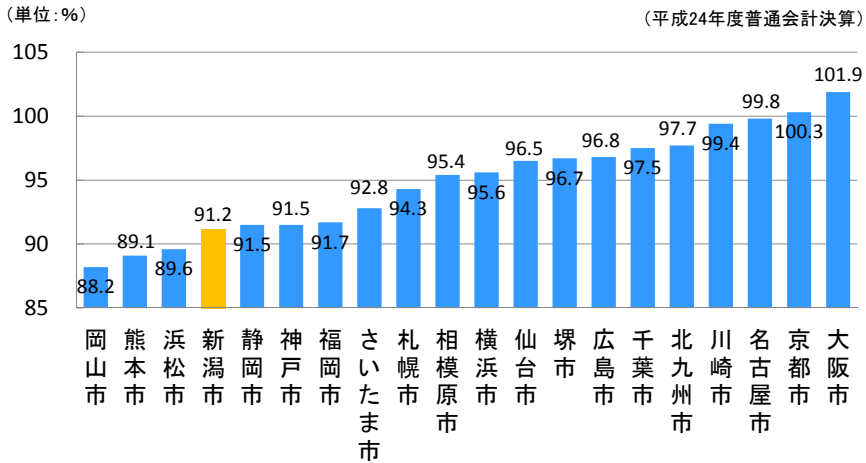
本市の経常収支比率は平成22年度から上昇傾向にあり、平成24年度は91.2%。

18. 財政



政令市別 経常収支比率

資料：新潟市財務課
(平成24年度普通会計決算)



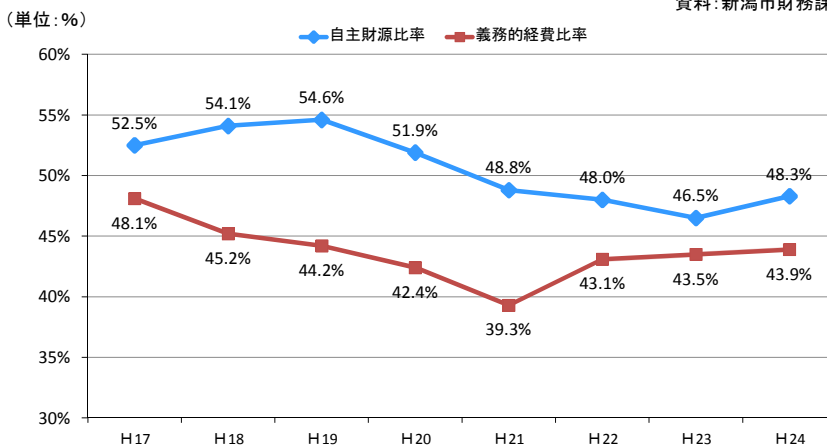
本市の経常収支比率は91.2%で、岡山市、熊本市、浜松市に次いで、政令市20市中4位。

18. 財政



本市の自主財源比率、義務的経費比率の推移

資料：新潟市財務課



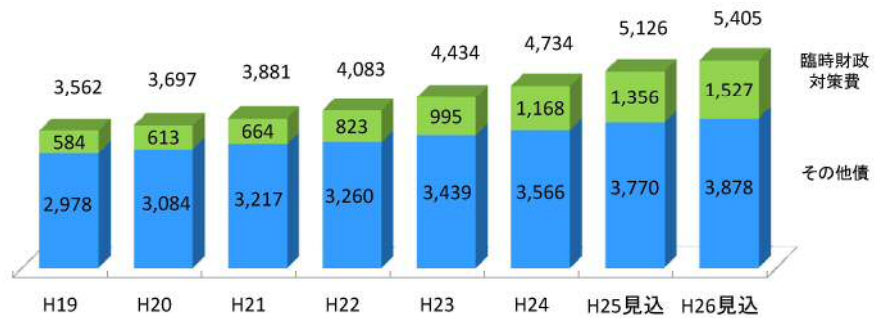
本市の自主財源比率は、平成19年度から減少傾向にあったが、平成24年度に前年から1.8ポイント上昇した。義務的経費比率は、平成21年度まで減少傾向にあったが、平成22年度から上昇している。

18. 財政

本市の市債残高(一般会計)の推移

資料:新潟市財務課

(単位:億円)



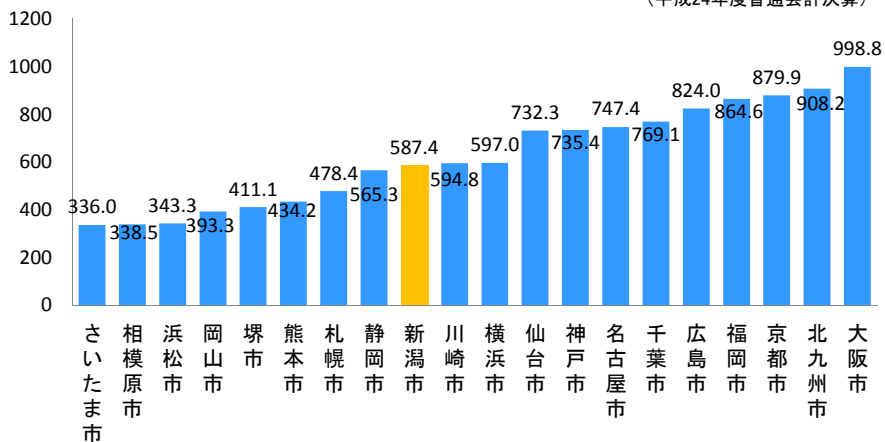
本市の市債残高は、普通交付税の振り替わりである臨時財政対策債の増加などから、平成26年度末では、5,405億円の市債残高が見込まれている。

18. 財政

政令市別 地方債現在高(1人当たり)

(単位:千円)

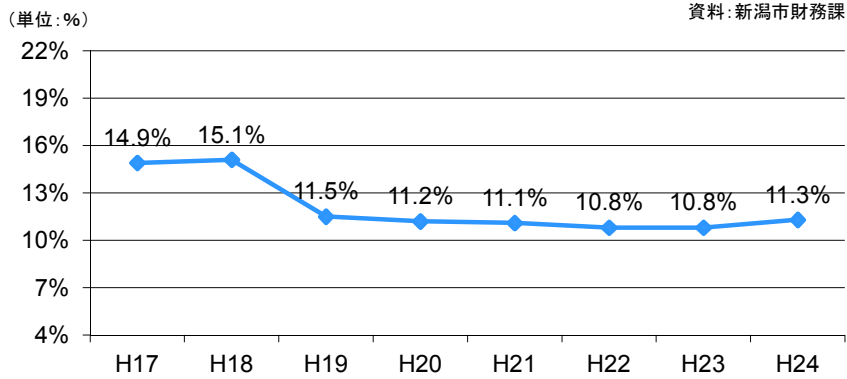
資料:新潟市財務課
(平成24年度普通会計決算)



本市の地方債現在高は、1人当たりで見ると、政令市の中間に位置する。

18. 財政

本市の実質公債費比率の推移

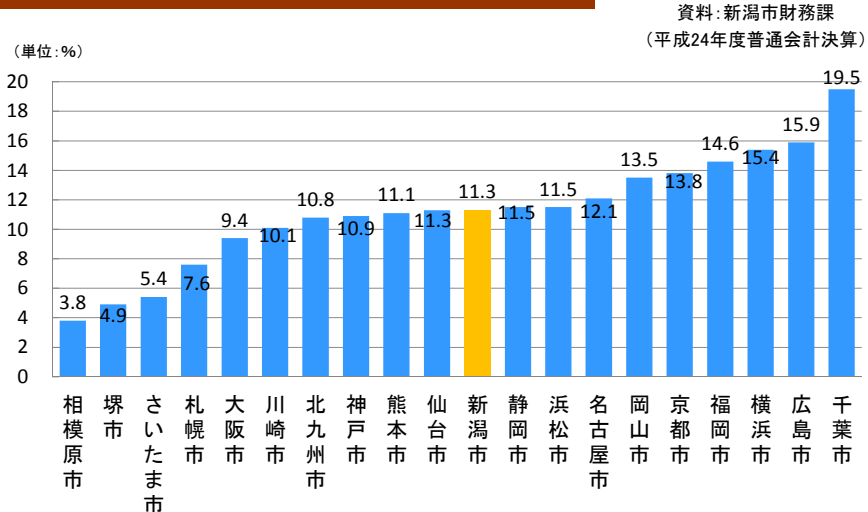


※実質公債費比率:標準的な状態で通常歳入されると見込まれる経常的な一般財源に対して、公債費や公債費に準ずる経費にどれだけの一般財源が充てられたかを表す。18/パーセント以上になると、市債を借り入れる際に国の許可が必要になる。

本市の実質公債費比率は平成19年度以降は11%前後で推移しており、平成24年度は11.3%。

18. 財政

政令市別 実質公債費比率

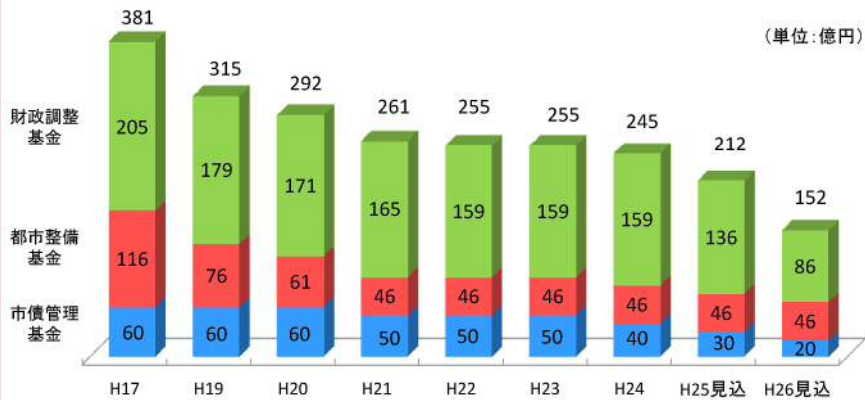


本市の実質公債費比率は11.3%で、政令市の中間に位置する。

18. 財政

本市の基金現在高の推移

資料：新潟市財務課



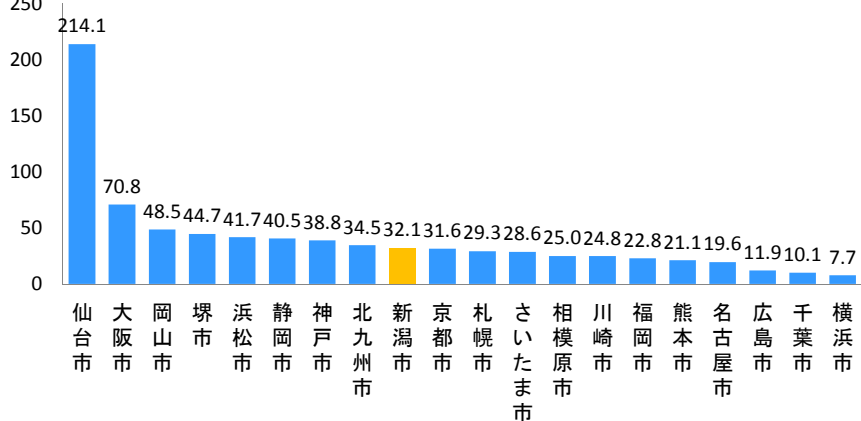
合併により、合併市町村の基金を引き継ぎ増加したが、平成19年度末に残高が大きく減少。平成25年度及び平成26年度も減少する見込み。

18. 財政

政令市別 積立金現在高(1人当たり)

(単位：千円)

資料：新潟市財務課
(平成24年度普通会計決算)



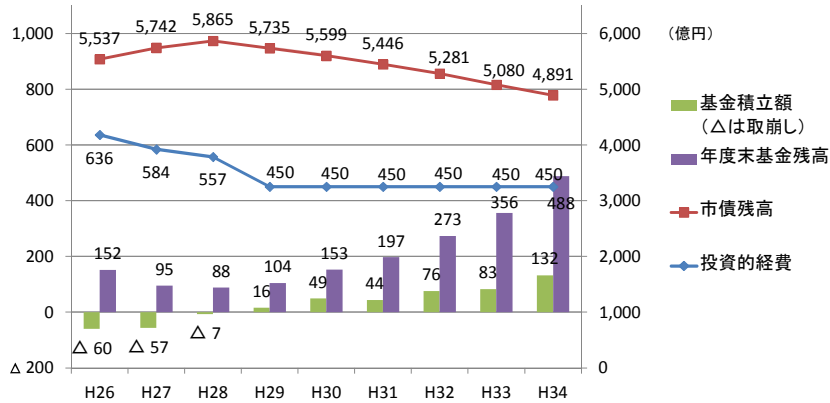
本市の積立金現在高は、1人当たりで見えた場合、政令市の中間に位置する。

18. 財政

本市の中期財政見通しの試算(経済成長シナリオ)

資料:新潟市財務課

平成29年度までは国の財政推計の名目経済成長率3.0%をベースとし、税収の伸率を3.3%で設定。
平成30年度以降は正式な推計が示されていないため、それぞれの伸率を1/2(税収1.7%)で設定。
投資的経費は、平成29年度以降、大合併以前における建設事業(旧合併市町村含む)の実績を考慮。

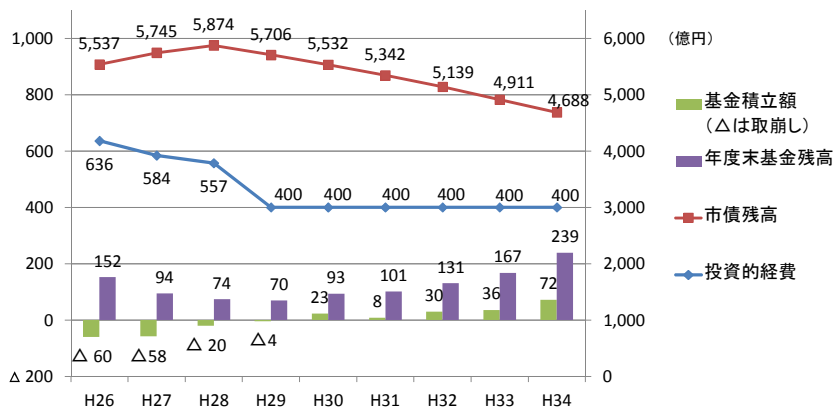


18. 財政

本市の中期財政見通しの試算(現状シナリオ)

資料:新潟市財務課

平成26年度当初予算の実質的な税収伸率1.9%が平成29年度まで継続すると設定。
平成30年度以降は経済成長シナリオと同じく伸率を1/2(税収1.0%)で設定。
投資的経費は、平成29年度以降、税収など一般財源の状況を踏まえ成長シナリオよりも規模を縮小。

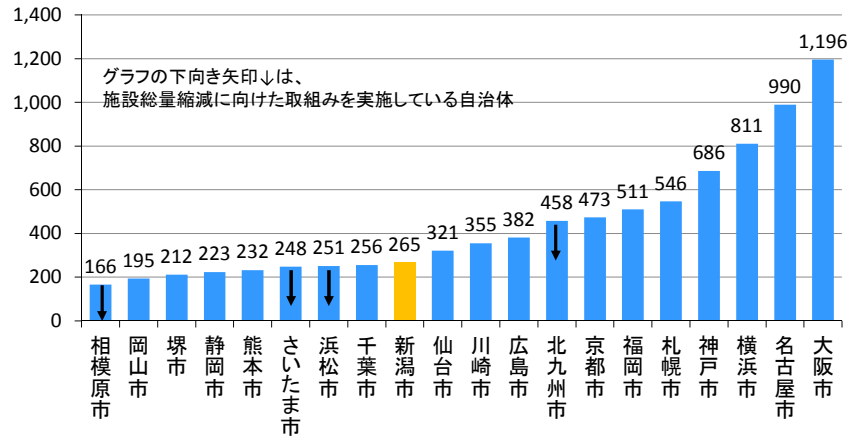


19. 公共施設

政令市別 建物保有状況(行政財産)

(単位: 万㎡)

資料: 「財産に関する調査(平成24年度)」より作成



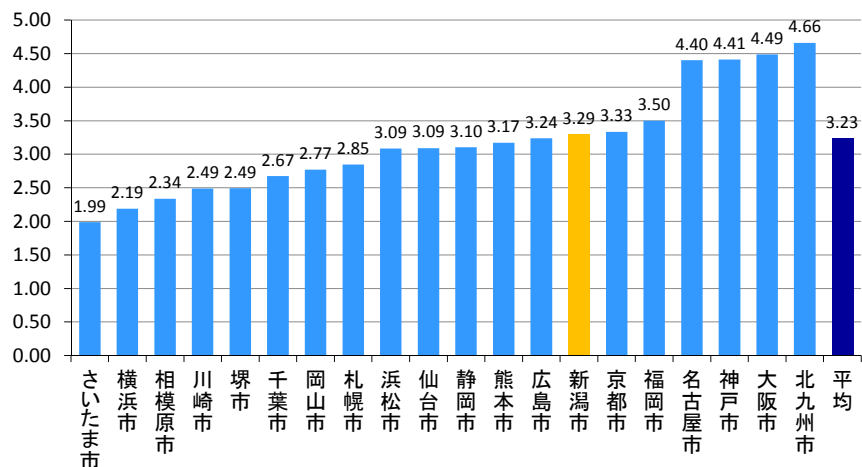
本市の公共施設延床面積は265万㎡で政令指定都市の中では12番目に大きい。最も面積が大きいのは大阪市で1,196万㎡。

19. 公共施設

政令市別 人口1人当たりの建物保有状況(行政財産)

(単位: ㎡/人)

資料: 「財産に関する調査(平成24年度)」より作成

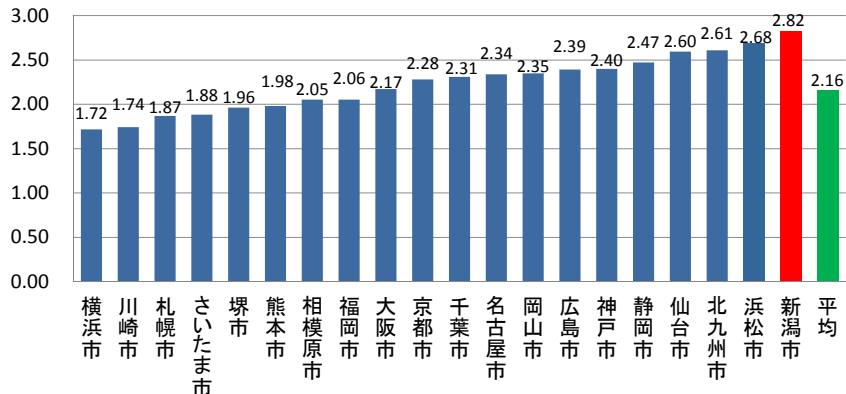


本市の人口1人当たりの建物保有量は3.29㎡で政令指定都市の中では7番目に多く、政令市平均を上回っている。最も面積が大きいのは北九州市で4.66㎡。

19. 公共施設

政令市別 人口1人当たりの建物保有状況(公営住宅以外)

(単位: m²/人) 資料: 公共施設状況調査(H23)



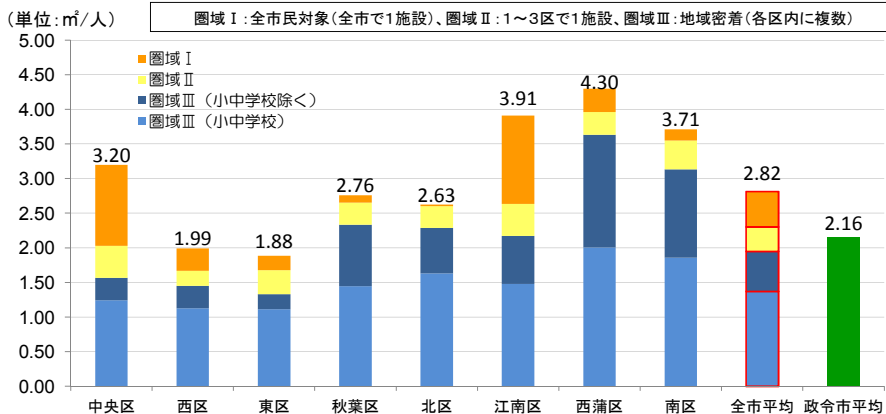
※公営住宅以外の行政財産の比較

公営住宅以外の行政財産の人口1人当たり面積は、本市が政令市間で最も大きい。

19. 公共施設

圏域別 人口1人当たりの建物保有状況(区人口順)

資料: 公共施設状況調査(H23)

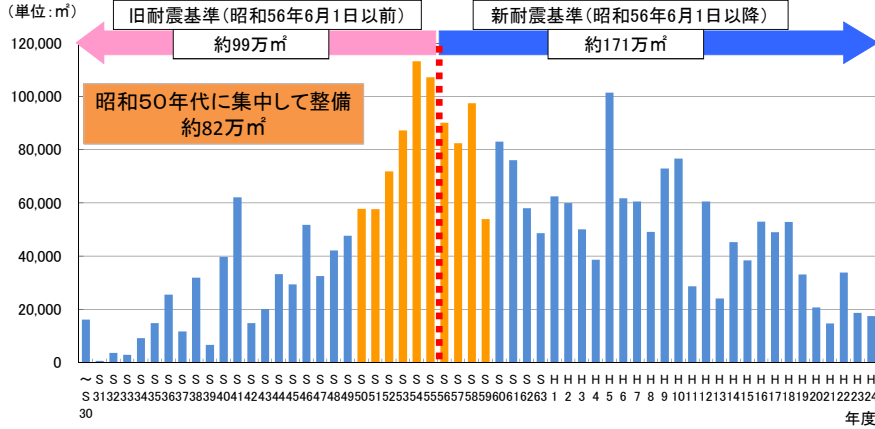


人口1人当たりの施設面積は、西蒲区が4.30m²/人で最も大きく、江南区が3.91m²/人で続いている。最も小さいのは東区で1.88m²/人。江南区は、中央卸売市場、亀田焼却場、舞平処理場などの清掃施設があり、圏域 I (全市民対象)の施設割合が多い。

19. 公共施設

本市における築年別 公共施設の整備状況

資料：新潟市財産白書

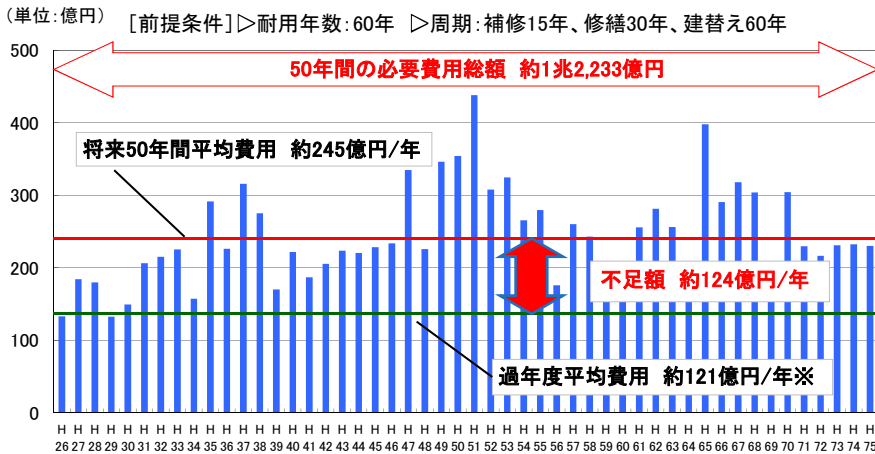


本市では約1,900施設(公有財産台帳ベース)、約270万㎡の公共施設を保有しており、多くの公共施設は昭和50年代に整備されている(約82万㎡)。

19. 公共施設

本市の将来費用算出結果(標準シナリオ)

資料：新潟市
財産白書



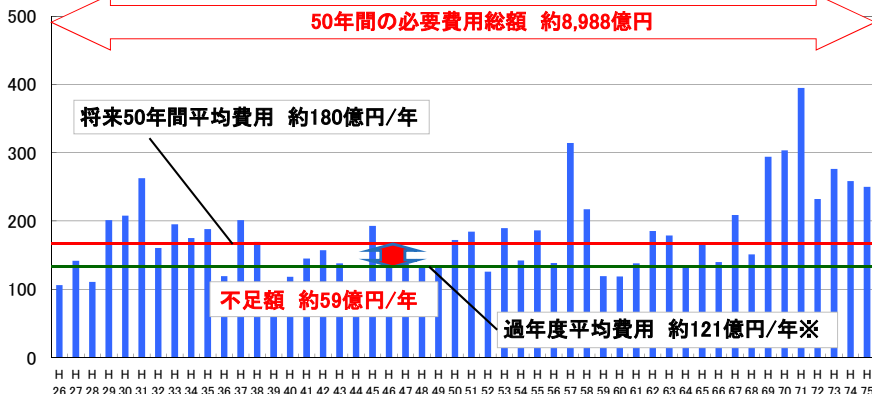
既存の行政財産を現状のまま維持する場合、耐用年数60年の設定では、将来50年間に必要な費用は約1兆2,233億円になり、年度当たりの平均費用は約245億円となる。過年度平均費用は約121億円だったため、毎年度約124億円が不足する。

※過年度平均費用：公共施設に係る投資経費実績(H17～H24年度平均)(合併建設計画分を除く)

19. 公共施設

本市の将来費用算出結果(長寿命化シナリオ)

(単位: 億円) 資料: 新潟市財産白書
 [前提条件]▷耐用年数: 80年 ▷周期: 補修20年、修繕40年、建替え80年



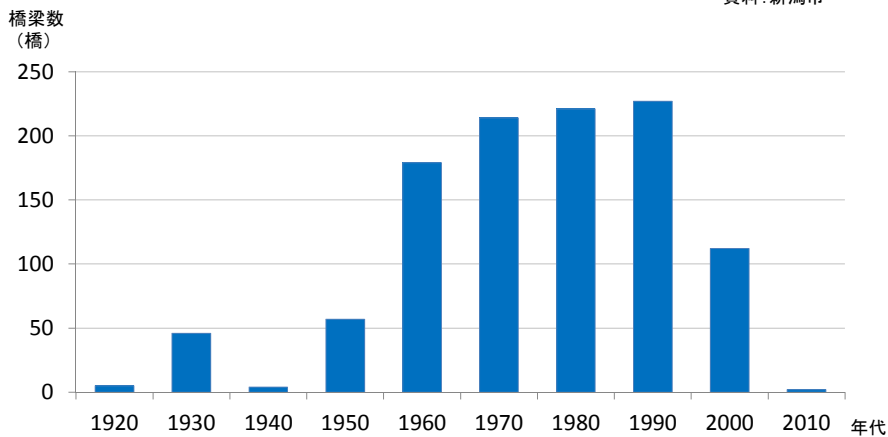
既存の行政財産を現状のまま維持する場合、耐用年数80年の設定では、将来50年間に必要な費用は約8,988億円になり、年度当たりの平均費用は約180億円となる。過年度平均費用は約121億円だったため、毎年度約59億円が不足する。

※過年度平均費用: 公共施設に係る投資経費実績(H17~H24年度平均)(合併建設計画分を除く)

19. 公共施設

本市の架設年次別 橋りょう数

資料: 新潟市

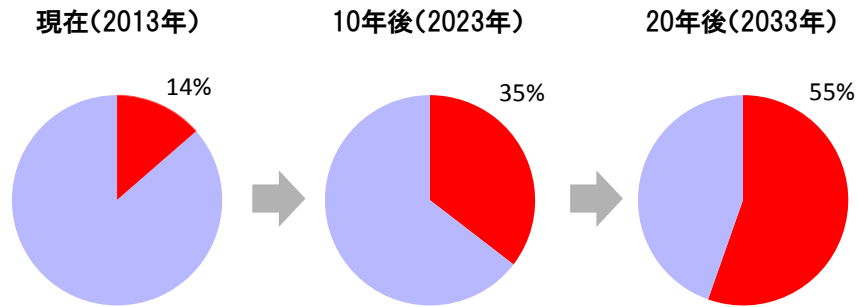


本市で管理する橋梁は、高度経済成長期を中心に多くが建設されている。

19. 公共施設

本市における50年超過橋りょう割合の推計

資料：新潟市

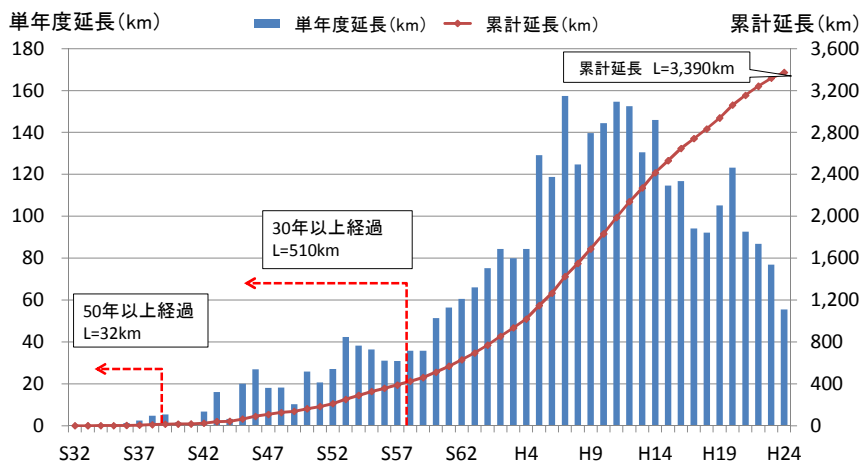


本市で建設後50年を超える橋梁は、2013年の14%から、20年後の2033年には約55%と急激に増加することが予想される。

19. 公共施設

本市における下水道管渠の年度別 整備延長

資料：新潟市下水道部

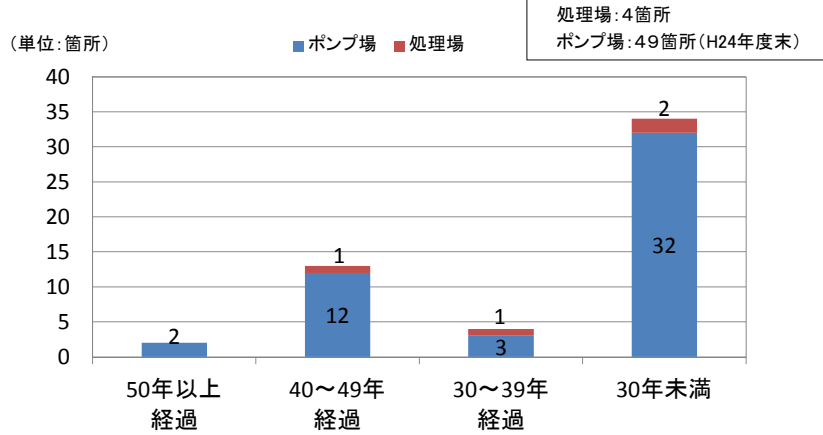


本市の下水道管渠の累計延長をみると、整備から50年以上経過が32km、30年以上経過が510kmとなっている。今後は、老朽管路の急増が見込まれる。

19. 公共施設

本市の経過年度別 下水道施設数

資料：新潟市下水道部

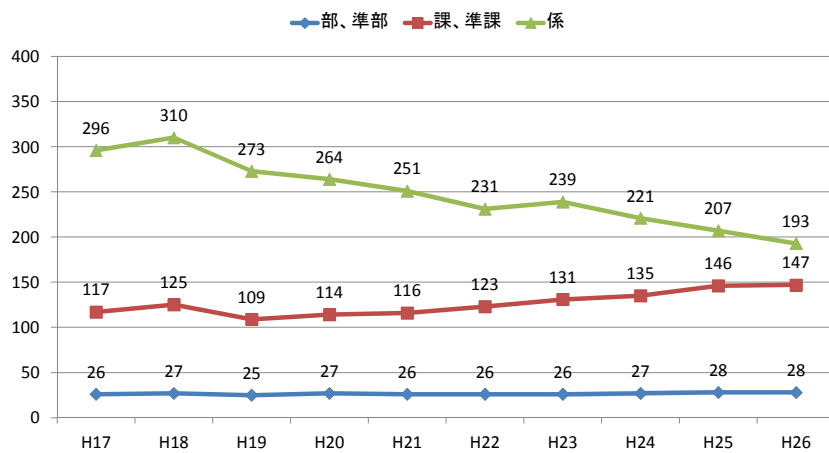


処理場、ポンプ場の老朽化が進行している。

20. 組織

本市の組織数の推移(本庁)

資料：新潟市行政経営課

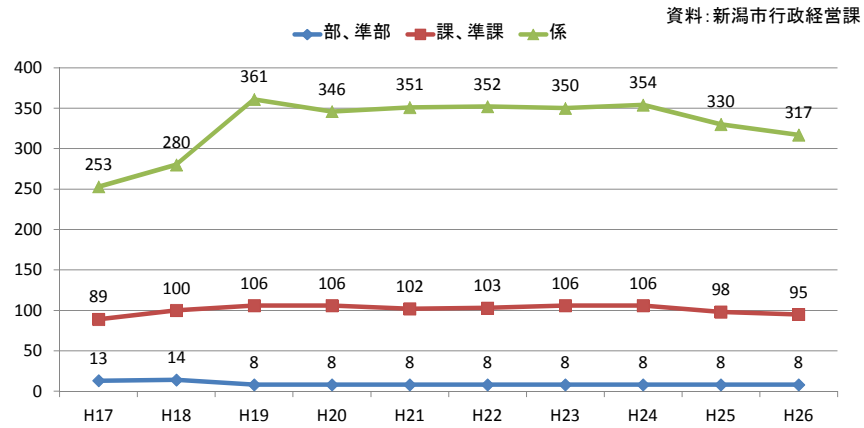


※H18以前の局は含まない ※各年4月1日現在

本市の本庁の組織数は、課等の数が増加傾向であるが、係の数は減少傾向にある。

20. 組織

本市の組織数の推移(区役所)



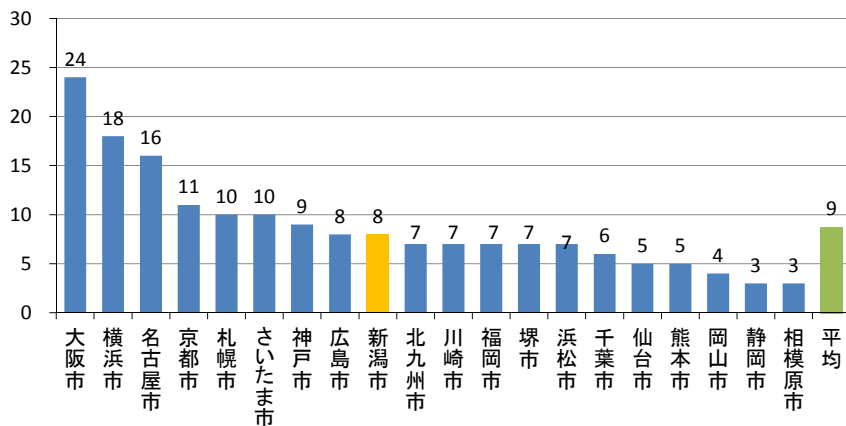
※H17~18は支所 ※各年4月1日現在

本市の区役所(支所)の係の数は平成19年度に大幅に増加し、平成25年度以降は減少している。課の数は100前後で推移している。

20. 組織

政令市別 区の数

資料:第30次地方制度調査会(第15回専門小委員会)



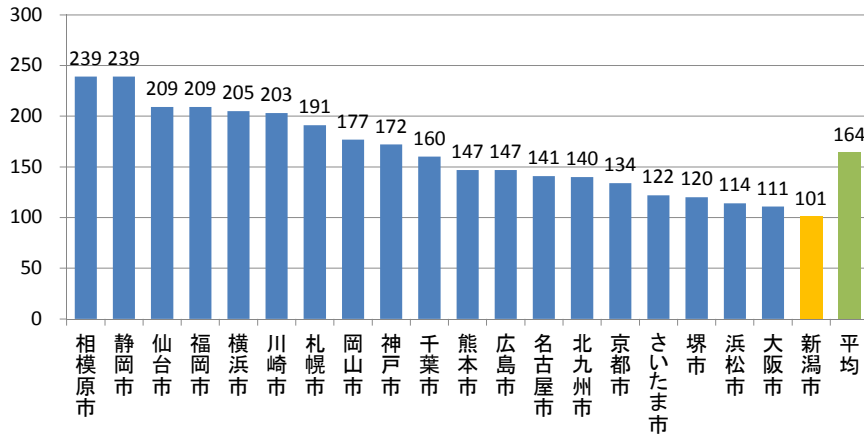
本市の区の数8で、広島市と並んで上位から8番目となっている。

20. 組織

政令市別 1区当たりの平均人口

(単位:千人)

資料:第30次地方制度調査会(第15回専門小委員会)



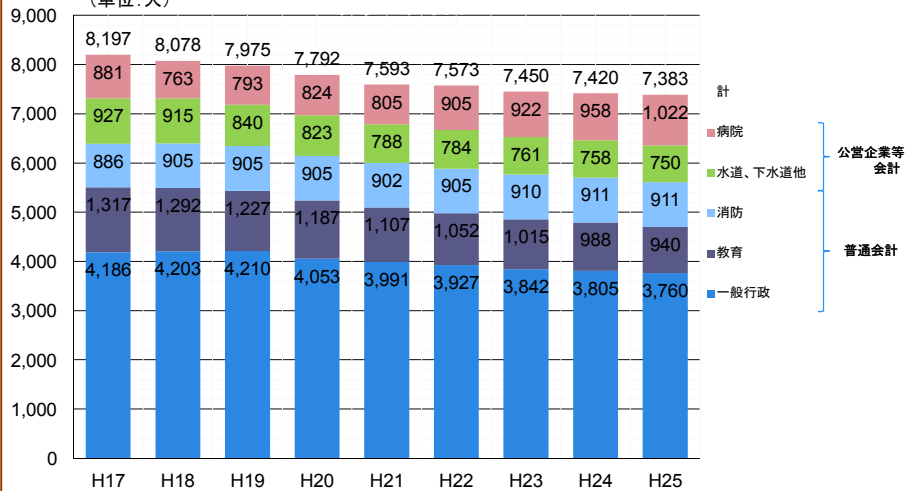
本市の1区当たりの人口は約10万1千人で、政令市中最も少ない。

21. 職員

本市職員数の推移

(単位:人)

資料:総務省 地方公共団体定員管理調査



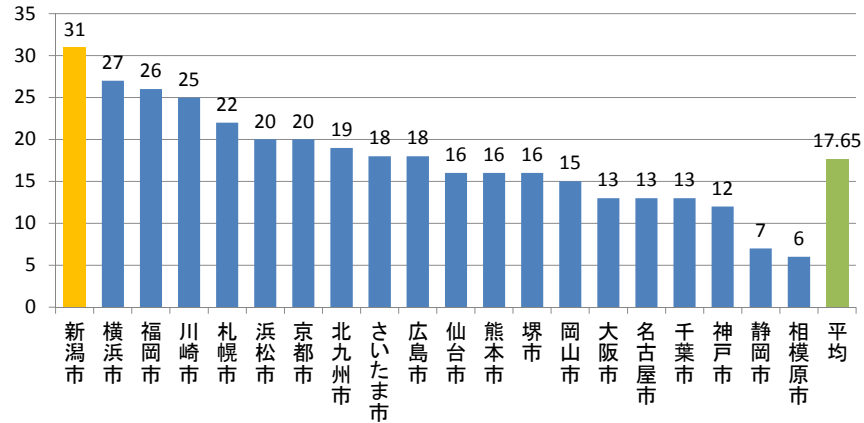
本市全体の職員数は、平成17年4月1日と平成25年4月1日を比較すると、814人減員している。

21. 職員

政令市別 全職員に占める区役所職員の割合

(単位: %)

資料: 第30次地方制度調査会(第15回専門小委員会)



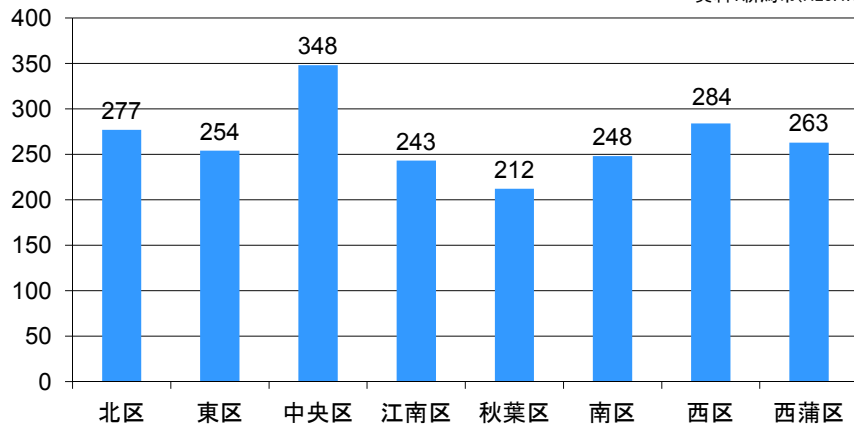
本市の全職員に占める区役所職員の割合は約31%で政令市中第1位となっている。

21. 職員

区別 区役所職員数

(単位: 人)

資料: 新潟市(H25.4.1)



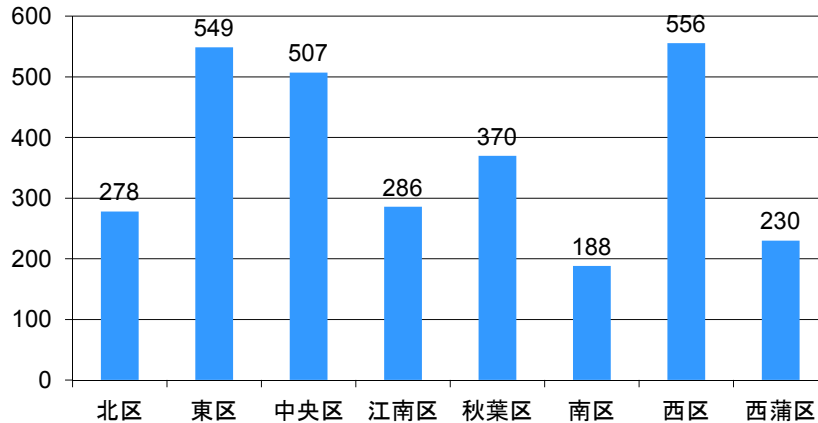
区役所の職員数は中央区が348人で一番多く、西区284人、西蒲区264人と続いている。最も少ないのは、秋葉区で212人。

21. 職員

区別 区役所職員1人当たりの区民数

(単位:人)

資料:新潟市(H25.4.1)



区職員1人当たりの区民の数は、西区556人で一番多く、東区が549人、中央区507人と続いている。最も少ないのは、南区で188人。

22. 市政世論調査

本市における市政についての経年順位

○市として良くなっているもの

資料:市政世論調査(H23~H25年度)

平成25年度 ← 平成24年度 ← 平成23年度

| 順位 | 項目 | ポイント | 項目 | ポイント | 項目 | ポイント |
|----|------------|------|-------------------|------|------------|------|
| 1位 | ごみ処理・リサイクル | 0.76 | 市・区の窓口対応 | 0.70 | ごみ処理・リサイクル | 0.59 |
| 2位 | 市・区の窓口対応 | 0.66 | ごみ処理・リサイクル | 0.64 | 市・区の窓口対応 | 0.50 |
| 3位 | スポーツの振興 | 0.26 | 文化・芸術の振興 | 0.28 | スポーツの振興 | 0.26 |
| 4位 | 文化・芸術の振興 | 0.23 | 公共下水道の整備 | 0.20 | 道路の整備 | 0.16 |
| 5位 | 公共下水道の整備 | 0.18 | 道路の整備 電子手続きの推進 | 0.18 | 文化・芸術の振興 | 0.15 |

※ポイントについて

【第1位回答】に3ポイント、【第2位回答】に2ポイント、【第3位回答】に1ポイントを与え、ウエイトをかけ平均点を算出。平均点の高さで順位づけしている。

「ごみ処理・リサイクル」、「市・区の窓口対応」は各年とも高いポイントで推移している。このほか、平成25年度は「スポーツの振興」、「文化・芸術の振興」、「公共下水道の整備」が続いている。

22. 市政世論調査

花開く活力、
広がる笑顔。
政令市新潟



本市における市政についての経年順位

〇市として今後もっと力を入れてほしいもの

資料：市政世論調査(H23～H25年度)

平成25年度



平成24年度



平成23年度

| 順位 | 項目 | ポイント | 項目 | ポイント | 項目 | ポイント |
|----|----------|------|-----------------|------|----------|------|
| 1位 | 高齢者福祉 | 0.47 | 雇用の場の拡大 | 0.55 | 高齢者福祉 | 0.55 |
| 2位 | 雇用の場の拡大 | 0.44 | 高齢者福祉 | 0.34 | 雇用の場の拡大 | 0.43 |
| 3位 | 公共交通の充実 | 0.32 | まちなかの活性化 | 0.33 | まちなかの活性化 | 0.33 |
| 4位 | まちなかの活性化 | 0.30 | 防災対策 保健・医療体制 | 0.32 | 保健・医療体制 | 0.30 |
| 5位 | 保健・医療体制 | 0.27 | 公共交通の充実 | 0.28 | 公共交通の充実 | 0.29 |

※ポイントについて

【第1位回答】に3ポイント、【第2位回答】に2ポイント、【第3位回答】に1ポイントを与え、ウエイトをかけ平均点を算出。平均点の高さで順位づけしている。

今後もっと力を入れてほしいものは「高齢者福祉」及び「雇用の場の拡大」が高く推移しており、「公共交通の充実」、「まちなかの活性化」、「保健・医療体制」が続いている。